

第2章

高齢者を取り巻く状況

～現状、傾向、推計～

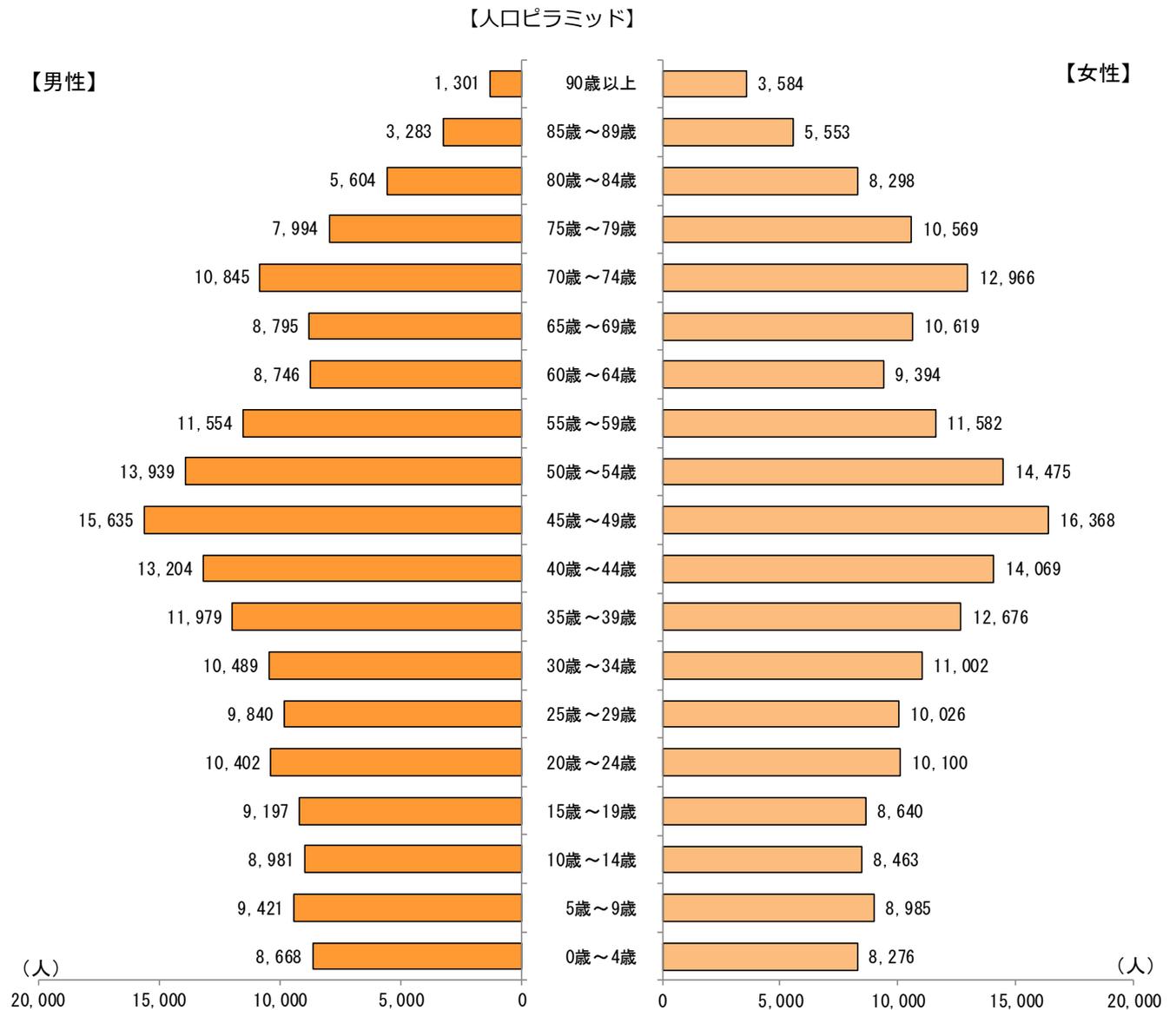
第2章 高齢者を取り巻く状況～現状、傾向、推計～

1 65歳以上の人口と割合

(1) 人口の推移

① 現状

令和2年（2020年）9月末日現在の人口ピラミッドをみると、男女ともに45～49歳が最も多く、男性15,635人、女性16,368人となっています。



※資料：住民基本台帳 令和2年（2020年）9月末日現在

② 年齢別人口及び割合の推移

人口の推移をみると、総人口は増加傾向にあり、令和2年（2020年）では375,522人となっています。

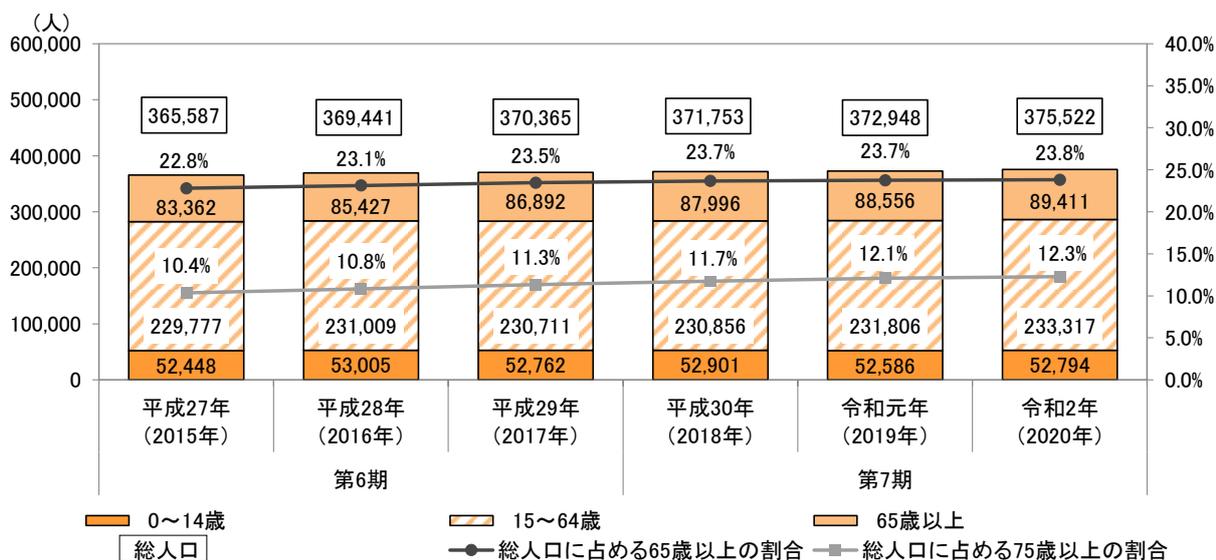
65歳以上の人口も増加傾向にあり、令和2年（2020年）では89,411人と、平成27年（2015年）の83,362人から6,049人増加しています。

総人口に占める65歳以上の割合も少しずつ上昇し、令和2年（2020年）では23.8%となっています。また、総人口に占める75歳以上の割合は、令和2年（2020年）で12.3%となっています。

【年齢別人口及び割合の推移】

単位：人

区分	第6期			第7期		
	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)
総人口	365,587	369,441	370,365	371,753	372,948	375,522
0～14歳	52,448	53,005	52,762	52,901	52,586	52,794
15～64歳	229,777	231,009	230,711	230,856	231,806	233,317
40～64歳	123,773	124,692	125,353	126,238	127,308	128,966
65歳以上	83,362	85,427	86,892	87,996	88,556	89,411
65～74歳	45,512	45,393	44,940	44,390	43,397	43,225
75～84歳	27,944	29,481	30,561	31,464	32,391	32,465
85歳以上	9,906	10,553	11,391	12,142	12,768	13,721
総人口に占める65歳以上の割合	22.8%	23.1%	23.5%	23.7%	23.7%	23.8%
総人口に占める75歳以上の割合	10.4%	10.8%	11.3%	11.7%	12.1%	12.3%



※資料：住民基本台帳 各年9月末日現在

③ 年齢別人口及び割合の推計

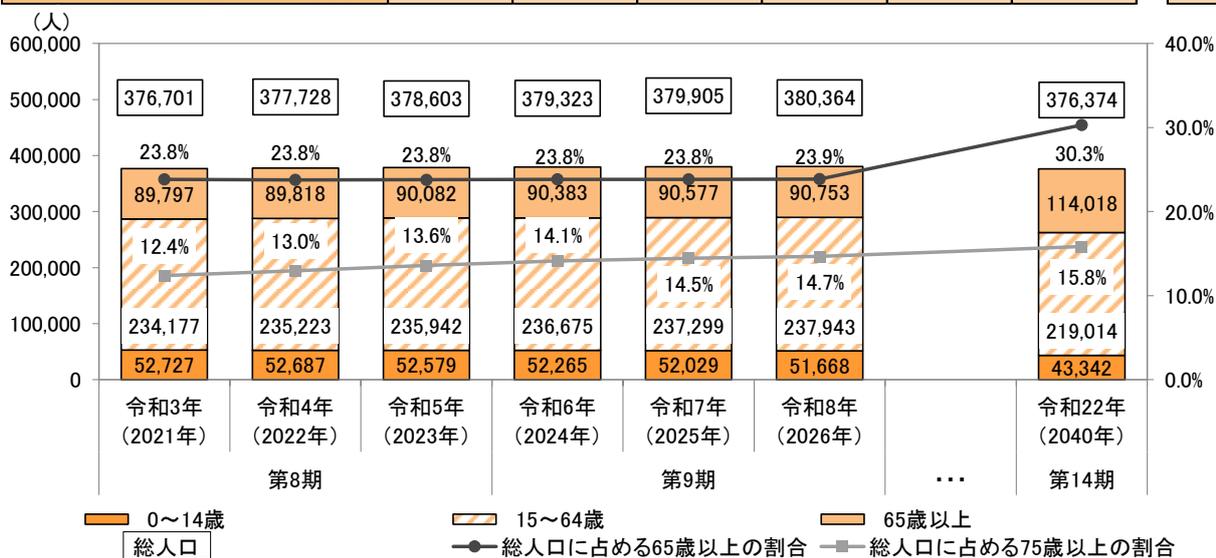
将来人口の推計をみると、総人口は今後も増加傾向にあり、令和5年(2023年)では378,603人と、令和2年(2020年)から3,081人増加する見込みとなっています。その後も増加は続き、令和7年(2025年)では379,905人となっていますが、令和22年(2040年)では376,374人と減少しています。

65歳以上の人口は、今後も増加傾向にあり、令和5年(2023年)では90,082人と、令和2年(2020年)から671人増加する見込みとなっています。その後も増加は続き、令和22年(2040年)には114,018人となる見込みです。

総人口に占める65歳以上の割合は、令和3年(2021年)から令和8年(2026年)までは横ばいで推移しますが、総人口に占める75歳以上の割合は微増傾向で推移する見込みです。

【年齢別人口及び割合の推計】

区分	第8期			第9期			第14期
	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)	令和22年 (2040年)
総人口	376,701	377,728	378,603	379,323	379,905	380,364	376,374
0～14歳	52,727	52,687	52,579	52,265	52,029	51,668	43,342
15～64歳	234,177	235,223	235,942	236,675	237,299	237,943	219,014
40～64歳	129,968	131,242	132,329	133,168	133,847	134,289	120,158
65歳以上	89,797	89,818	90,082	90,383	90,577	90,753	114,018
65～74歳	43,192	40,840	38,640	36,754	35,665	34,977	54,439
75～84歳	31,887	33,496	35,339	37,074	37,715	37,571	33,030
85歳以上	14,718	15,482	16,103	16,555	17,197	18,205	26,549
総人口に占める65歳以上の割合	23.8%	23.8%	23.8%	23.8%	23.8%	23.9%	30.3%
総人口に占める75歳以上の割合	12.4%	13.0%	13.6%	14.1%	14.5%	14.7%	15.8%



※資料：住民基本台帳人口に基づき*コーホート変化率法で推計。令和22年(2040年)のみ第7期計画策定時における推計人口を調整。

④ 65歳以上人口及び割合の推移

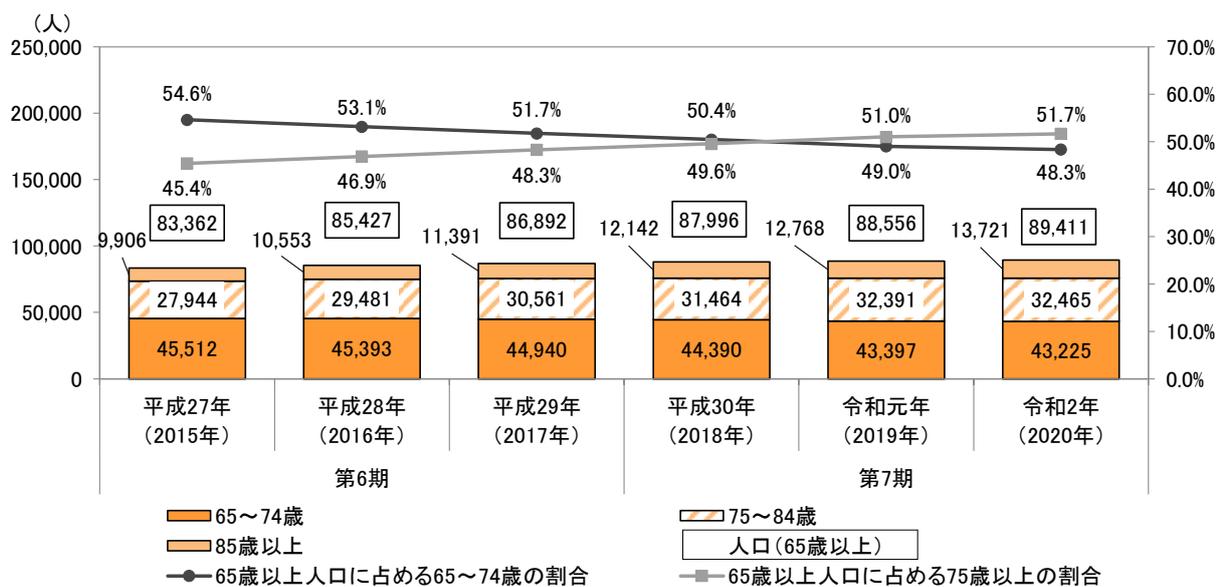
65歳以上人口の推移をみると、65～74歳は減少傾向、75歳以上は増加傾向にあり、令和2年（2020年）では65～74歳が43,225人、75歳以上が46,186人と、平成27年（2015年）から65～74歳が2,287人の減少、75歳以上が8,336人の増加となっています。

65歳以上人口に占める65～74歳の割合、75歳以上の割合は、令和元年（2019年）に逆転しています。

【65歳以上人口及び割合の推移】

単位：人

区分	第6期			第7期		
	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)
人口(65歳以上)	83,362	85,427	86,892	87,996	88,556	89,411
65～74歳	45,512	45,393	44,940	44,390	43,397	43,225
75歳以上	37,850	40,034	41,952	43,606	45,159	46,186
【再掲】75～84歳	27,944	29,481	30,561	31,464	32,391	32,465
【再掲】85歳以上	9,906	10,553	11,391	12,142	12,768	13,721
65歳以上人口に占める65～74歳の割合	54.6%	53.1%	51.7%	50.4%	49.0%	48.3%
65歳以上人口に占める75歳以上の割合	45.4%	46.9%	48.3%	49.6%	51.0%	51.7%



※資料：住民基本台帳 各年9月末日現在

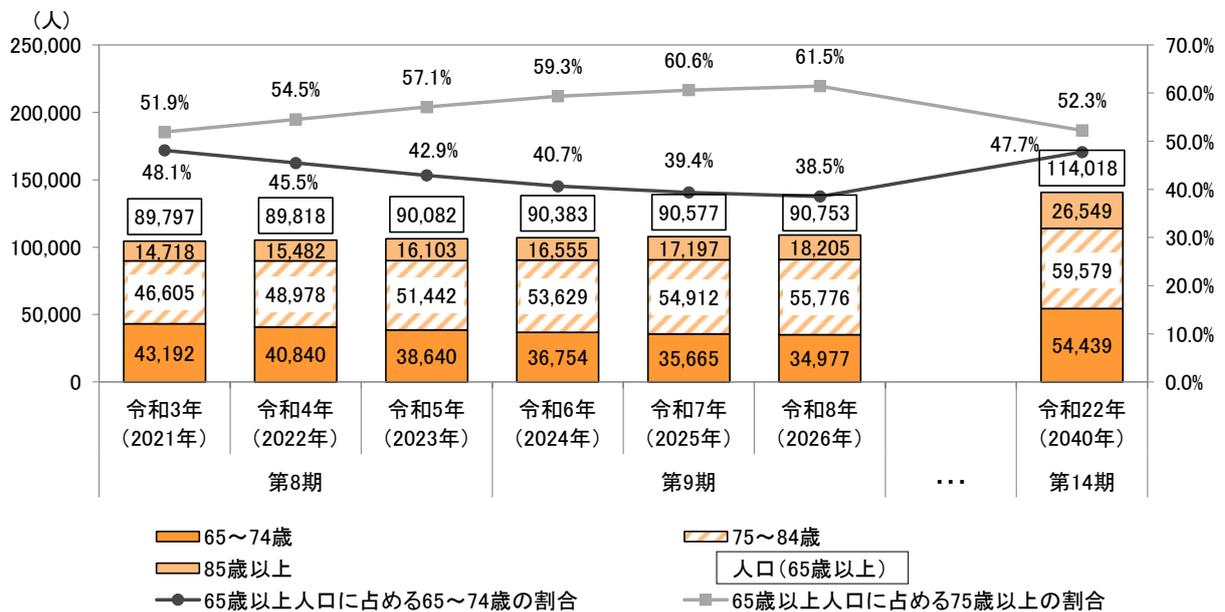
⑤ 65歳以上人口及び割合の推計

65歳以上人口の推移をみると、令和3年（2021年）以降、65～74歳は減少傾向、75歳以上は増加傾向となり、令和5年（2023年）では65～74歳が38,640人、75歳以上が51,442人となっています。

65歳以上人口に占める65～74歳、75歳以上の割合は今後差が開き続け、令和8年（2026年）では65歳以上人口に占める65～74歳、75歳以上の割合の差が23.0ポイントとなっていますが、令和22年（2040年）には4.6ポイントにまで縮小する見込みとなっています。

【65歳以上人口及び割合の推計】

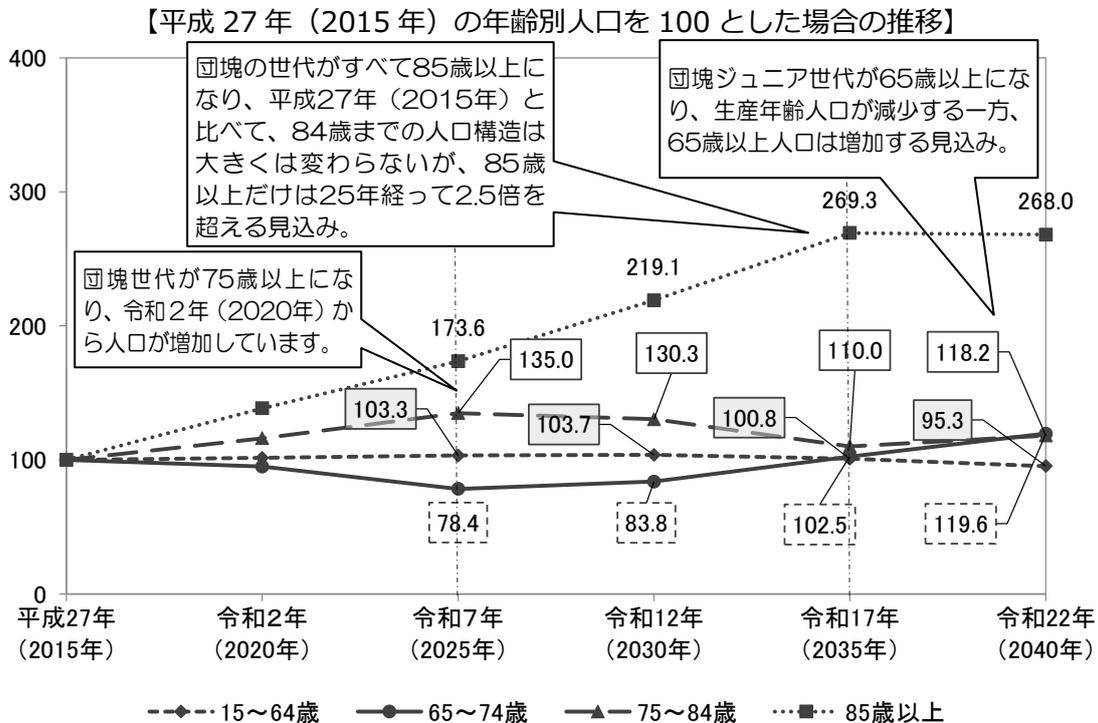
区分	第8期			第9期			第14期
	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和6年 (2024年)	令和7年 (2025年)	令和8年 (2026年)	令和22年 (2040年)
人口(65歳以上)	89,797	89,818	90,082	90,383	90,577	90,753	114,018
65～74歳	43,192	40,840	38,640	36,754	35,665	34,977	54,439
75歳以上	46,605	48,978	51,442	53,629	54,912	55,776	59,579
【再掲】75～84歳	31,887	33,496	35,339	37,074	37,715	37,571	33,030
【再掲】85歳以上	14,718	15,482	16,103	16,555	17,197	18,205	26,549
65歳以上人口に占める65～74歳の割合	48.1%	45.5%	42.9%	40.7%	39.4%	38.5%	47.7%
65歳以上人口に占める75歳以上の割合	51.9%	54.5%	57.1%	59.3%	60.6%	61.5%	52.3%



※資料：住民基本台帳人口に基づきコーホート変化率法で推計。令和22年（2040年）のみ第7期計画策定時における推計人口を調整。

⑥ 平成27年（2015年）の年齢別人口を100とした場合の推移

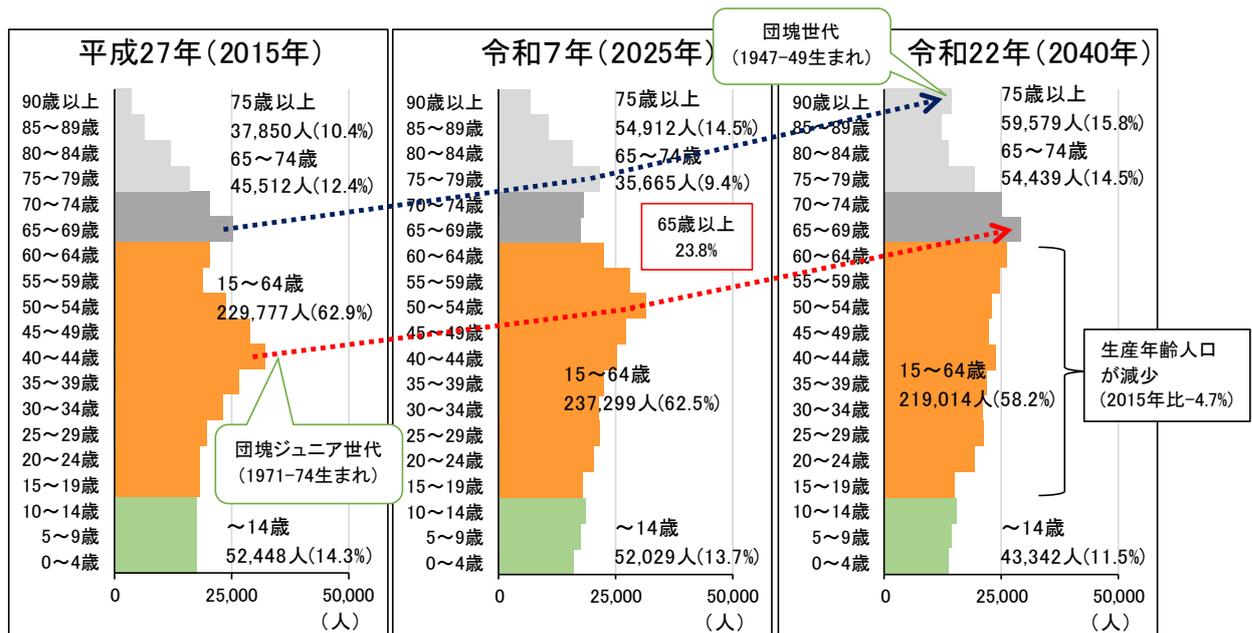
平成27年（2015年）の人口を100とした推移をみると、85歳以上人口が大きく増加し、令和22年（2040年）には平成27年（2015年）の約2.7倍になると見込まれます。



※ 資料：令和2年（2020年）までは住民基本台帳（各年9月末日現在）、令和7年（2025年）は住民基本台帳人口に基づくコーホート変化率法による推計、令和22年（2040年）は第7期計画策定時における推計人口を調整した値。

⑦ 人口ピラミッドによる推計

人口ピラミッドによる推計をみると、平成27年（2015年）から令和22年（2040年）にかけて徐々に逆ピラミッド型となることを見込まれます。

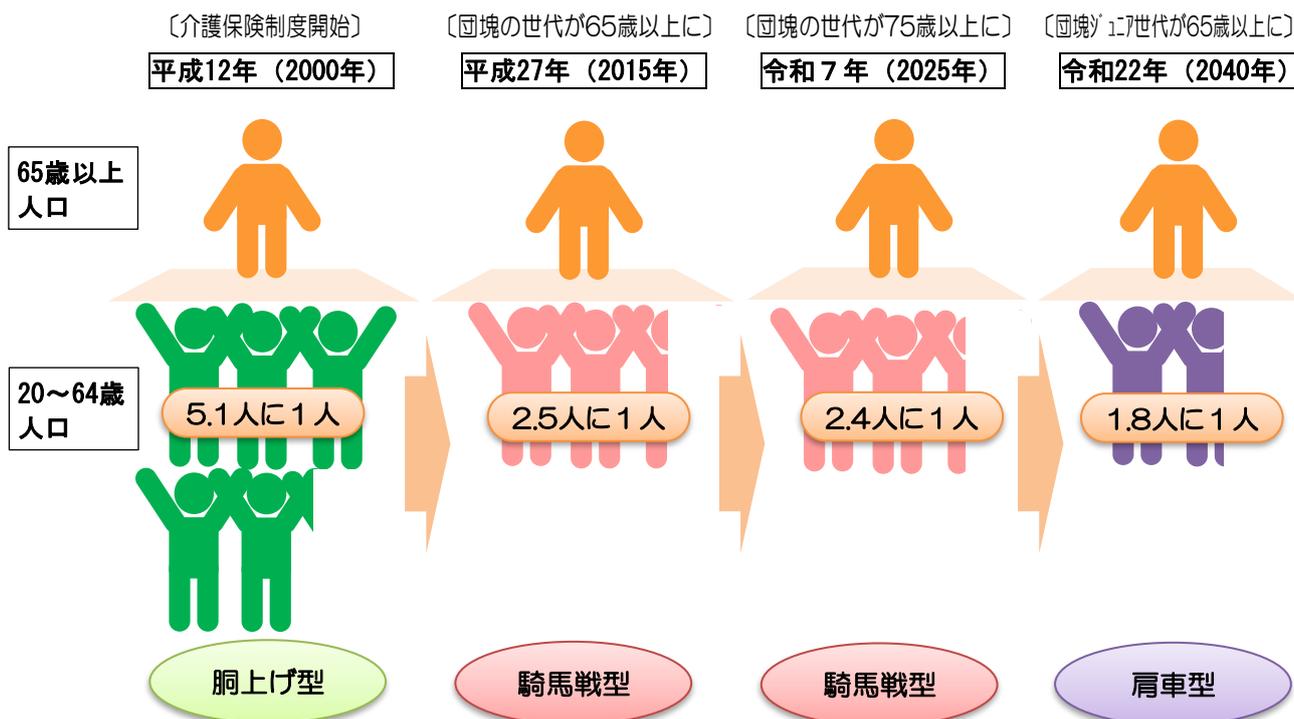


※ 資料：平成27年（2015年）実績は住民基本台帳9月末日。令和7年（2025年）は住民基本台帳人口に基づくコーホート変化率法による推計、令和22年（2040年）は第7期計画策定時における推計人口を調整した値。

⑧ 現役世代の負担割合

介護保険制度開始時には65歳以上の方1人に対し現役世代（20～64歳）が5.1人で支える『胴上げ型』であったものが、団塊ジュニア世代が65歳以上になる令和22年（2040年）には現役世代1.8人で一人を支える『肩車型』となる見込みです。全国平均では、1.5人に1人、大阪府平均では1.4人に1人となる見込みであり、同じ『肩車型』でも国や大阪府に比べ支える側が多くなっています。

【現役世代の負担割合】



(単位：人)

	平成12年 (2000年)	平成27年 (2015年)	令和7年 (2025年)	令和22年 (2040年)
65歳以上	44,885	83,362	90,577	114,018
20～64歳	229,868	211,700	219,505	204,031
人数比	5.1	2.5	2.4	1.8

仮に65～74歳を「支える側」として人数を数えると…

(単位：人)

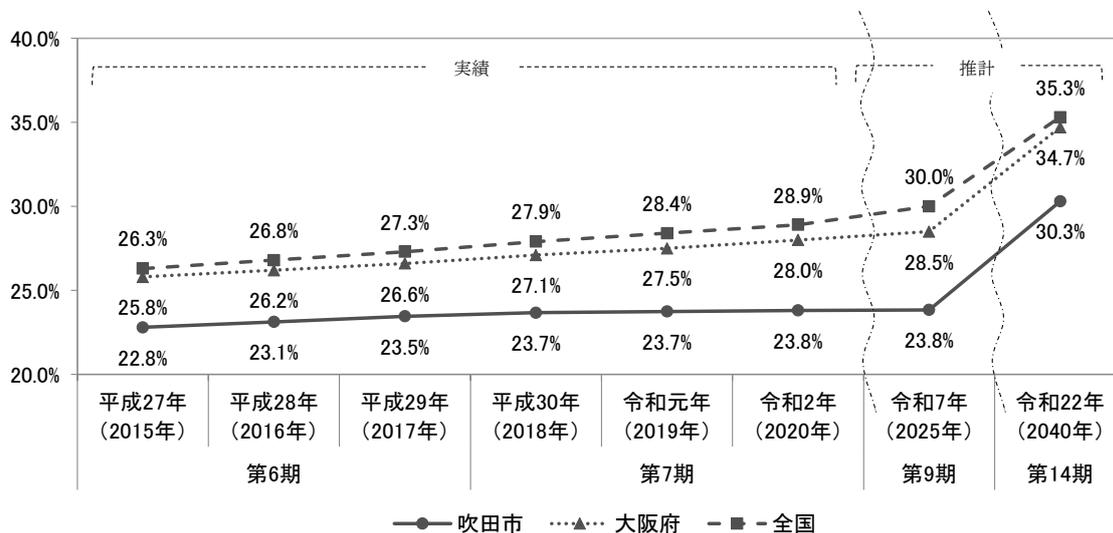
75歳以上	16,094	37,850	54,912	59,579
20～74歳	258,659	257,212	255,170	258,470
人数比	16.1	6.8	4.6	4.3

※資料：平成12年（2000年）は国勢調査（10月1日現在）、平成27年（2015年）は住民基本台帳（9月末日現在）に基づく実績値。令和7年（2025年）は住民基本台帳に基づくコーホート変化率法、令和22年（2040年）は第7期計画策定時における推計人口を調整して算出した推計値

⑨ 総人口に占める65歳以上人口の割合の比較

総人口に占める65歳以上人口の割合をみると、吹田市は、全国、大阪府と比べて低くなっています。平成27年（2015年）から令和2年（2020年）にかけての伸び率も、全国と府を下回っています。

【吹田市と国、大阪府の総人口に占める65歳以上人口の割合の推移】



※資料：市は住民基本台帳 各年9月末日現在
 大阪府、全国は総務省「国勢調査」および国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

(2) サービス整備圏域別 65歳以上人口の推移及び推計

第8期計画期間におけるサービス整備圏域別人口の推移及び推計をみると、令和7年(2025年)までは各圏域において総人口、65歳以上人口ともに概ね増加傾向となりますが、山田・千里丘地域の65歳以上人口は令和4年(2021年)から令和7年(2025年)にかけて微減します。

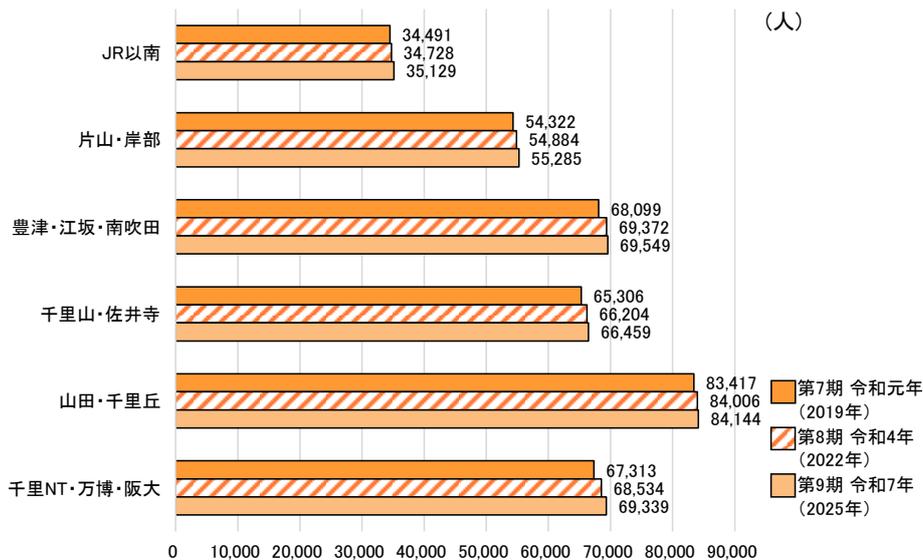
【65歳以上人口の推移及び推計】

単位：人

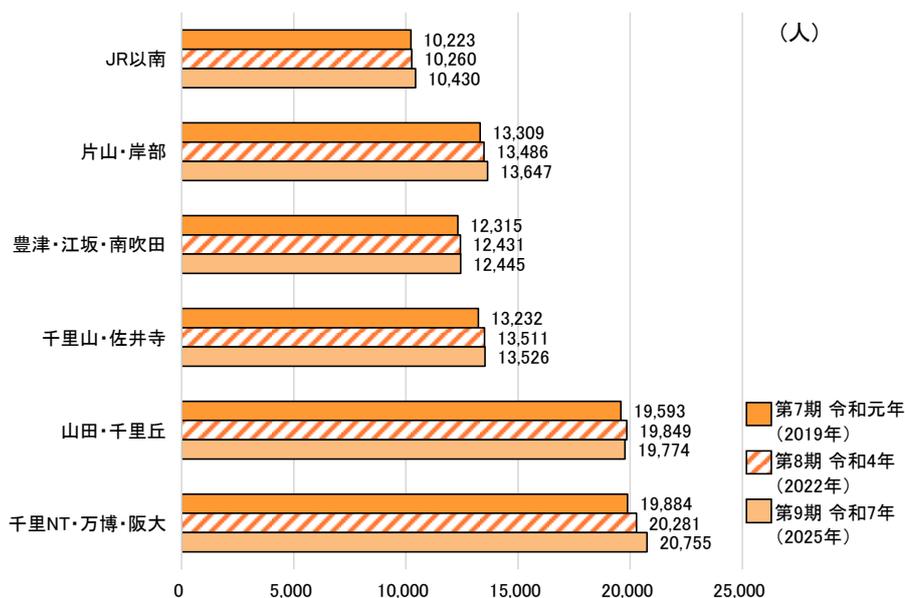
		推移					推計			
		第7期		第8期			第9期	第14期		
		平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2021年)	令和5年 (2022年)	令和7年 (2025年)	令和22年 (2040年)	
JR以南	総人口	34,674	34,491	34,394	34,559	34,728	34,878	35,129	35,511	
	65歳以上	10,319	10,223	10,148	10,213	10,260	10,326	10,430	12,970	
	65歳～74歳	4,757	4,580	4,479	4,485	4,240	4,005	3,684	5,597	
	75歳以上	5,562	5,643	5,669	5,728	6,020	6,321	6,746	7,373	
	【再掲】75～84歳	3,932	3,960	3,919	3,851	4,045	4,267	4,552	3,987	
	【再掲】85歳以上	1,630	1,683	1,750	1,877	1,975	2,054	2,194	3,386	
	総人口に占める65歳以上の割合	29.8%	29.6%	29.5%	29.6%	29.5%	29.6%	29.7%	36.5%	
	総人口に占める75歳以上の割合	16.0%	16.4%	16.5%	13.0%	12.2%	11.5%	10.5%	15.8%	
片山・岸部	総人口	54,271	54,322	54,540	54,708	54,884	55,040	55,285	54,916	
	65歳以上	13,333	13,309	13,410	13,463	13,486	13,545	13,647	17,082	
	65歳～74歳	6,654	6,387	6,305	6,304	5,960	5,636	5,197	7,923	
	75歳以上	6,679	6,922	7,105	7,159	7,526	7,909	8,450	9,159	
	【再掲】75～84歳	4,844	4,998	5,028	4,931	5,181	5,470	5,844	5,119	
	【再掲】85歳以上	1,835	1,924	2,077	2,228	2,345	2,439	2,606	4,040	
	総人口に占める65歳以上の割合	24.6%	24.5%	24.6%	24.6%	24.6%	24.6%	24.7%	31.1%	
	総人口に占める75歳以上の割合	12.3%	12.7%	13.0%	11.5%	10.9%	10.2%	9.4%	14.4%	
豊津・江坂・南吹田	総人口	67,062	68,099	69,141	69,288	69,372	69,424	69,549	67,971	
	65歳以上	12,274	12,315	12,442	12,473	12,431	12,430	12,445	15,751	
	65歳～74歳	6,658	6,456	6,434	6,424	6,074	5,751	5,316	8,130	
	75歳以上	5,616	5,859	6,008	6,049	6,357	6,679	7,129	7,621	
	【再掲】75～84歳	4,101	4,249	4,308	4,225	4,440	4,686	5,006	4,385	
	【再掲】85歳以上	1,515	1,610	1,700	1,824	1,917	1,993	2,123	3,236	
	総人口に占める65歳以上の割合	18.3%	18.1%	18.0%	18.0%	17.9%	17.9%	17.9%	23.2%	
	総人口に占める75歳以上の割合	8.4%	8.6%	8.7%	9.3%	8.8%	8.3%	7.6%	12.0%	
千里山・佐井寺	総人口	65,001	65,306	65,903	66,075	66,204	66,308	66,459	65,324	
	65歳以上	13,011	13,232	13,539	13,565	13,511	13,503	13,526	17,449	
	65歳～74歳	7,151	7,124	7,177	7,156	6,768	6,414	5,943	9,115	
	75歳以上	5,860	6,108	6,362	6,409	6,743	7,089	7,583	8,334	
	【再掲】75～84歳	4,187	4,380	4,494	4,407	4,631	4,889	5,222	4,575	
	【再掲】85歳以上	1,673	1,728	1,868	2,002	2,112	2,200	2,361	3,759	
	総人口に占める65歳以上の割合	20.0%	20.3%	20.5%	20.5%	20.4%	20.4%	20.4%	26.7%	
	総人口に占める75歳以上の割合	9.0%	9.4%	9.7%	10.8%	10.2%	9.7%	8.9%	14.0%	
山田・千里丘	総人口	83,703	83,417	83,741	83,916	84,006	84,073	84,144	83,156	
	65歳以上	19,251	19,593	19,930	19,954	19,849	19,806	19,774	25,105	
	65歳～74歳	10,922	10,732	10,711	10,713	10,129	9,576	8,825	13,443	
	75歳以上	8,329	8,861	9,219	9,241	9,720	10,230	10,949	11,662	
	【再掲】75～84歳	6,248	6,672	6,848	6,698	7,042	7,442	7,964	6,978	
	【再掲】85歳以上	2,081	2,189	2,371	2,543	2,678	2,788	2,985	4,684	
	総人口に占める65歳以上の割合	23.0%	23.5%	23.8%	23.8%	23.6%	23.6%	23.5%	30.2%	
	総人口に占める75歳以上の割合	10.0%	10.6%	11.0%	12.8%	12.1%	11.4%	10.5%	16.2%	
千里NT・万博・阪大	総人口	67,042	67,313	67,803	68,155	68,534	68,880	69,339	69,496	
	65歳以上	19,808	19,884	19,942	20,129	20,281	20,472	20,755	25,661	
	65歳～74歳	8,248	8,118	8,119	8,110	7,669	7,258	6,700	10,231	
	75歳以上	11,560	11,766	11,823	12,019	12,612	13,214	14,055	15,430	
	【再掲】75～84歳	8,152	8,132	7,868	7,775	8,157	8,585	9,127	7,986	
	【再掲】85歳以上	3,408	3,634	3,955	4,244	4,455	4,629	4,928	7,444	
	総人口に占める65歳以上の割合	29.5%	29.5%	29.4%	29.5%	29.6%	29.7%	29.9%	36.9%	
	総人口に占める75歳以上の割合	17.2%	17.5%	17.4%	11.9%	11.2%	10.5%	9.7%	14.7%	

※資料：住民基本台帳 各年9月末日現在

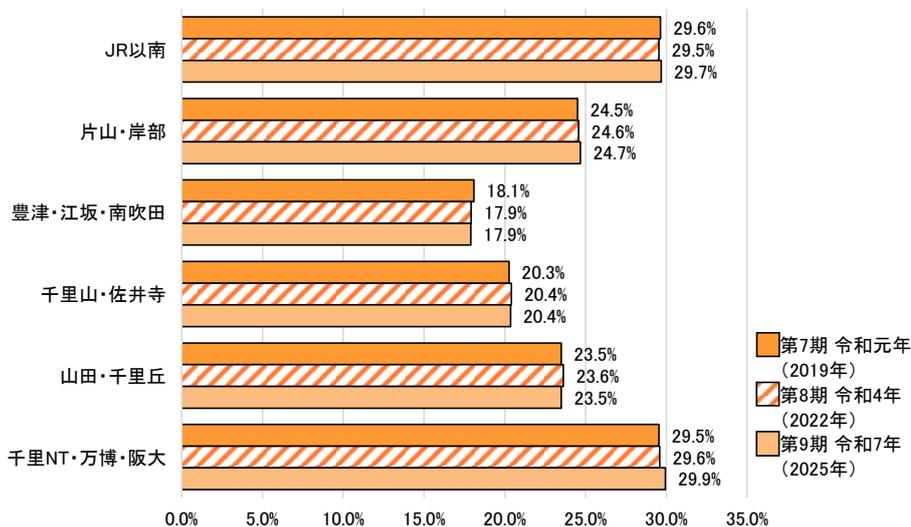
【サービス整備圏域別の総人口】



【サービス整備圏域別の65歳以上人口】



【サービス整備圏域別の総人口に占める65歳以上の割合】



(3) 65歳以上の方がいる世帯**① 65歳以上の方がいる世帯数の推移**

世帯数の推移をみると、一般世帯数は増加傾向にあり、平成27年（2015年）では168,363世帯と、平成12年（2000年）の154,587世帯から13,776世帯増加しています。

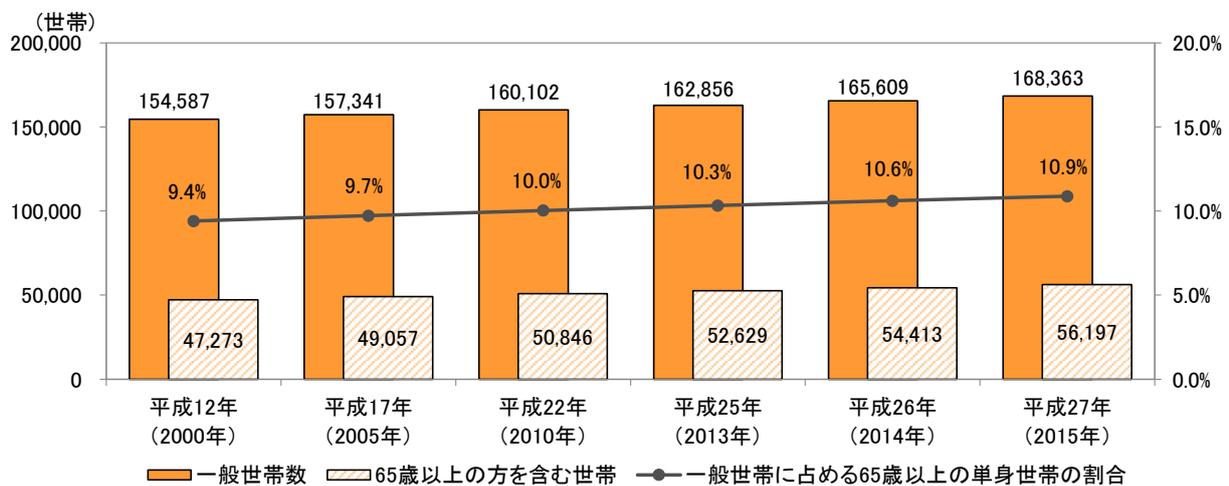
65歳以上の方を含む世帯についても増加傾向にあり、平成27年（2015年）では56,197世帯と、平成12年（2000年）の47,273世帯から8,924世帯増加しています。また、平成27年（2015年）では65歳以上の単身世帯は18,324世帯、夫婦のみの世帯は15,605世帯となっています。

一般世帯に占める単身世帯の割合も年々上昇し、平成27年（2015年）では10.9%となっています。

【世帯数の推移】

単位：世帯

	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)
一般世帯数	154,587	157,341	160,102	162,856	165,609	168,363
65歳以上の方を含む世帯	47,273	49,057	50,846	52,629	54,413	56,197
単身世帯	14,539	15,296	16,054	16,811	17,567	18,324
夫婦のみ世帯	12,592	13,194	13,798	14,400	15,003	15,605
一般世帯に占める65歳以上の方を含む世帯の割合	30.6%	31.2%	31.8%	32.3%	32.9%	33.4%
一般世帯に占める65歳以上の単身世帯の割合	9.4%	9.7%	10.0%	10.3%	10.6%	10.9%



※資料：総務省「国勢調査（各年10月1日時点）」ただし、国勢調査は5年ごとの指標値のみが公表されているため、それ以外の年度については各指標値を直線で結んだ際に算出される値となっている。

※一般世帯数は、世帯総数から学校の寮・寄宿舎の学生・生徒、病院・療養所などの入院者、社会施設の入所者、矯正施設の入所者等から成る施設等の世帯を除いた世帯数。

※65歳以上の方を含む世帯数は、一般世帯のうち65歳以上の世帯員が1人以上いる世帯数。

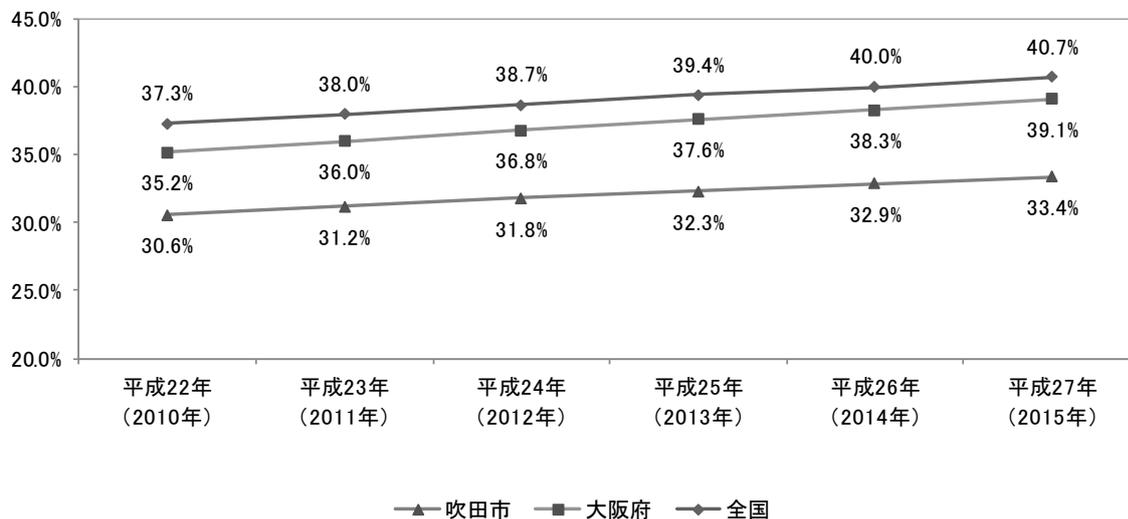
※65歳以上の単身世帯数は、高齢者を含む世帯のうち世帯員が65歳以上の高齢者1名のみ世帯数。

※65歳以上の方を含む世帯のうち夫婦のみ世帯は、世帯員が夫婦のみの世帯のうち夫および妻の年齢が65歳以上の世帯数。

② 吹田市と国、大阪府における65歳以上の方を含む世帯の割合の推移

吹田市の一般世帯に占める65歳以上の方を含む世帯の割合は、全国、府と比べて低くなっていますが、平成22年（2010年）から平成27年（2015年）にかけて増加傾向にあります。

【吹田市と国、大阪府における65歳以上の方を含む世帯の割合の推移】

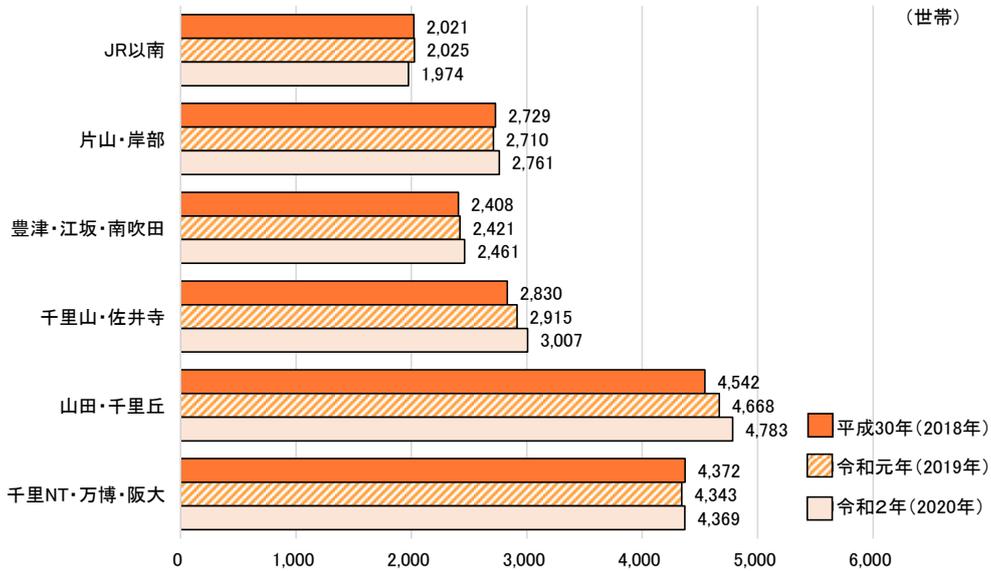


※ 資料：総務省「国勢調査」（各年10月1日時点）ただし、国勢調査は5年ごとの指標値のみが公表されているため、それ以外の年度については各指標値を直線で結んだ際に算出される値となっている。

③ サービス整備圏域別世帯数の推移

サービス整備圏域別世帯数の推移をみると、65歳以上のみで構成される世帯数は、JR以南地域、千里ニュータウン・万博・阪大地域を除き増加傾向にあります。また、65歳以上の単身世帯数は、いずれの地域も増加傾向にあります。

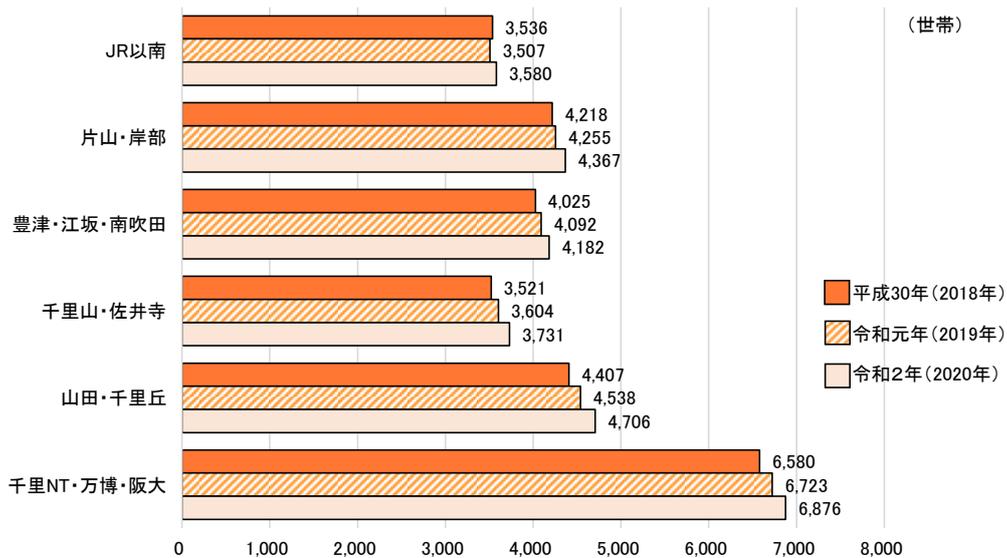
【サービス整備圏域別 65歳以上のみで構成される世帯数の推移】



※資料：住民基本台帳（各年9月末日現在）

※65歳以上のみで構成される世帯とは、複数人の65歳以上の方のみで構成される世帯

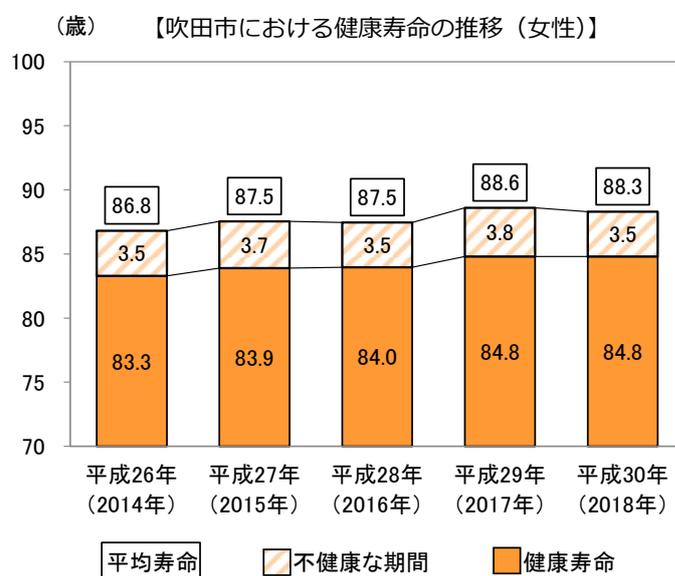
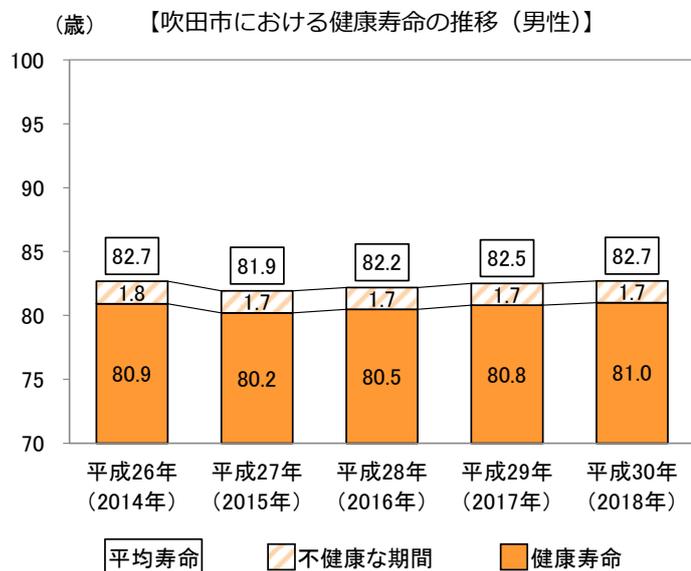
【サービス整備圏域別 65歳以上の単身世帯数の推移】



※資料：住民基本台帳（各年9月末日現在）

(4) 吹田市の*健康寿命（65歳未満も含む）

吹田市の健康寿命は平成30年（2018年）には男性が81.0歳、女性が84.8歳と、平成26年（2014年）の健康寿命に比べて伸びています。また、平成30年（2018年）の健康寿命は、全国、府と比べて長くなっています。

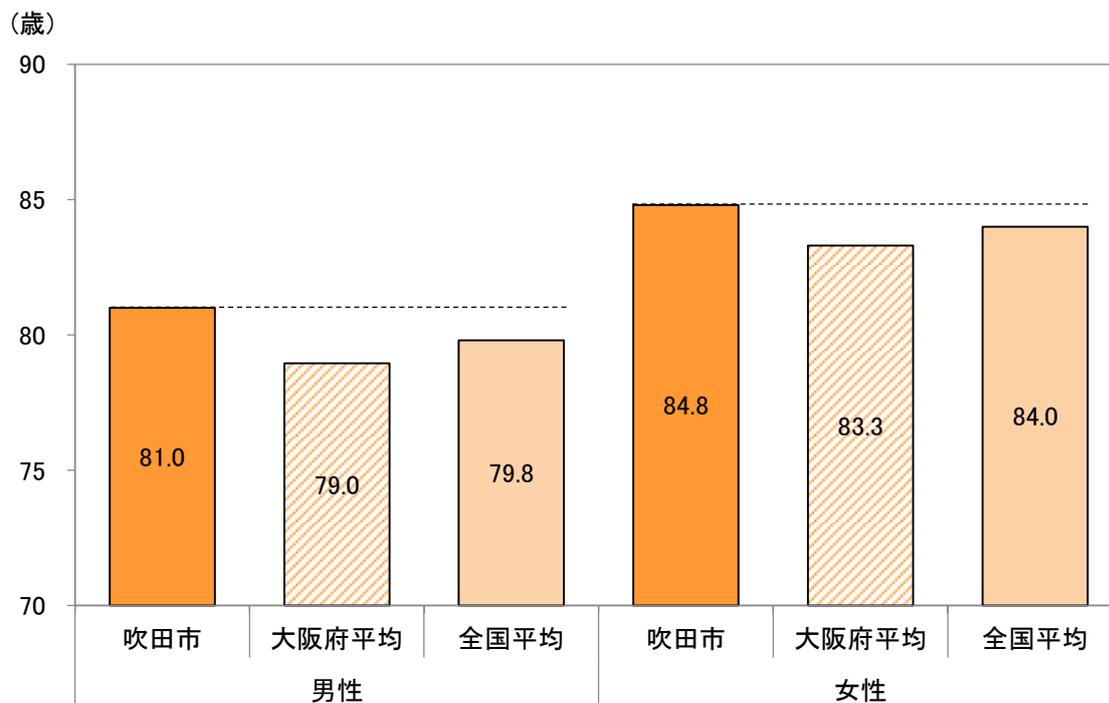


※ 資料：大阪府健康医療部健康推進室健康づくり課

※ 平成25年（2013年）から平成28年（2016年）までは大阪がん循環器病予防センターによる算出値。

平成29年（2017年）及び平成30年（2018年）は国保データベース（KDB）の平均自立期間（要介護2以上）及び平均余命の値を活用し算出された値。

【平成30年（2018年）における健康寿命の国・府比較】



※ 資料：大阪府健康医療部健康推進室健康づくり課

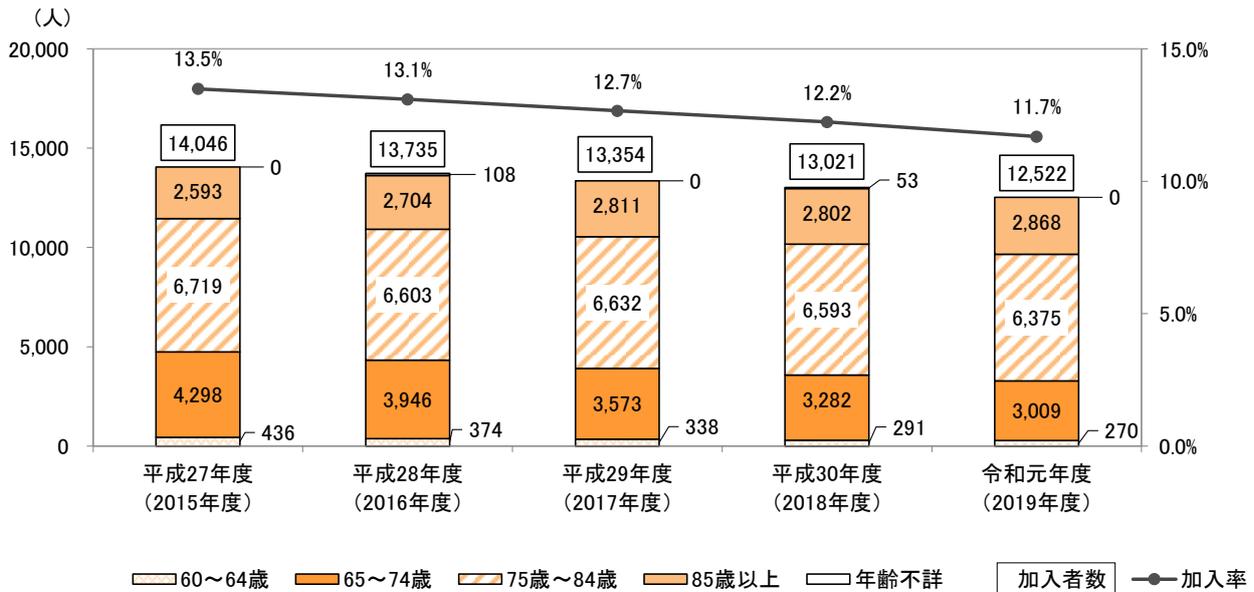
※ 吹田市と全国平均は、国保データベース（KDB）の平均自立期間（要介護2以上）及び平均余命の値から算出された値。大阪府平均は、KDBと同様の方法により大阪がん循環器病予防センターが算出した値。

2 地域で活動する方々

(1) *高齢クラブ

高齢クラブの加入者数及び加入率をみると、ともに減少傾向にあり、加入者数は令和元年度（2019年度）では12,522人と、平成27年度（2015年度）の14,046人から1,524人減少しています。また、加入率は令和元年度（2019年度）では11.7%と、平成27年度（2015年度）の13.5%から1.8ポイント減少しています。

【高齢クラブ加入状況の推移】

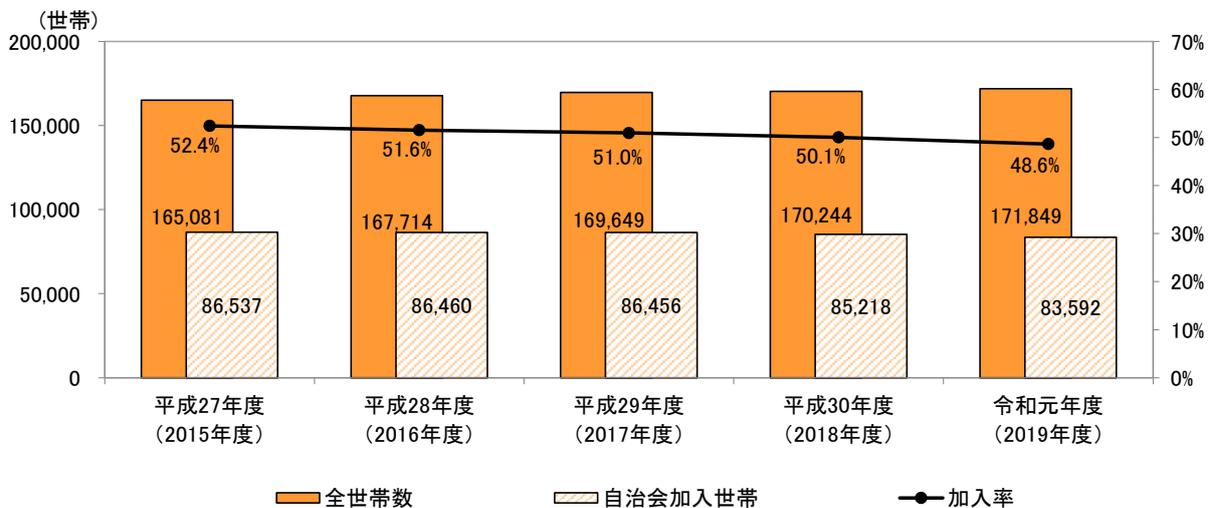


※ 資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

(2) 自治会（全世帯）

吹田市全世帯における自治会の加入率をみると減少傾向にあり、令和元年度（2019年度）では48.6%と平成27年度（2015年度）の52.4%から3.8ポイント減少しています。

【自治会加入率】



※資料：吹田市市民部市民自治推進室（各年度4月1日現在）

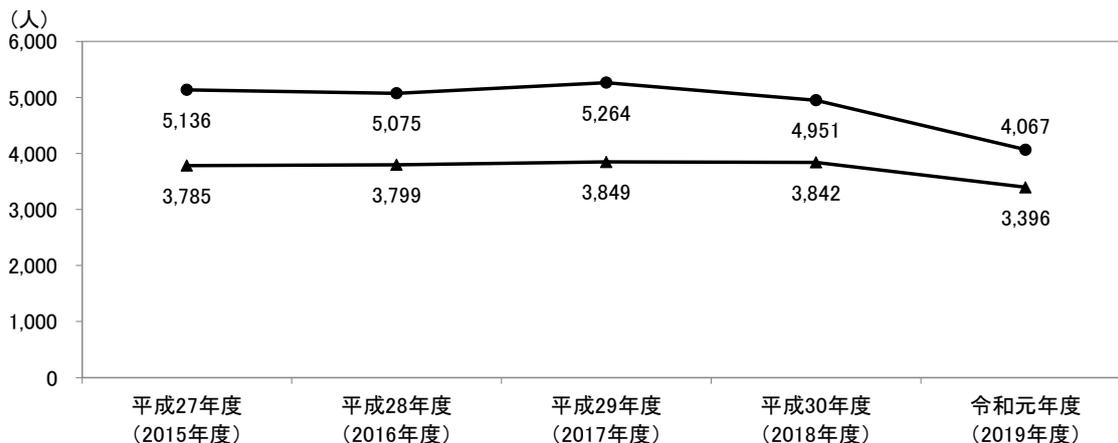
(3) *地区福祉委員会

地区福祉委員会の活動状況をみると、*いきいきサロン、*ふれあい昼食会ともに、開催回数、参加者数、参加した地区福祉委員の延べ人数のすべてが減少傾向にあります。

【地区福祉委員会の活動状況（延べ回数・人数）】

		平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)
いき いき サロ ン	開催回数（延べ回数）	740	711	718	689	623
	参加者数（延べ人数）	15,514	14,702	15,185	14,769	13,923
	参加した地区福祉委員の延べ人数	5,136	5,075	5,264	4,951	4,067
ふ れ あ い 昼 食 会	開催回数（延べ回数）	241	236	255	260	229
	参加者数（延べ人数）	10,121	10,044	10,505	10,934	9,848
	参加した地区福祉委員の延べ人数	3,785	3,799	3,849	3,842	3,396

【いきいきサロンとふれあい昼食会に参加した地区福祉委員の延べ人数】



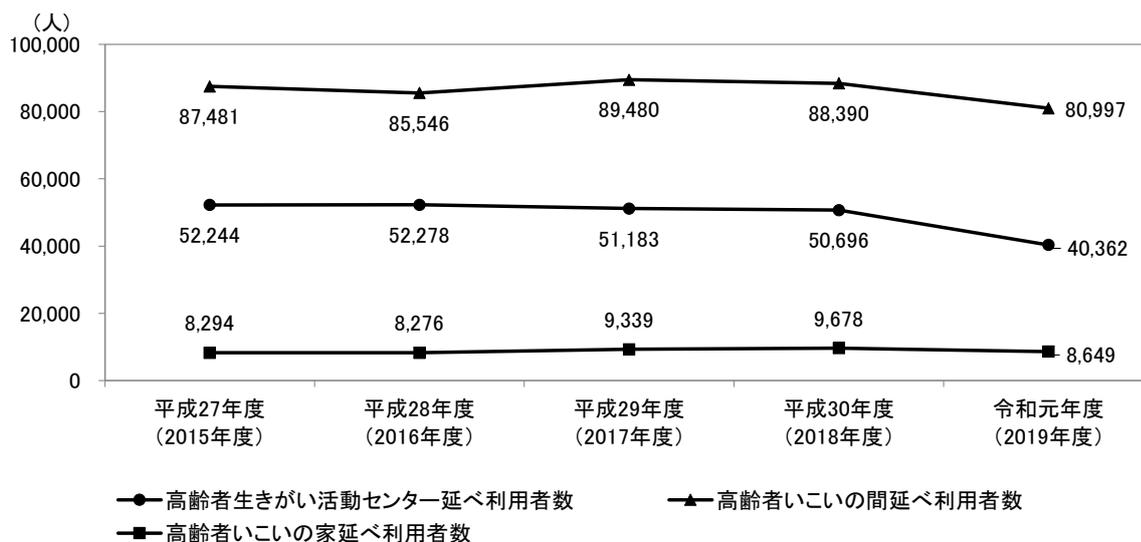
●—いきいきサロンに参加した地区福祉委員の延べ人数 ▲—ふれあい昼食会に参加した地区福祉委員の延べ人数

※資料：吹田市福祉部福祉総務室（各年度末日現在）

(4) *高齢者生きがい活動センター等

平成27年度（2015年度）から平成30年度（2018年度）にかけての高齢者生きがい活動センター等の推移をみると、*高齢者いこいの間延べ利用者数及び*高齢者いこいの家の延べ利用者数はほぼ横ばいで推移している一方、高齢者生きがい活動センター延べ利用者数は減少傾向にあります。なお、令和2年（2020年）3月には新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各施設とも休館したため、令和元年度（2019年度）は過去4年と比較して利用者数が少なくなっています。

【高齢者生きがい活動センター等 延べ利用者数】



※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

コラム 2 ご存知ですか？高齢者が活動できる施設！



「高齢者生きがい活動センター」、「高齢者いこいの間」、「高齢者いこいの家」において、高齢者が教養を深め、交流し、心身の健康増進を図っています。ぜひご利用ください。

高齢者生きがい活動センター



交流サロン、生きがい教室、多目的室等があり、情報検索用パソコン等を設置しています。各種講座の開催もしています。

住所：吹田市津雲台 1-2-1
千里ニュータウンプラザ5階
電話：06-6155-2155
FAX：06-6155-2177



ホームページ
<http://suitsa-ikigai.org/>

高齢者いこいの間



小学校区ごとに1か所設置されています。（市内35か所）
地区高齢クラブ活動の拠点で、地域の高齢者の教養・親睦を深める場となっています。

ホームページ



<http://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-fukushi/kor-eifukushi/ikigai/0000729.html>

高齢者いこいの家



和・洋室、多目的ホールがあり、健康機器やカラオケ等を設置しており、各種講座の開催もしています。

住所：吹田市岸部中 1-24-11
電話：06-6337-6361
FAX：06-6337-6362



ホームページ
<https://suitsa-roukyou.jimdo.free.com/>

(5) 生涯学習・スポーツ活動等

生涯学習・スポーツ活動等の参加者数（65歳未満も含む）の推移をみると、健康づくり講座を除き、各取組とも減少傾向にあります。

【生涯学習・スポーツ活動等参加者数（65歳未満も含む延べ人数）】

単位：人

	平成27年度 (2015年度)	平成28年度 (2016年度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)
高齢者スポーツ教室延べ参加者数	12,914	11,788	11,098	7,392	6,271
市民スポーツ講座「運動はええよ！」 延べ参加者数	270	1,130	192	38	中止
健康づくり講座延べ参加者数	2,773	4,017	3,097	3,391	3,111
いきがい教室延べ参加者数	6,801	6,585	6,768	6,720	6,381

※ 資料：いきがい教室は吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

その他は吹田市都市魅力部文化スポーツ推進室（各年度末日現在）

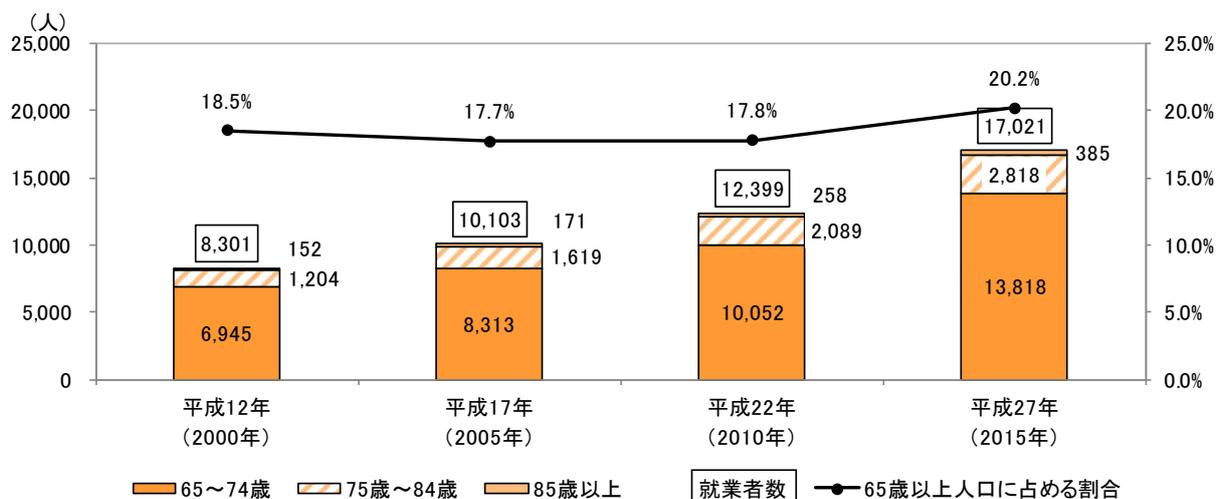
※ 令和2年（2020年）3月、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から各施設とも休館

高齢者スポーツ教室	市民体育館でストレッチ、レクリエーションスポーツ等の軽い運動を行います。
市民スポーツ講座 「運動はええよ！」	運動習慣を身につけ、運動・栄養・身体についての理解を深めることを目的に、「のぼそう！健康寿命」をテーマとした講義・実技を行います。
健康づくり講座	地区公民館において健康づくりを目的とした講座を行います。
いきがい教室	仲間づくりと教養の向上を図るため、総合福祉会館等において初歩的な趣味的教室を開催します。

(6) 就業状況

65歳以上の方の就業状況をみると増加傾向にあり、平成27年（2015年）では17,021人と、平成12年（2000年）の8,301人から8,720人増加しています。

【65歳以上の方の就業状況推移】

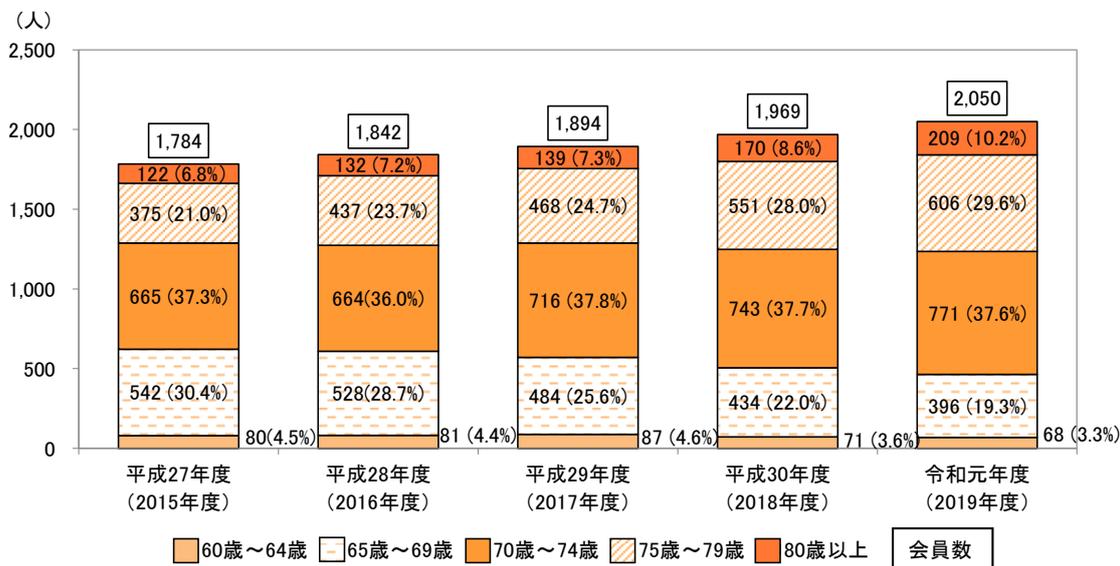


※資料：総務省「国勢調査」（各年10月1日時点）

(7) 公益社団法人*シルバー人材センター

公益社団法人シルバー人材センターの会員数の推移をみると、増加傾向にあり、令和元年度（2019年度）では2,050人と、平成27年度（2015年度）の1,784人から266人増加しています。内訳をみると、60～69歳で減少、70歳以上で増加しています。

【公益社団法人シルバー人材センター会員数の推移】



※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

コラム 3

お手伝いの匠 シルバー人材センター



どんな団体？

60歳以上の働く意欲のある人が会員登録し、市民や企業などからの依頼に応じて、さまざまな仕事を行っています。

多様な仕事を実施

実施件数：**3,301**件

（令和2年（2020年）3月末現在）

- 主な仕事：
- ・剪定
 - ・清掃
 - ・家事援助
 - ・施設の管理
 - ・整理事務、文書作成
 - ・設備の保守点検
 - ・労働者派遣 など

独自の活動も

受託業務などのほかに、普及啓発活動として、ボランティア活動や環境美化活動なども実施しています。



〇問い合わせ

吹田市シルバー人材センター

<TEL>
06-6369-3300



3 介護人材にかかる需給推計

平成29年度（2017年度）の介護に必要な人材の人数は7,305人ですが、大阪府の充足率98.1%を本市の需要見込に当てはめると、不足数は139人となります。令和7年度（2025年度）には必要な人数は9,841人となりますが、大阪府の充足率84.5%を本市の需要見込に当てはめると、1,525人不足する見込みです。

【介護人材に係る需給推計】

単位：人

	平成29年度(2017年度)			令和2年度(2020年度)			令和7年度(2025年度)		
	需要見込	供給見込	不足数 (充足率)	需要見込	供給見込	不足数 (充足率)	需要見込	供給見込	不足数 (充足率)
国	2,078,300	1,953,627	124,673 (94.0%)	2,256,854	2,056,654	200,200 (91.1%)	2,529,743	2,152,379	377,364 (85.1%)
大阪府	168,755	165,564	3,191 (98.1%)	190,623	176,305	14,318 (92.5%)	219,190	185,324	33,866 (84.5%)
吹田市	7,305	7,166	139 (98.1%)	8,278	7,657	621 (92.5%)	9,841	8,316	1,525 (84.5%)

※資料：令和7年度（2025年度）に向けた介護人材にかかる需給推計（都道府県）

吹田市の値は、介護保険事業状況報告から推計。ただし、本市の供給見込は大阪府の充足率を引用。

コラム4 吹田市における介護現場の状況

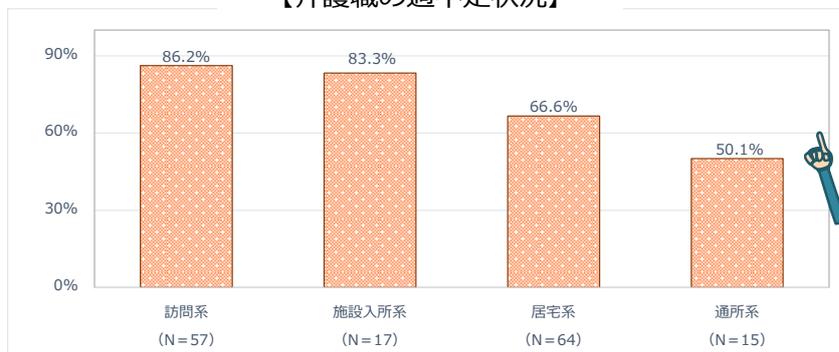


令和2年（2020年）6月に、市内介護サービス事業者等にアンケートを実施しました。この結果を踏まえ、介護人材の質・量の両面から確保するための支援を行います。（P.154 参照）

【令和2年度（2020年度）介護保険サービス事業所等アンケート報告書 抜粋】

介護職員の不足感について、全体の69.9%（N=153）が「不足している」と回答しています。また、事業種別ごとの過不足状況については以下のとおりです。

【介護職の過不足状況】



アンケート結果はこちら

そのほか、アンケート結果からみる介護現場の状況は…？

介護職員が不足している理由

- 1位 新規採用しても求職者が集まらない
- 2位 離職者が多い

事業所で活用している制度

- 1位 活用していない
- 2位 吹田市介護職員資格取得支援補助金

介護職員不足の状況に至る原因

- 1位 他業界に比べて労働条件がよくない
- 2位 他業界に比べて業界のイメージが良くない

従業員確保のため力を入れている分野

- 1位 既存職員の職場定着（離職防止）
- 2位 従業員の新規獲得

4 支援を必要とする方々

(1) 要支援・要介護認定者数の推移（詳しくは第6章 161 ページ参照）

要支援・要介護認定者数は、増加傾向にあり、令和2年（2020年）9月末日現在17,095人で、令和7年（2025年）には20,018人になると見込んでいます。

(2) 認定率の推移（詳しくは第6章 165 ページ参照）

65歳以上の認定率は令和2年（2020年）9月末日現在で18.7%となっており、令和7年（2025年）には21.7%になると見込んでいます。

(3) サービス整備圏域別の認定者の状況（詳しくは第6章 168 ページ参照）

サービス整備圏域別で見ると、令和2年（2020年）の要支援・要介護認定者数は、千里ニュータウン・万博・阪大地域が4,326人で最も多く、認定率はJR以南地域が23.8%と最も高い割合となっています。令和7年（2025年）には、千里ニュータウン・万博・阪大地域の認定者が5,065人で最も多く、認定率はJR以南地域が27.3%で最も高い割合です。

(4) 介護予防・日常生活支援総合事業～「高齢者安心・自信サポート事業」と「吹田市民はつらつ元気大作戦」～の状況

（詳しくは第5章 123 ページ、第6章 185～186 ページ参照）

平成27年（2015年）の介護保険法改正により、要支援認定者が利用する訪問介護（ホームヘルプ）、通所介護（デイサービス）が、全国一律の保険給付から市独自の事業に移行したものです。

本市では、平成29年（2017年）4月から高齢者安心・自信サポート事業として、従来の訪問介護・通所介護と同等サービスである「訪問型サポートサービス」「通所型サポートサービス」の他、独自に「訪問型短期集中サポートサービス」を実施しています。さらに、平成30年（2018年）10月に独自サービスとして「通所型入浴サポートサービス」を開始しました。対象者は、要支援認定者の他、「*基本チェックリスト」該当者です。

また、65歳以上の高齢者を対象に、1人でも多くの方に主体的に介護予防活動に取り組み、健康寿命を伸ばしていただけるよう、平成29年度（2017年度）から介護予防事業を再編・拡充し、「吹田市民はつらつ元気大作戦」として展開しています。

(5) 認知症の人数

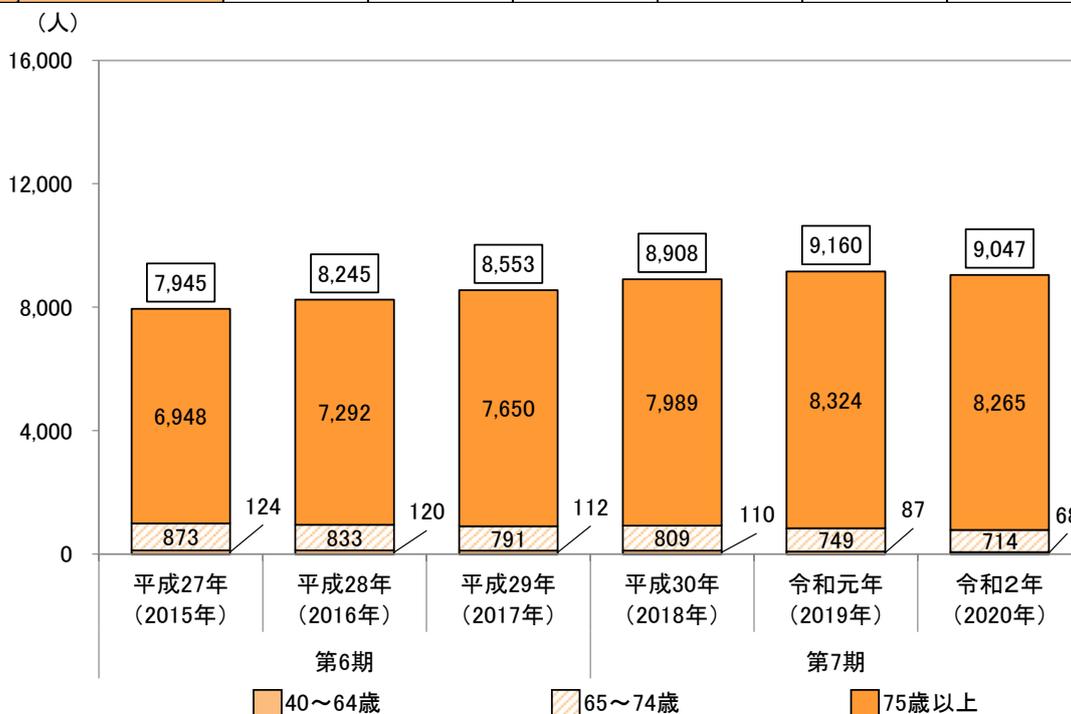
① 認知症の人の推移

要支援・要介護認定者（第2号被保険者を含む）に占める認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の人数の推移をみると、増加傾向にあり、令和2年（2020年）では9,047人と、平成27年（2015年）から1,102人増加しています。

【認知症の人数及び割合の推移】

単位：人

	第6期			第7期		
	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)
総数	7,945	8,245	8,553	8,908	9,160	9,047
40～64歳	124	120	112	110	87	68
対人口比	0.10%	0.10%	0.09%	0.09%	0.07%	0.05%
65歳以上	7,821	8,125	8,441	8,798	9,073	8,979
対人口比	9.4%	9.5%	9.7%	10.0%	10.2%	10.0%
65～74歳	873	833	791	809	749	714
対人口比	1.9%	1.8%	1.8%	1.8%	1.7%	1.7%
75歳以上	6,948	7,292	7,650	7,989	8,324	8,265
対人口比	18.4%	18.2%	18.2%	18.3%	18.4%	17.9%



※資料：吹田市福祉部高齢福祉室の認定データ（各年9月末日時点）を基に集計

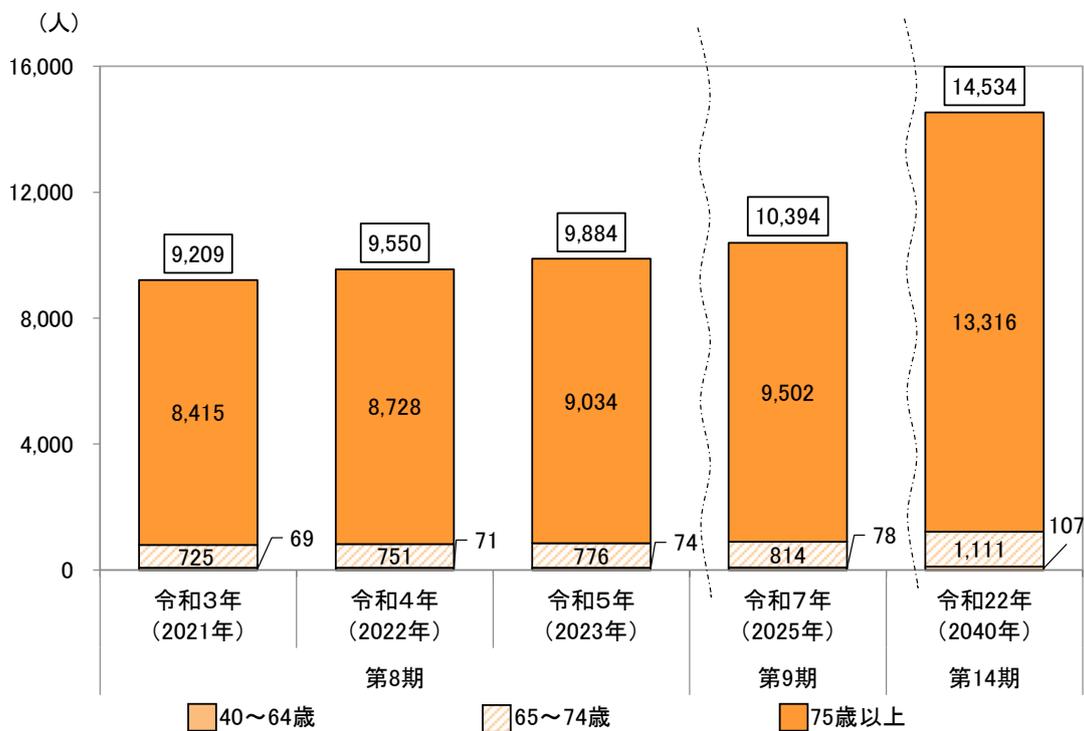
② 認知症の人の推計

認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の方の推計をみると、増加傾向にあり、令和7年(2025年)では10,394人と、令和2年(2020年)の9,047人から1,347人増加しています。

【認知症の人数及び割合の推計】

単位：人

	第8期			第9期	第14期
	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)	令和7年 (2025年)	令和22年 (2040年)
総数	9,209	9,550	9,884	10,394	14,534
40～64歳	69	71	74	78	107
対人口比	0.05%	0.05%	0.06%	0.06%	0.09%
65歳以上	9,140	9,479	9,810	10,316	14,427
対人口比	10.2%	10.6%	10.9%	11.4%	12.7%
65～74歳	725	751	776	814	1,111
対人口比	1.7%	1.8%	2.0%	2.3%	2.0%
75歳以上	8,415	8,728	9,034	9,502	13,316
対人口比	18.1%	17.8%	17.6%	17.3%	22.4%



※資料：吹田市福祉部高齢福祉室の認定データを元に推計

③ 生活場所別の認知症の人数

生活場所別の令和2年（2020年）の認知症の人数をみると、施設よりも在宅の方が多く、施設の29.2%に対し、在宅は70.8%でした。施設の内訳をみると、特別養護老人ホームが最も多く、13.9%でした。

【生活場所別の認知症の人数の推移と推計】

単位：人

		実績		推計	
		令和2年 (2020年)		令和7年 (2025年)	令和22年 (2040年)
		人数	割合		
在宅	住宅型有料老人ホーム ^{※1}	353	3.9%	405	567
	サービス付き高齢者向け住宅 ^{※1}	226	2.5%	260	363
	在宅(その他)	5,826	64.4%	6,694	9,361
施設	特別養護老人ホーム	1,258	13.9%	1,445	2,020
	介護老人保健施設	615	6.8%	707	988
	認知症高齢者グループホーム	244	2.7%	281	392
	介護付き有料老人ホーム	516	5.7%	592	828
	その他施設(介護医療院など)	9	0.1%	10	15
計		9,047	100%	10,394	14,534

※1 市内住宅型有料老人ホーム及びサービス付き高齢者向け住宅の人数に、※2の比率を乗じて算出。

※2 高齢者向け住まいにおける運営実態の多様化に関する実態調査研究（平成30年（2018年））における住宅型有料老人ホーム（非特）・サービス付き高齢者向け住宅（非特）に入居する認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ以上の人の比率（認知症の程度別入居者数）を使用

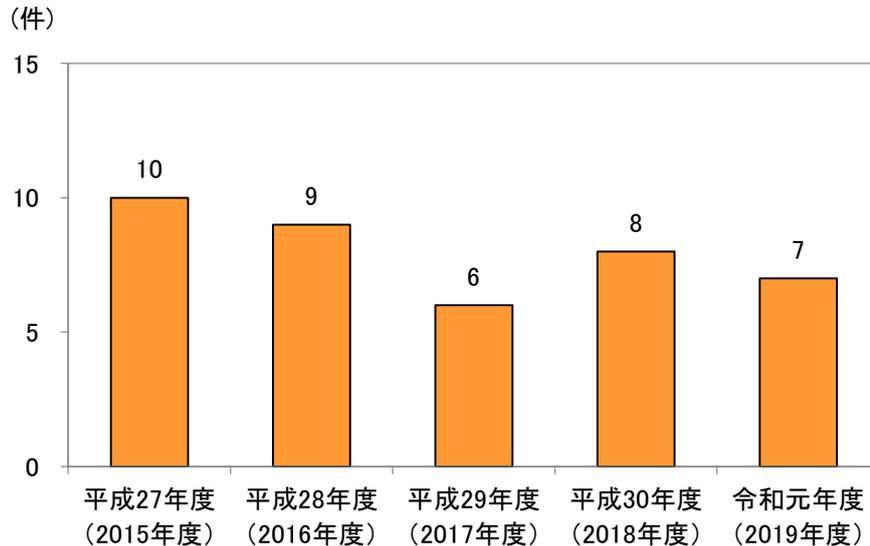
※ 資料：吹田市福祉部高齢福祉室

(6) 権利擁護に関する取組

① 成年後見審判（法定後見）の市長申し立て

成年後見審判（法定後見）の市長申し立て件数をみると、減少傾向にあり、平成27年度（2015年度）の10件に対し、令和元年度（2019年度）は7件でした。

【成年後見審判（法定後見）の市長申し立て件数】

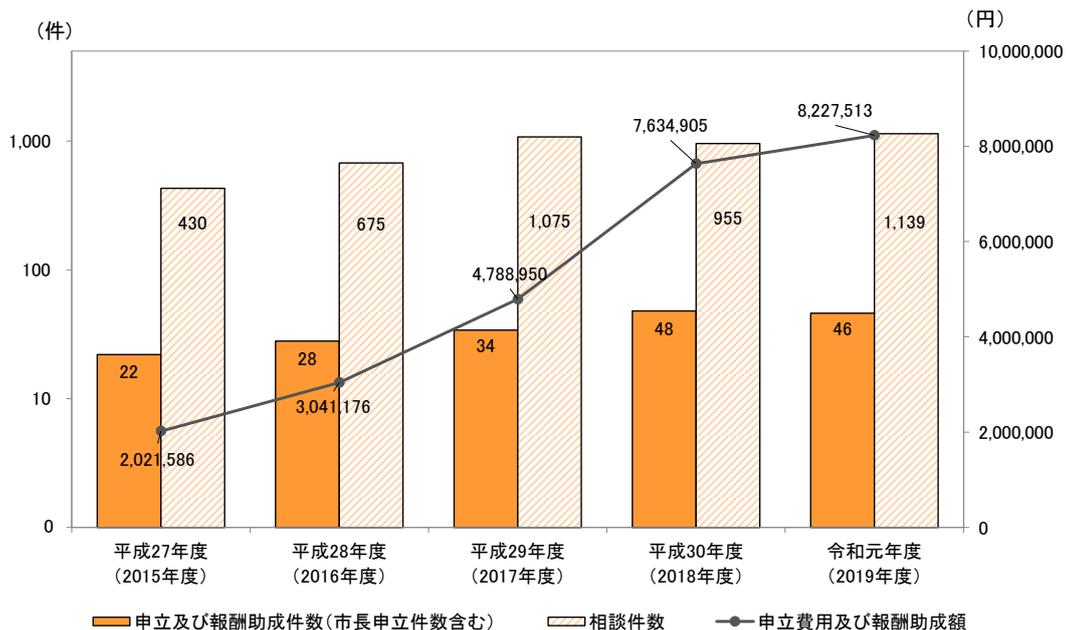


※ 資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

② *成年後見制度利用支援事業

成年後見制度利用支援事業の実績をみると、令和元年度（2019年度）の申立及び報酬助成件数は46件、相談件数は1,139件、申立費用及び報酬助成額は8,227,513円となっており、いずれの項目も平成27年度（2015年度）に比べて増加傾向にあります。

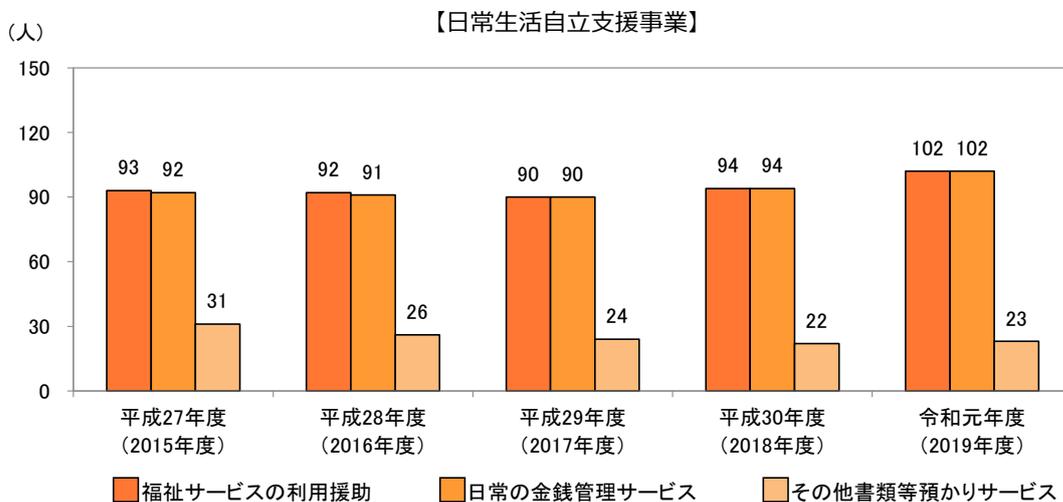
【成年後見制度利用支援事業】



※ 資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

③ ***日常生活自立支援事業**（社会福祉法人吹田市*社会福祉協議会）

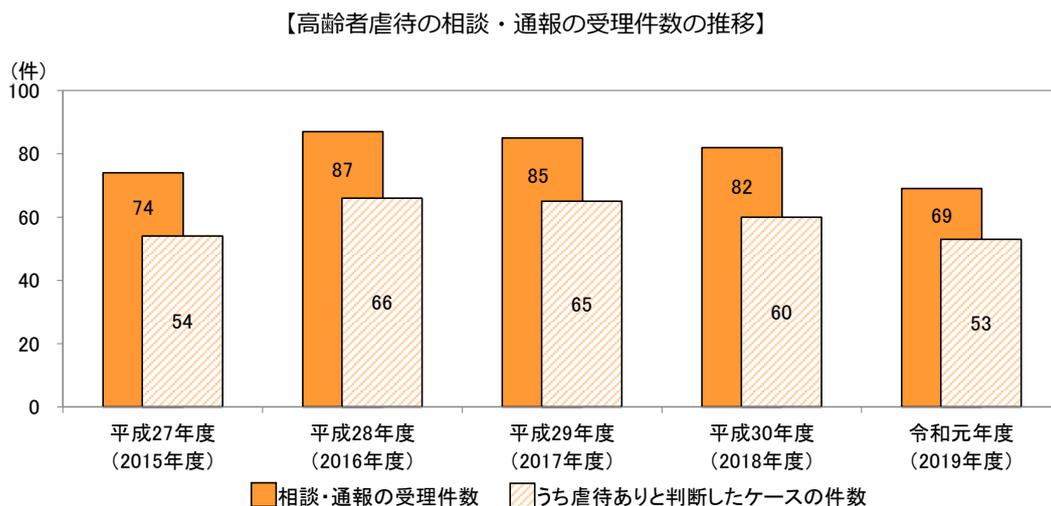
日常生活自立支援事業の利用状況をみると、福祉サービスの利用援助、日常の金銭管理サービスは増加傾向にあり、令和元年度（2019年度）ではいずれも102人であった一方、その他書類等預かりサービスは減少傾向にあり、令和元年度（2019年度）では23人でした。



※ 資料：吹田市福祉部福祉総務室（各年度末日現在）

④ **高齢者虐待の相談・通報**

高齢者虐待の相談・通報の受理件数の推移をみると、平成28年度（2016年度）をピークにその後減少傾向にあり、令和元年度（2019年度）では相談・通報の受理件数が69件、うち虐待ありと判断したケースは53件となっています。



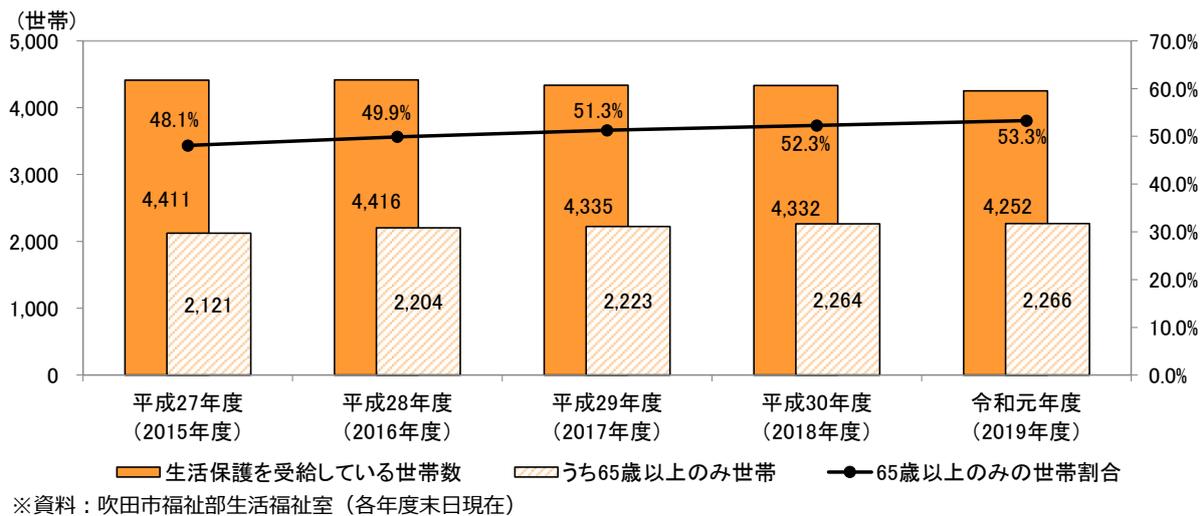
※資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

(7) 生活保護を受給している世帯

生活保護受給世帯の推移をみると、生活保護を受給している世帯数は微減傾向にあり、令和元年度（2019年度）では4,252世帯と、平成27年度（2015年度）の4,411世帯から159世帯減少しています。

一方で、そのうち65歳以上のみで構成される世帯数は微増傾向にあり、令和元年度（2019年度）では2,266世帯と、平成27年度（2015年度）の2,121世帯から145世帯増加しています。全世帯数に占める割合も年々上昇し、令和元年度（2019年度）では53.3%となっています。

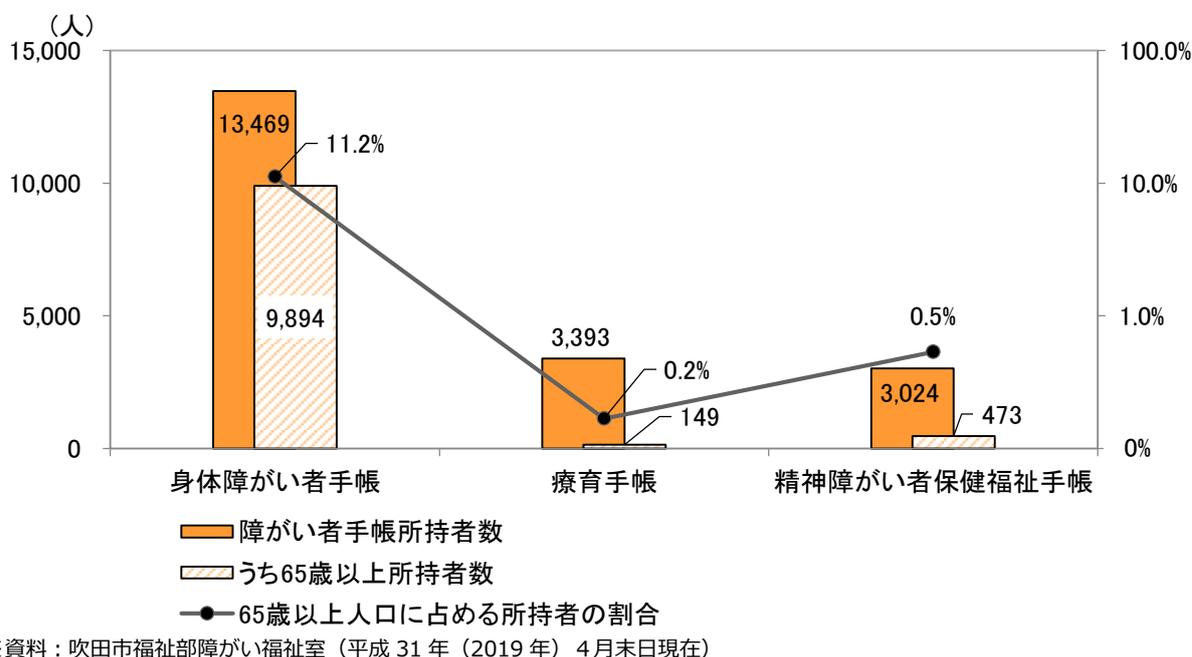
【生活保護受給世帯の推移】



(8) 障がい者手帳所持者数

障がい者手帳所持者数のうち65歳以上の方は、身体障がい者手帳の所持者数が9,894人、療育手帳の所持者数が149人、精神障がい者保健福祉手帳の所持者数が473人となっています。

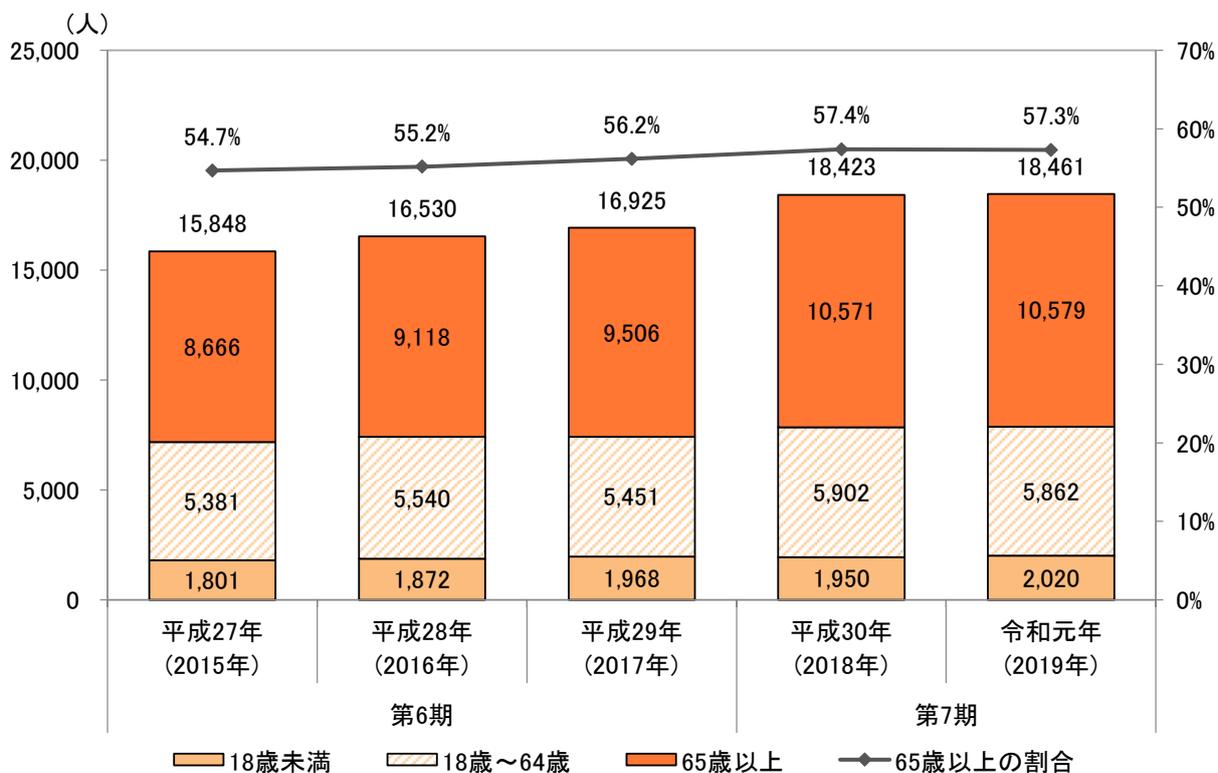
【障がい者手帳所持者数】



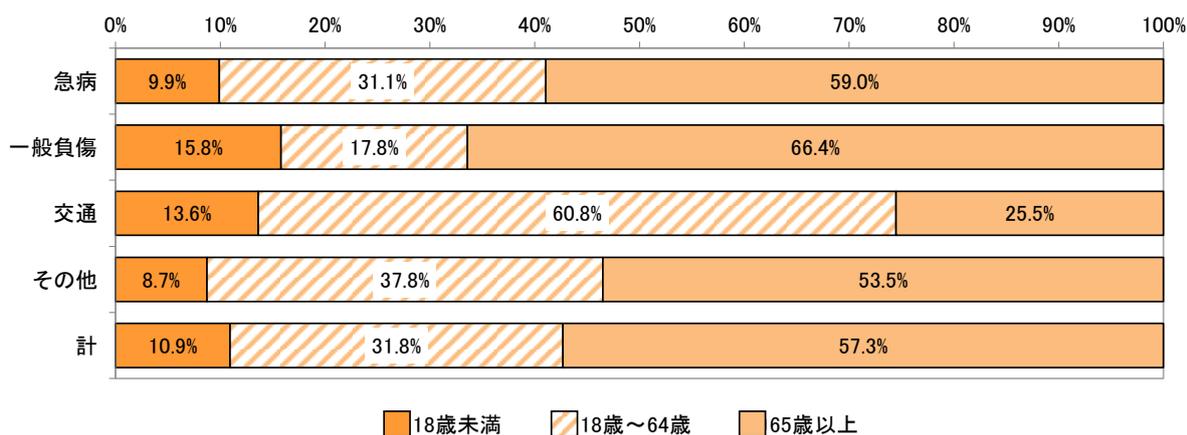
(9) 救急搬送

令和元年(2019年)の救急搬送の状況を見ると、全体の57.3%が65歳以上となっています。内訳としては交通以外の項目で多く、特に一般負傷では66.4%を占めています。

【年齢区分別搬送人数】



【年齢区分別事故種別搬送人員構成比】

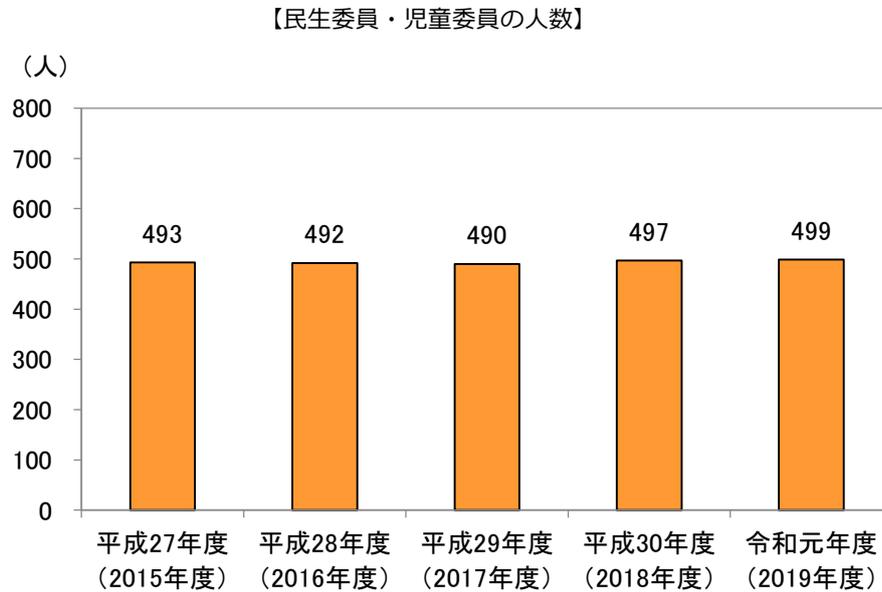


※資料：吹田市消防本部警防救急室（令和元年（2019年）末日現在）

5 地域での支援体制

(1) *民生委員・児童委員

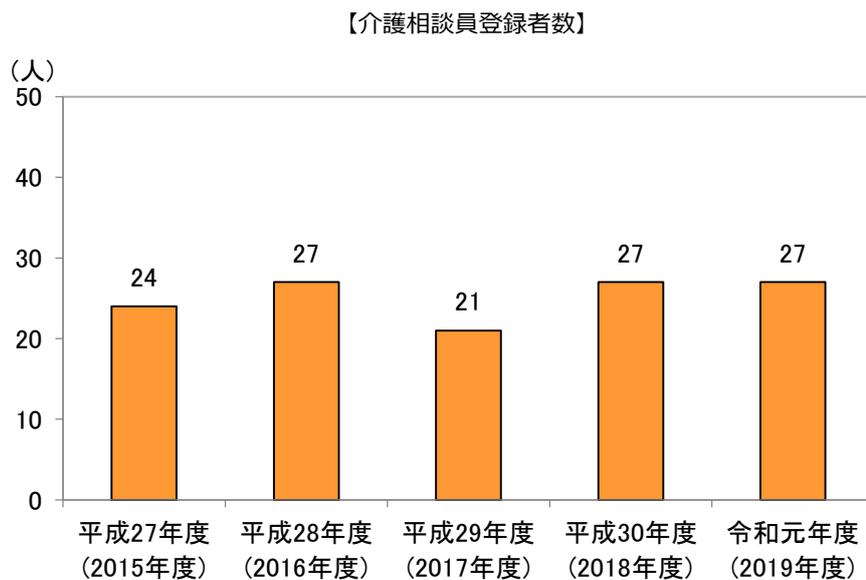
民生委員・児童委員の人数をみると、過去5年間でほぼ横ばいとなっており、令和元年度(2019年度)は499人となっています。



※ 資料：吹田市福祉部福祉総務室（各年度末日現在）

(2) *介護相談員

介護相談員についてみると、登録者数は過去5年間でほぼ横ばいとなっており、令和元年度(2019年度)は27人となっています。

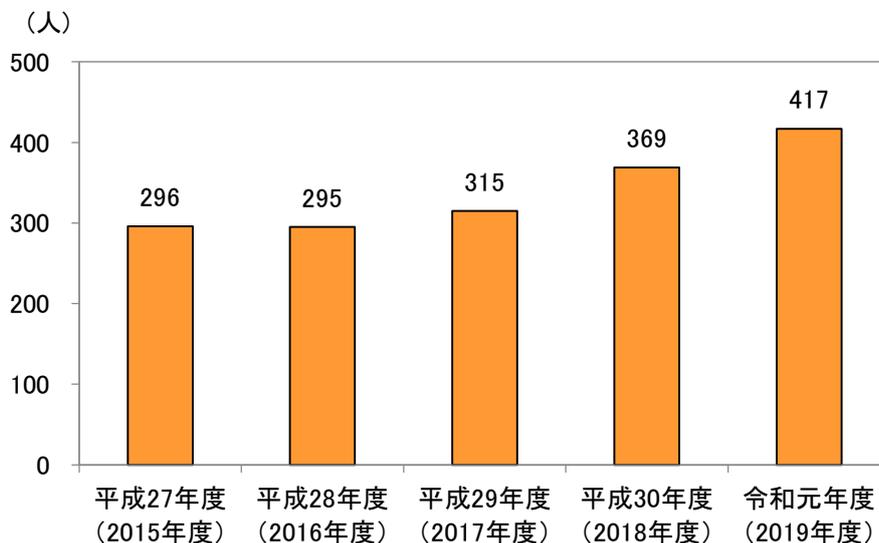


※ 資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

(3) *介護支援サポーター

介護支援サポーターの登録者数をみると、増加傾向にあり、令和元年度（2019年度）は417人と、平成27年度（2015年度）の296人に比べて121人増加しています。

【介護支援サポーターの登録者数】

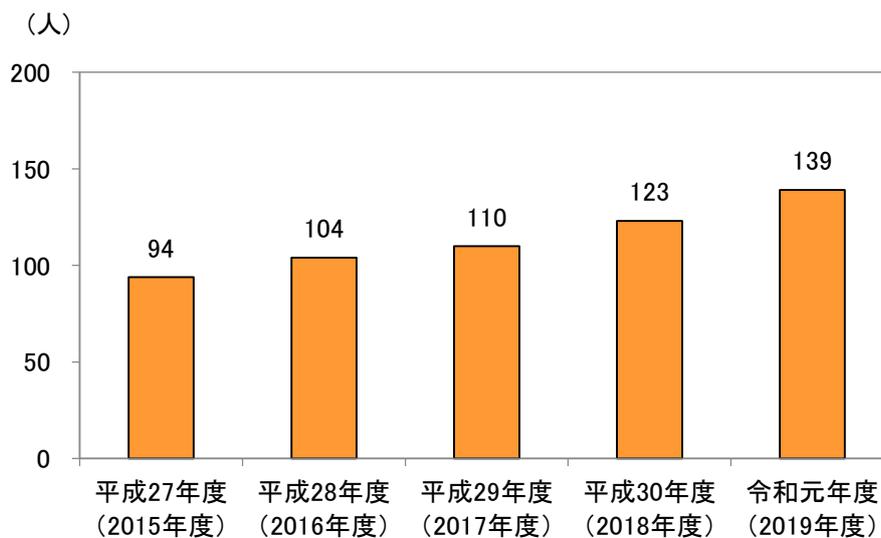


※ 資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

(4) *介護予防推進員

介護予防推進員についてみると、令和元年度（2019年度）は139人と、平成27年度（2015年度）の94人に比べて45人増加しています。

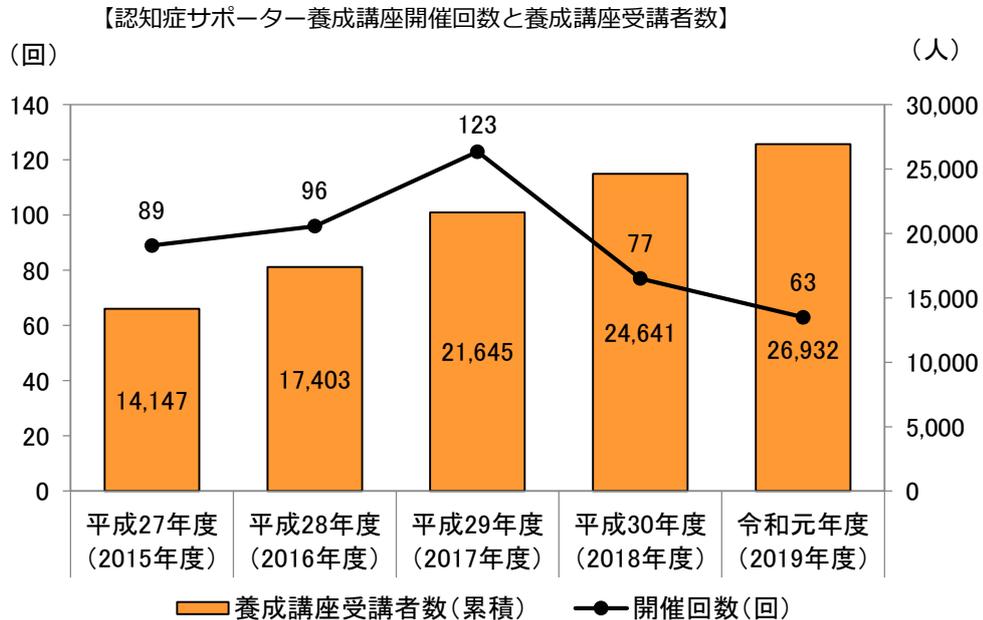
【介護予防推進員の活動者数】



※ 資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

(5) *認知症サポーター

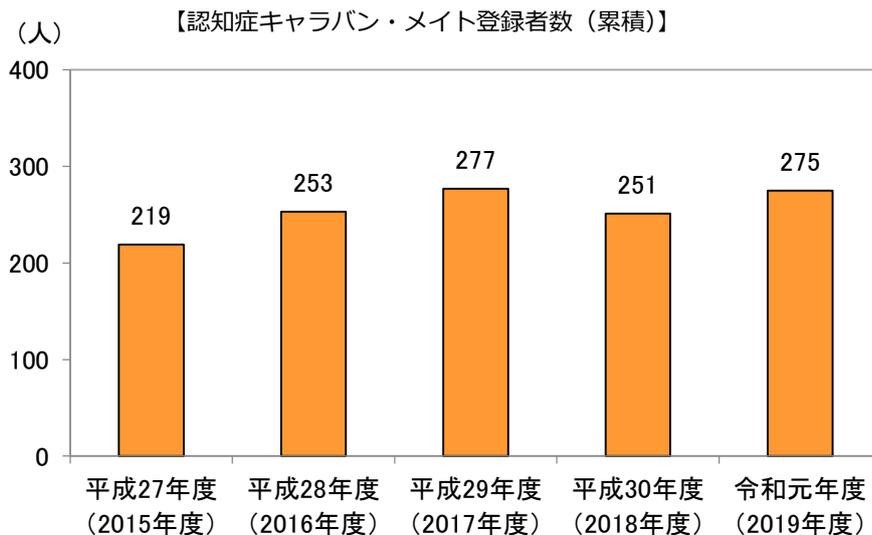
認知症サポーター養成講座についてみると、令和元年度（2019年度）の開催回数は平成27年度（2015年度）に比べて26回減少している一方、養成講座受講者数は12,785人増加しています。



※ 資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

(6) *認知症キャラバン・メイト

認知症キャラバン・メイト登録者数をみると、増加傾向にあり、令和元年度（2019年度）は275人と、平成27年度（2015年度）の219人と比べて56人増加しています。

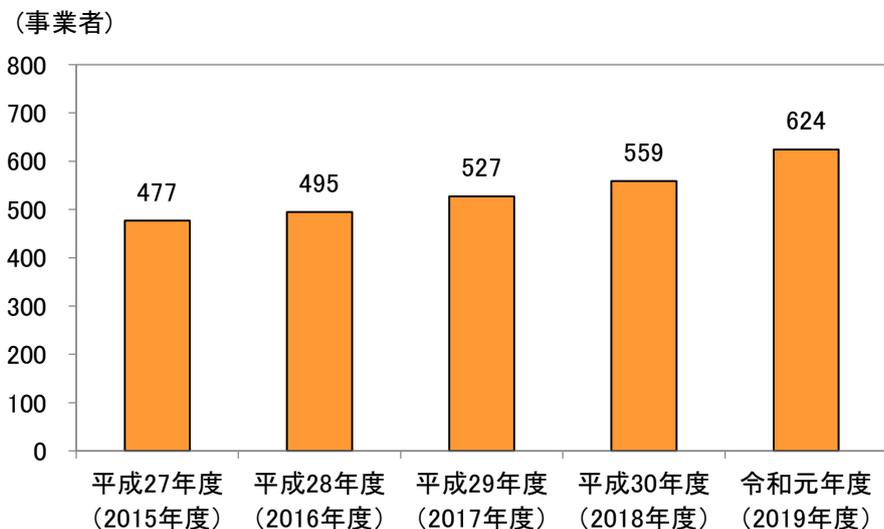


※ 資料：吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

(7) 高齢者支援事業者との連携による見守り事業協力事業者数

高齢者支援事業者数との連携による見守り事業協力事業者数をみると、増加傾向にあり、令和元年度（2019年度）は624事業者と、平成27年度（2015年度）の477事業者から147事業者増加しています。

【高齢者支援事業者との連携による見守り事業協力事業者数】



※ 吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末日現在）

コラム5 アクティブシニアの活躍の場 地域のサポーター



認知症サポーター

認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者として、自分のできる範囲で活躍しています。認知症サポーターカードがサポーターの印です。

受講回数



1回



年齢制限



なし！幅広い年齢の人がサポーターとして活動しています。

介護支援サポーター

介護保険施設や病院等で、洗濯物の整理やシーツ交換、レクリエーションの補助などのさまざまなサポート活動を行います。活動に対するポイントを付与され、介護保険料の支払い等に充てることができます。

受講回数



3回

年齢制限



あり！65歳以上の人になることができます。

介護予防推進員

介護予防についての基本的な知識と市の高齢化の概要を理解し、地域での介護予防の普及活動を担うボランティアです。

ご自身の介護予防にもなります。

受講回数



4回

年齢制限



なし！何歳の人でもなれます。65歳以上の人が多いです。

介護相談員

介護施設等を訪問し、中立の立場で利用者や家族の疑問及び不安の声を聞き、利用者等の声を施設に伝えるなど、よりよいサービス提供のために活動を行います。

受講回数



1回

※6日間の研修

年齢制限



なし！何歳の人でもなれます。65歳以上の人が多いです。

趣味やボランティア、就労等の情報をまとめた **アクティブシニアの活躍場所リスト** を市ホームページで発信中！活動へのハマりすぎには要注意！！
https://www.city.suita.osaka.jp/home/soshiki/div-fukushi/koreifukushi/koureishien/_90028.html



6 介護保険

(1) 介護サービス受給者数の推移（詳細は第6章171ページ参照）

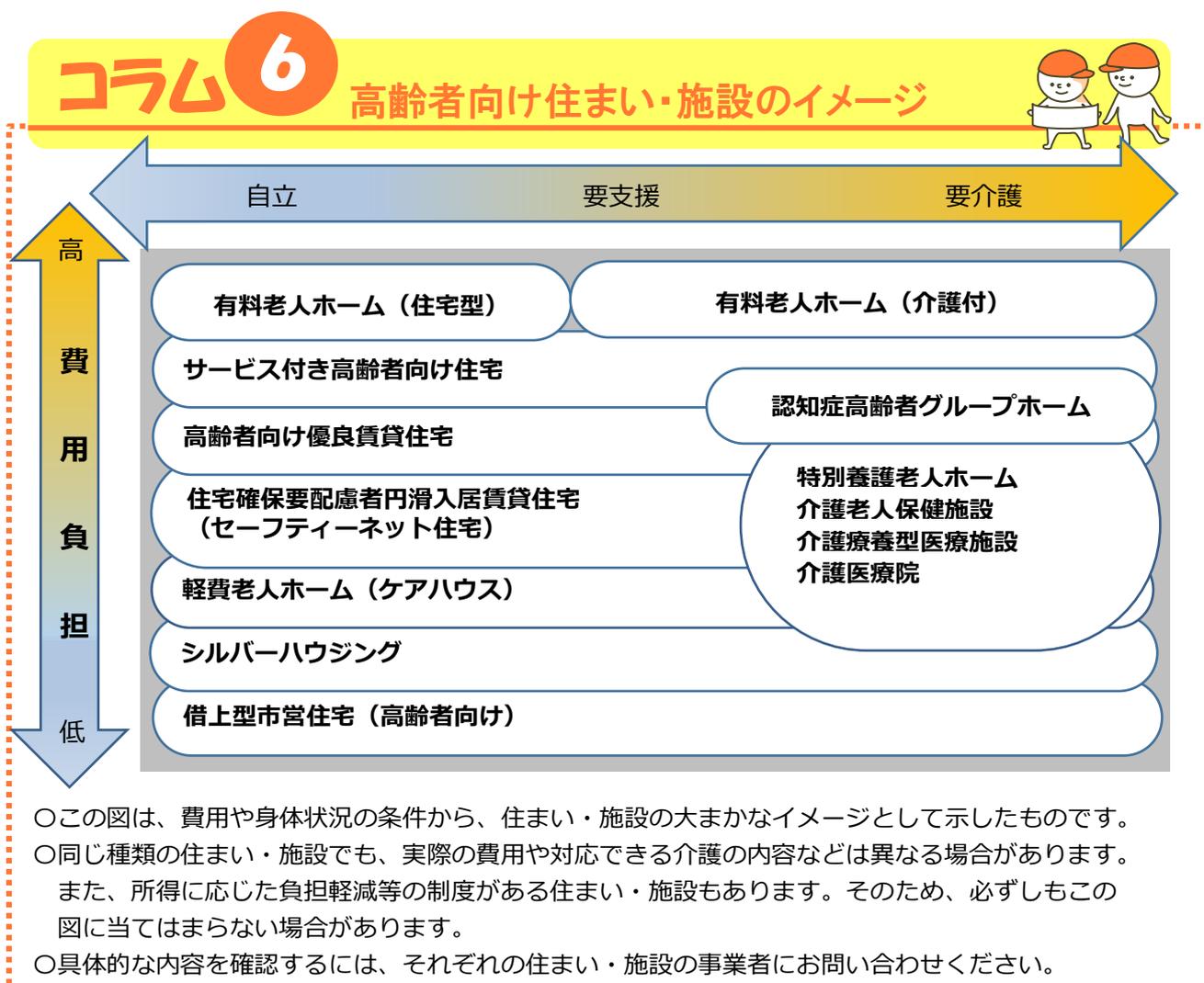
介護サービス受給者数は、年々増加しており、令和2年（2020年）9月末日現在で居宅サービス受給者数は10,599人、地域密着型サービス受給者数は2,134人、施設サービス受給者数は1,965人となっております。

(2) 介護給付費の推移（詳細は第6章191ページ参照）

介護給付費は、令和2年（2020年）9月分では2,007,270千円であり、平成18年（2006年）以降増加傾向にあります。

(3) 介護保険料の推移（詳細は第6章194ページ参照）

第1号被保険者の介護保険料の基準額は年々高くなっており、第6期（2015-2017）で5,390円、第7期（2018-2020）では5,900円となっています。第7期（2018-2020）の基準額を国、大阪府と比べると、大阪府の6,081円よりは低いものの、国の5,784円よりも高い額となっています。



7 高齢者向け住まい

(1) 高齢者向け住まいの種類

令和2年（2020年）11月現在の高齢者向け住まいの種類、箇所数、定員または戸数は、以下のとおりです。定員で見ると、住宅型有料老人ホームが816人と最も多く、次に多いのがサービス付き高齢者向け住宅の655人となっています。

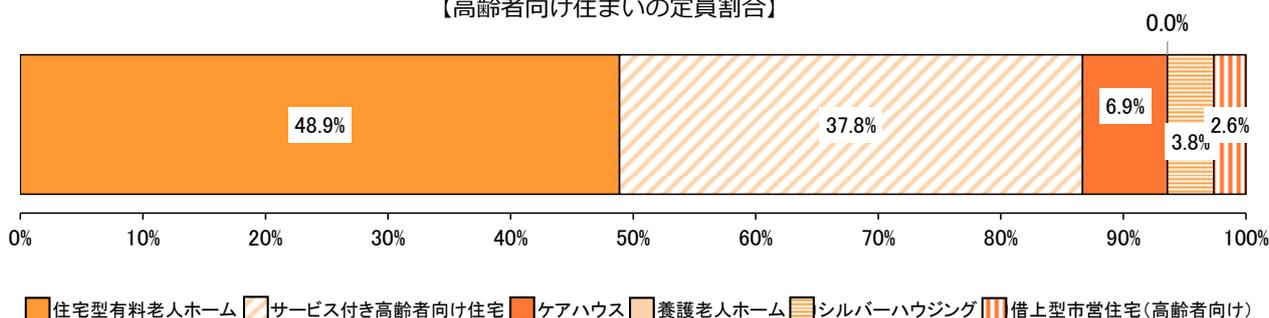
【高齢者向け住まいの種類（介護サービスを除く）】

住宅型有料老人ホーム (27か所・816人)	食事の提供その他日常生活上必要な便宜を供与することを目的とする施設であって、老人福祉施設でないもの
サービス付き高齢者向け住宅 (16か所・655人)	各専用部の面積が原則25㎡以上で、台所・水洗便所・収納設備・洗面設備・浴室を備えたバリアフリー構造であり、サービス面では安否確認と生活相談が必須となっている都道府県に登録された住宅
ケアハウス (3か所・116人)	原則として60歳以上で、身体機能の低下や高齢等のため、独立して生活するには不安があり、家族による援助を受けることが困難な高齢者に対し、無料又は低額な料金で、食事・入浴その他の日常生活上必要なサービスを提供する介護利用型の施設（軽費老人ホーム）
養護老人ホーム（市内になし）	環境上の理由及び経済的理由により、在宅での生活が困難な65歳以上の方を対象とした入所施設
シルバーハウジング (3か所・63人)	65歳以上の高齢者が地域の中で自立して安全かつ快適な生活を営むことができるように配慮された公的賃貸住宅で、生活援助員による日常生活支援サービスの提供を合わせて行う
借上型市営住宅（高齢者向け） (6か所・48人)	民間事業者等が建設・保有する住宅を市が借り上げ、住宅に困窮する高齢者や障がいのある方に供給する市営住宅
高齢者向け優良賃貸住宅 (15か所・1,095戸)	高齢者が居住できる良好な居住環境を備えた優良な賃貸住宅
住宅確保要配慮者 円滑入居賃貸住宅 (54か所・1,216戸)	平成29年の住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の供給の促進に関する法律（住宅セーフティネット法）の改正により制度化され、定額所得者、被災者、高齢者、障がい者、子育て世帯等の住宅確保要配慮者の入居を拒まない賃貸住宅（セーフティネット住宅）として登録できる住宅

※資料：吹田市福祉部高齢福祉室、吹田市都市計画部住宅政策室（令和2年（2020年）11月現在）

※サービス付き高齢者向け住宅の実績には、令和2年度（2020年度）中に入居開始予定のものも含む。

【高齢者向け住まいの定員割合】

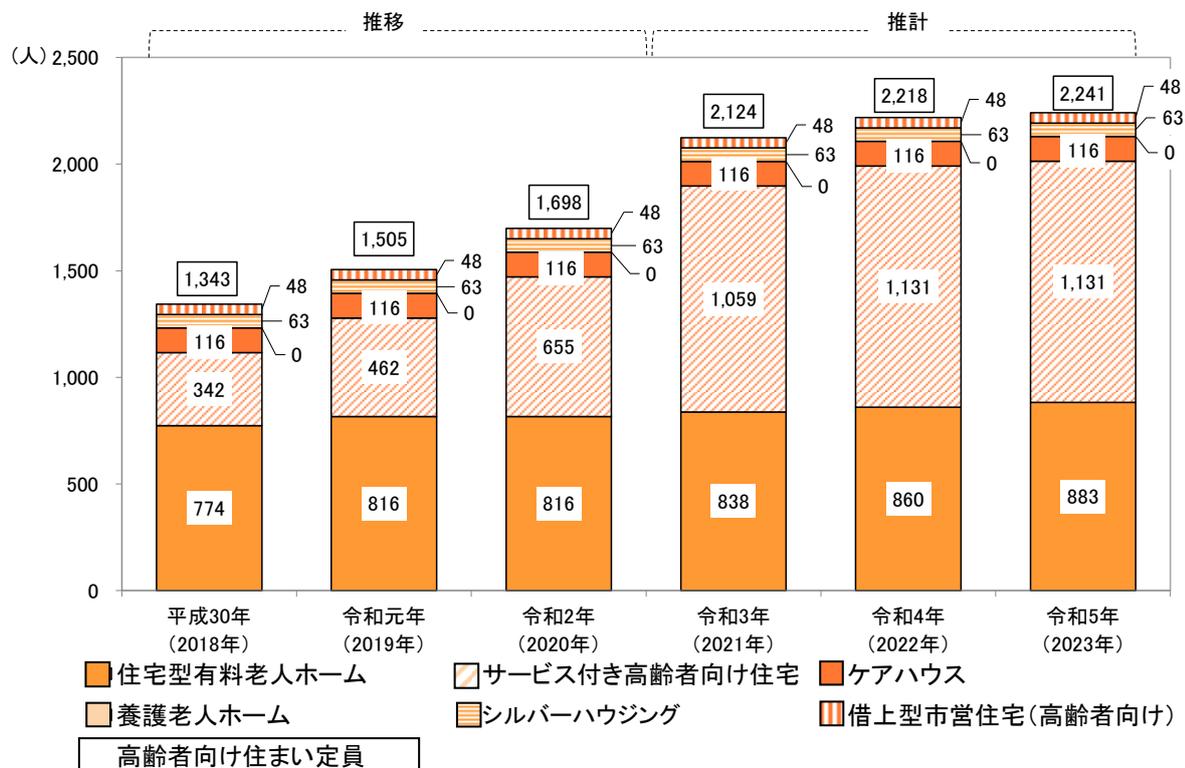


(2) 高齢者向け住まいの推移と推計

高齢者向け住まいの推移と推計をみると、令和5年（2023年）には住宅型有料老人ホームが令和2年（2020年）816人分から883人分に加え、サービス付き高齢者向け住宅は令和2年（2020年）の655人から1,131人分が増える見込みです。

【高齢者向け住まいの推移・推計】

	推移			推計		
	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和5年 (2023年)
高齢者人口(人)	87,996	88,556	89,411	89,797	89,818	90,383
高齢者向け住まい定員(人)	1,343	1,505	1,698	2,124	2,218	2,241
住宅型有料老人ホーム(人)	774	816	816	838	860	883
サービス付き高齢者向け住宅(人)	342	462	655	1,059	1,131	1,131
ケアハウス(人)	116	116	116	116	116	116
養護老人ホーム(人)	0	0	0	0	0	0
シルバーハウジング(人)	63	63	63	63	63	63
借上型市営住宅(高齢者向け)(人)	48	48	48	48	48	48
高齢者向け住まい戸数(戸)	944	2,083	2,125	2,443	2,692	2,941
高齢者向け優良賃貸住宅(戸)	865	864	864	864	864	864
住宅確保要配慮者円滑入居賃貸住宅(戸) (セーフティネット住宅)	79	1,219	1,261	1,579	1,828	2,077
(参考) 高齢者向け住まい定員+戸数	2,287	3,588	3,823	4,567	4,910	5,182



- ※ 資料：実績は吹田市福祉部高齢福祉室（各年度末時点）。令和2年度（2020年度）実績は令和2年（2020年）11月時点。サービス付き高齢者向け住宅の令和2年度（2020年度）実績には、令和2年度（2020年度）中に入居開始予定のものも含む。
- ※ 令和3年度（2021年度）から令和5年度（2023年度）は、平成30年度（2019年度）から令和2年度（2020年度）11月までの実績を基に推計。
- ※ ケアハウス、シルバーハウジング、高齢者向け優良賃貸住宅、借上型市営住宅は増減を見込んでいません。
- ※ 養護老人ホームは市内に整備されておらず、近隣市にある施設を使用しているため、本市の戸数には含んでいません。

8 『実態調査（令和元年度（2019年度））』の結果概要

(1) 実態調査の概要

今後の高齢者福祉サービスや健康づくりの方策を検討するために、日頃の生活や介護の状況、サービスの利用意向などの実態を把握することを目的として令和元年度（2019年度）に高齢者等実態調査を実施しました。調査は、令和2年（2020年）2月27日から3月13日まで、郵送で行いました。

高齢者調査					
対象者	65歳以上（要介護1～5を除く）の市民				
発送数	2,000件	有効回答数	1,567件	有効回答率	78.4%

要介護認定者調査					
対象者	要介護1～5の認定を受けている市民				
発送数	2,000件	有効回答数	1,236件	有効回答率	61.8%

- 本項で表現する用語の意味・内容は以下のとおりです。

n	: 「number」の略で、比率算出の母数
非認定・要支援者	: 高齢者調査の対象者（一般高齢者、事業対象者、要支援者のこと）
一般高齢者	: 介護保険の認定等は受けていない65歳以上の人
事業対象者	: 基本チェックリストで事業対象者認定を受けている65歳以上の人
要支援者	: 要支援認定を受けている65歳以上の人
要介護認定者	: 要介護認定者調査の対象者。要介護認定を受けている人
大阪府調査	: 大阪府実施の第5回高齢者の生活実態と介護保険サービス等に関する意識調査結果（令和元年度（2019年度））
全国の集計結果	: 第8期 全国の在宅介護実態調査データの集計・分析結果（令和2年度（2020年度）在宅介護実態調査の分析に関する研究事業）

- 回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示しています。小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が総数と一致しない場合があります。
- 複数回答を依頼した質問の場合、回答比率の合計は100%を超えます。

(2) 実態調査の結果にみる高齢者の状況

① 回答者本人の状況

性別・年齢構成・居住地域の状況

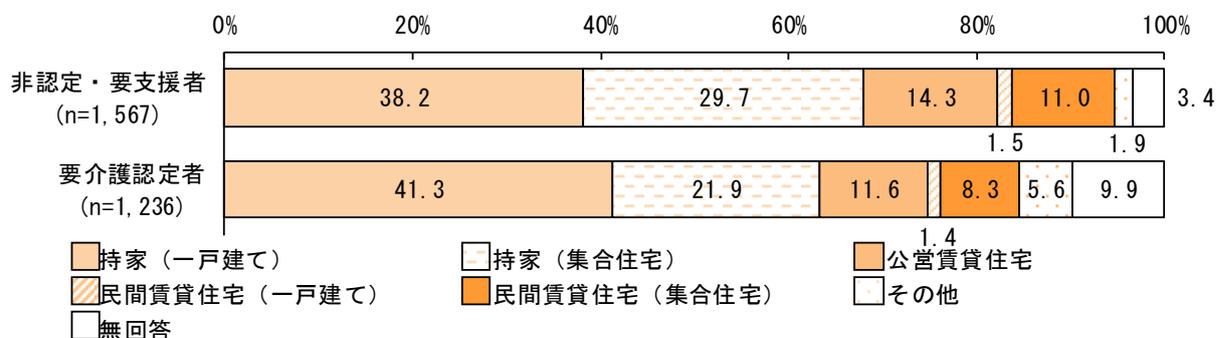
	男性	女性	65～74歳	75～84歳	85～89歳	90歳以上
非認定・要支援者	46.5%	50.9%	35.1%	40.4%	15.3%	6.1%
要介護認定者	49.7%	46.6%	14.1%	37.5%	22.4%	19.6%

	JR以南	片山・岸部	豊津・江坂・南吹田	千里山・佐井寺	山田・千里丘	千里ニュータウン・万博・阪大
非認定・要支援者	13.0%	15.1%	17.6%	19.1%	15.1%	16.7%
要介護認定者	14.6%	16.5%	16.7%	16.8%	15.1%	15.5%

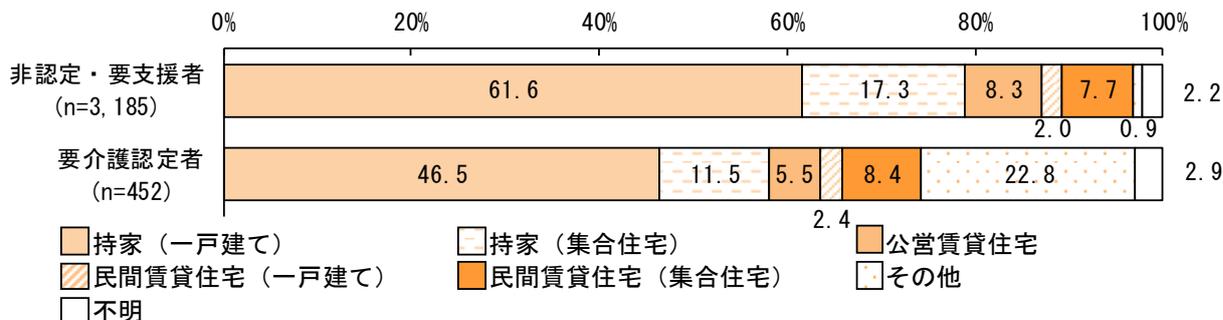
② 住まい・暮らしの状況

住まいの所有形態

持家（一戸建て）に住む人は非認定・要支援者（38.2%）、要介護認定者（41.3%）ともに最も多く、次いで、どちらも持家（集合住宅）が多くなっています。大阪府調査に比べ、持家（一戸建て）が少なく、持家（集合住宅）、公営賃貸住宅、民間賃貸住宅（集合住宅）などの集合住宅が多くなっています。

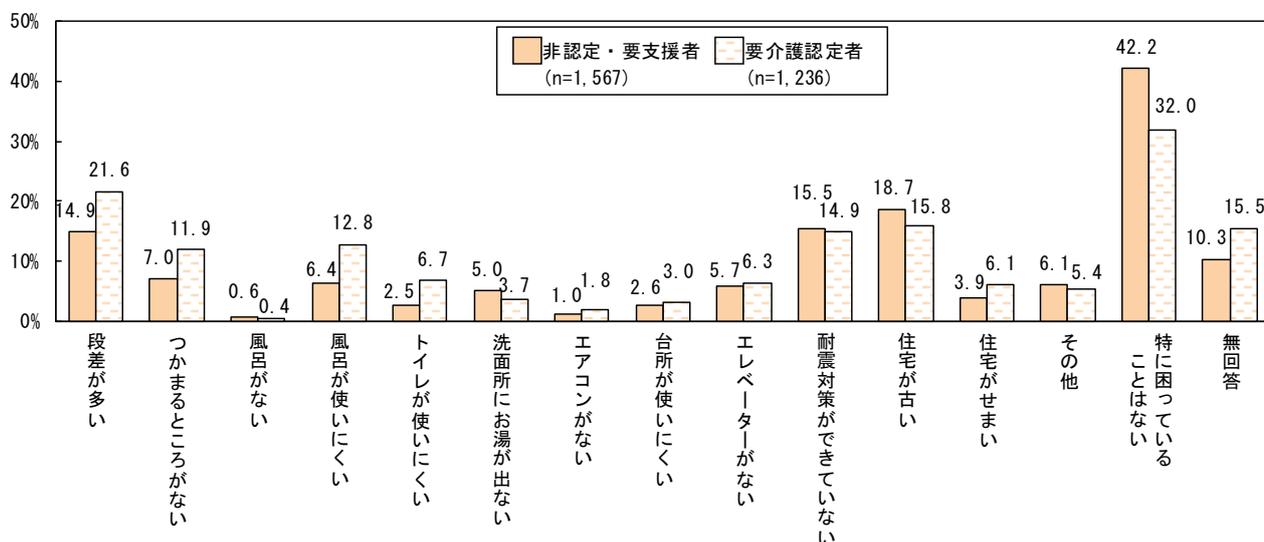


< 大阪府調査 >



住まいの困りごと（複数回答）

非認定・要支援者、要介護認定者ともに「住宅が古い」「耐震対策ができていない」が多くなっていますが、「段差が多い」「つかまるところがない」「風呂が使いにくい」「トイレが使いにくい」等では要介護認定者の割合が多くなっています。



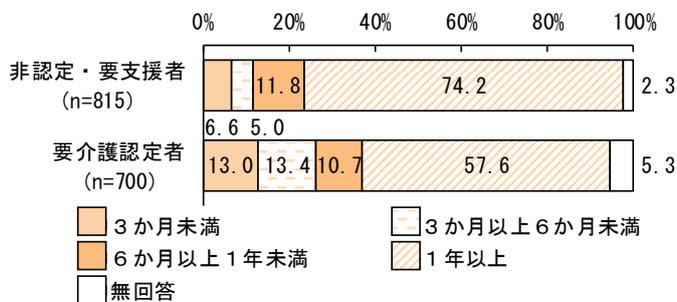
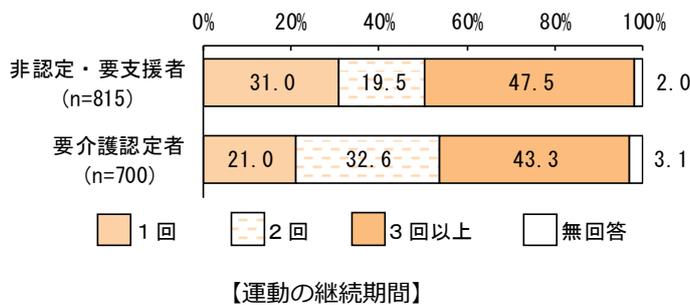
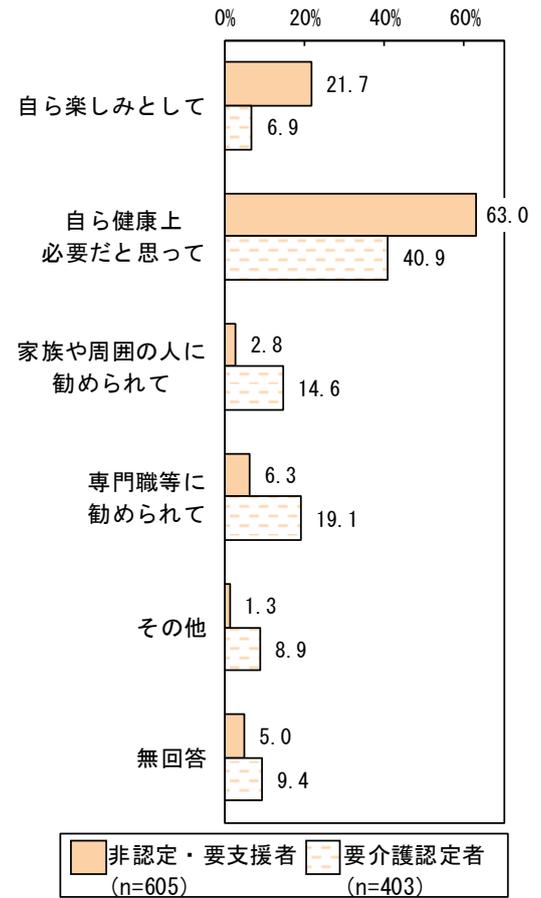
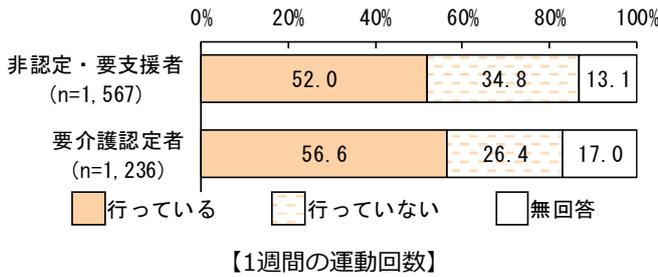
③ 身体機能の状況

運動習慣

習慣的な運動を行っている人は、非認定・要支援者で52.0%、要介護認定者で56.6%となっています。身体状況によらず週3回以上、1年以上継続して運動している人が多くなっています。また、運動を継続して行う理由は、身体状況によらず「自ら健康上必要だと思って」が最も多くなっています。なお、要介護認定者の33.7%は「家族や周囲の人」「専門職等」に勧められてなどの誘発的な理由がみられます。

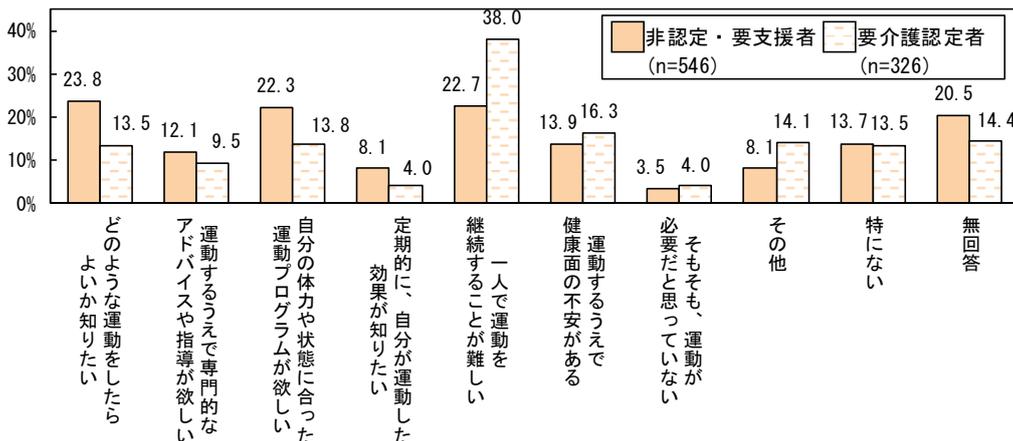
【習慣的に運動を週1回以上行っているか】
(デイサービスを含む)

【運動を継続して行う理由】



運動継続のために必要なこと、困りごと（複数回答）

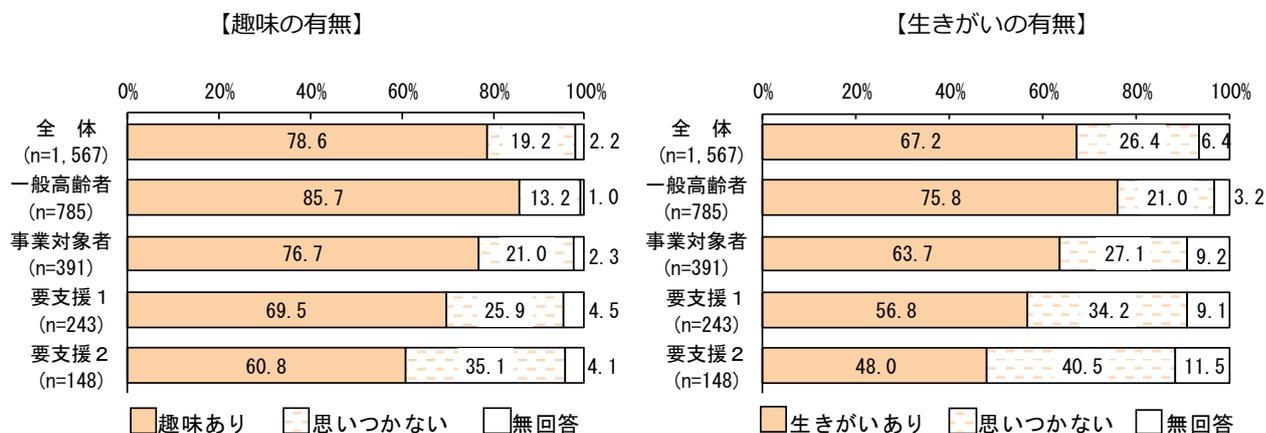
非認定・要支援者では「どのような運動をしたらよいか知りたい」(23.8%)が、要介護認定者では「一人で運動を継続することが難しい」(38.0%)が最も多くなっています。



④ 日常生活について

趣味・生きがいの有無について（高齢者調査）

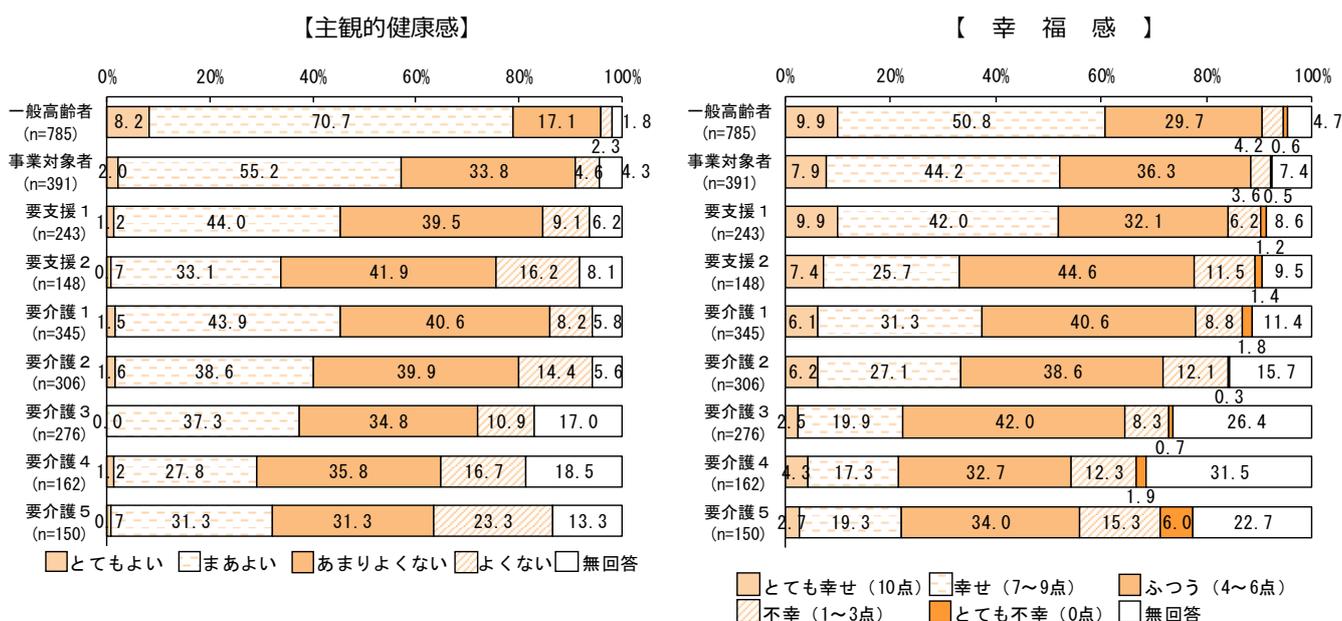
非認定・要支援者のうち「趣味がある」人は約8割、「生きがいがある」人は約7割となっています。身体が悪化するにつれて、趣味・生きがいを持つ人は少なくなる傾向がみられます。



⑤ 健康・介護予防について

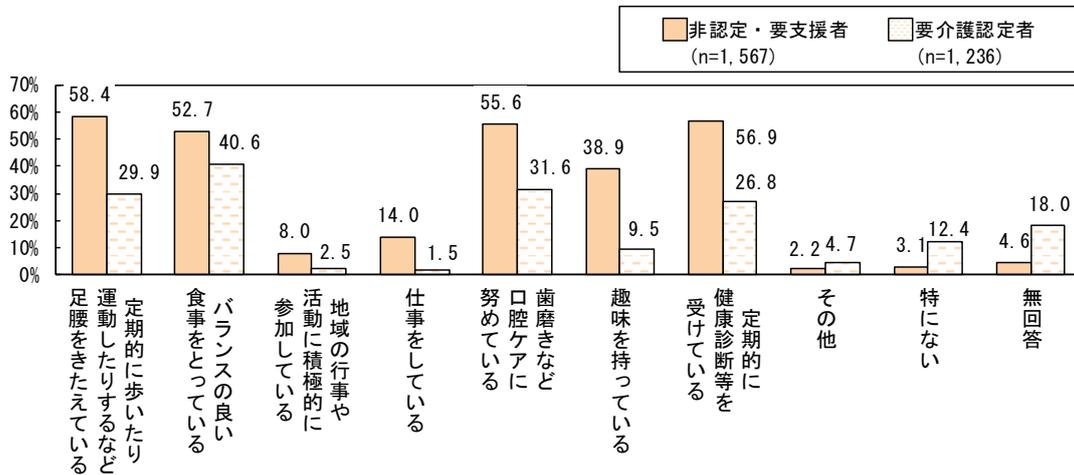
主観的健康感・幸福感

主観的健康感では、身体が悪化するにつれて「とてもよい」「まあよい」を合わせた“よい”の割合が少なくなり、「あまりよくない」「よくない」を合わせた“よくない”の割合が多くなる傾向がみられます。幸福感も同様に、身体が悪化するにつれて「とても幸せ」「幸せ」を合わせた“幸せ”の割合が少なくなり、「不幸」「とても不幸」を合わせた“不幸”の割合が多くなる傾向がみられます。

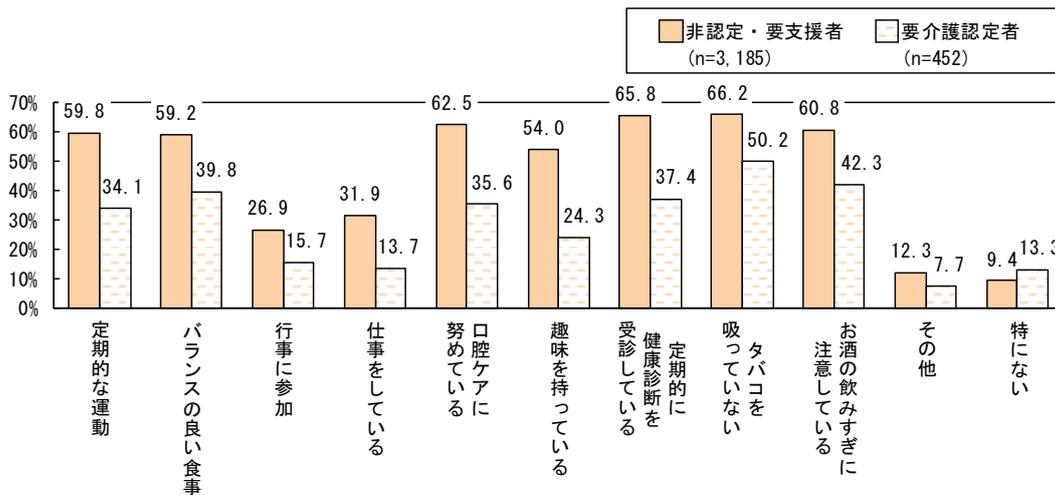


健康・介護予防の取組（複数回答）

非認定・要支援者では「足腰をきたえている」（58.4%）が、要介護認定者では「バランスの良い食事をとる」（40.6%）が最も多くなっています。身体状況にかかわらず「特にない」の割合が少なく、個々の健康づくり・介護予防への意識は高いと考えられます。大阪府調査と比べると、行事への参加、仕事、趣味では特に取り組んでいる割合が少なくなっています。

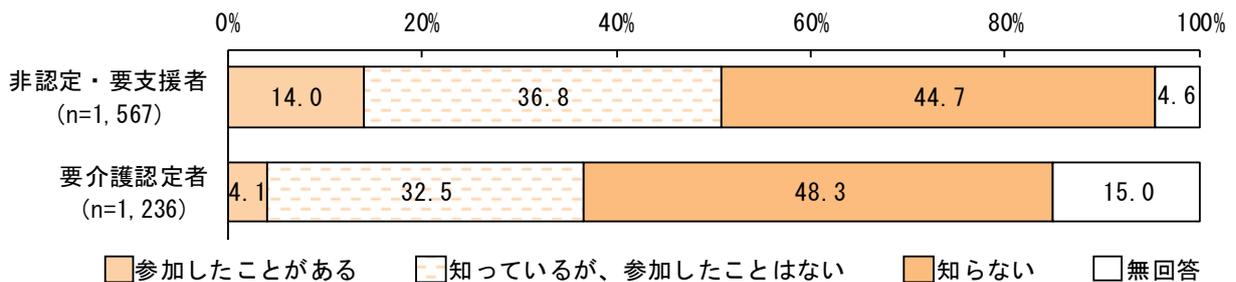


<大阪府調査>



市の介護予防事業への参加割合

参加したことがある人は、非認定・要支援者の14.0%、要介護認定者の4.1%で、非認定・要支援者が約10ポイント多くなっています。

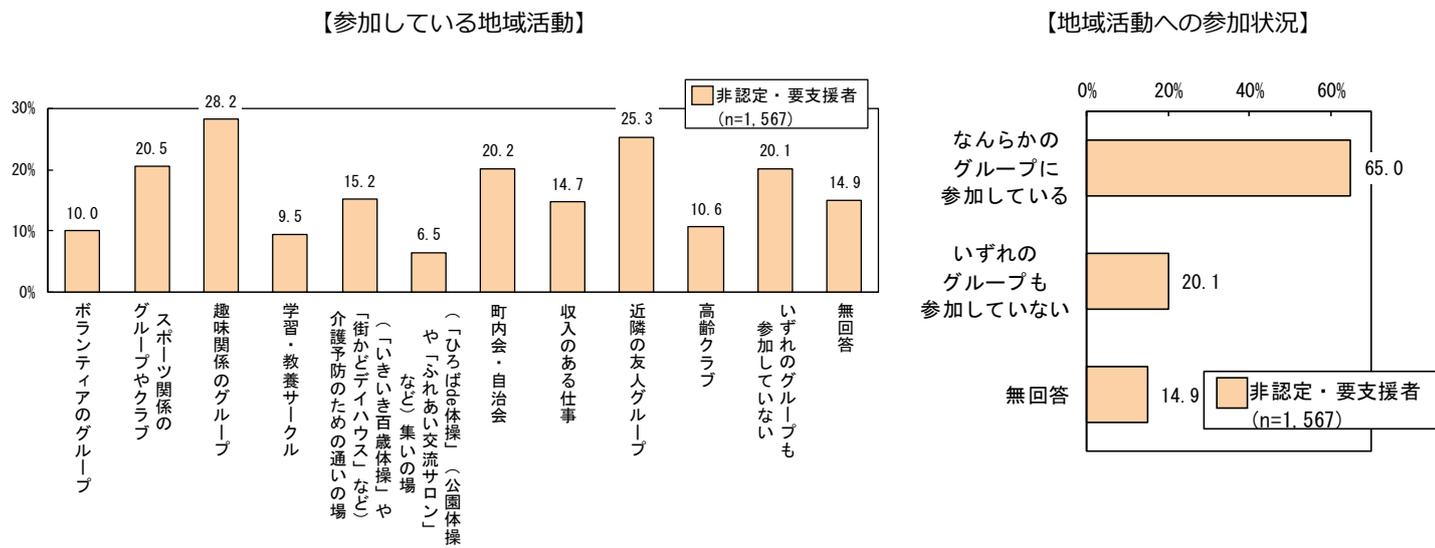


⑥ 社会参加について

地域活動への参加状況（複数回答）（高齢者調査）

非認定・要支援者のうち、何らかのグループに参加している人は65.0%、いずれのグループも参加していない人は20.1%となっています。

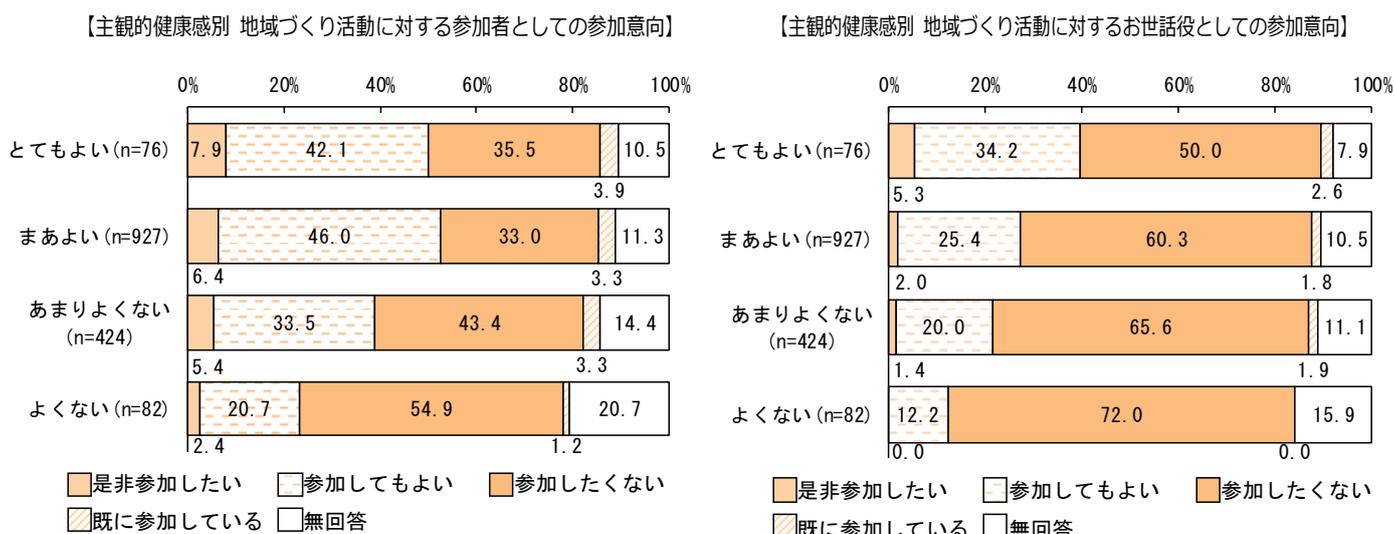
スポーツ関係のグループやクラブ、趣味関係のグループ、町内会・自治会、近隣の友人グループに参加している人が2～3割と比較的多くなっています。



主観的健康感別 地域づくり活動に対する参加意向（参加者・お世話役）（高齢者調査）

非認定・要支援者のうち、地域づくり活動に対する参加者としての参加意向について、主観的健康感がよいほど、「是非参加したい」「参加してもよい」人は多くなっています。

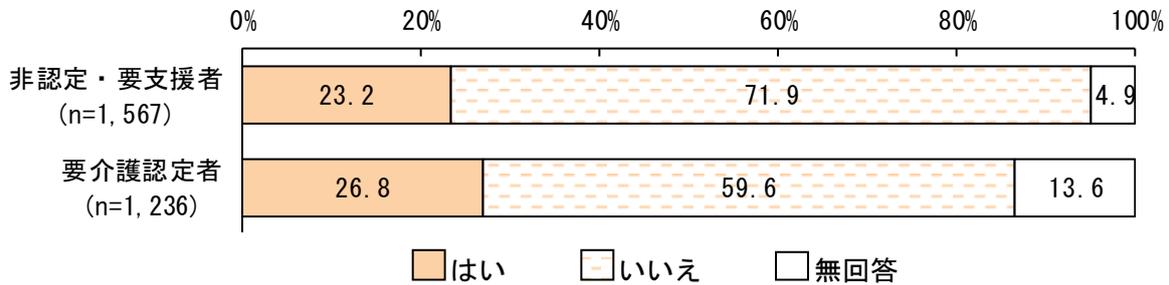
また、地域づくり活動に対するお世話役としての参加意向についても、同様の傾向となっています。



⑦ 認知症について

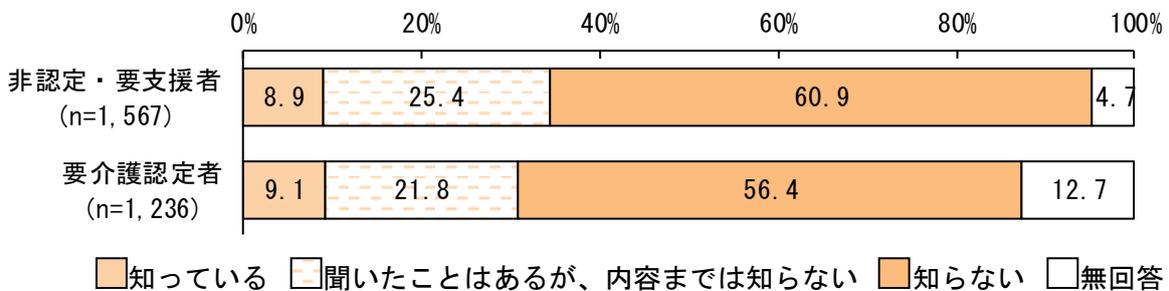
認知症相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口を知っている人は、非認定・要支援者で23.2%、要介護認定者で26.8%となっています。



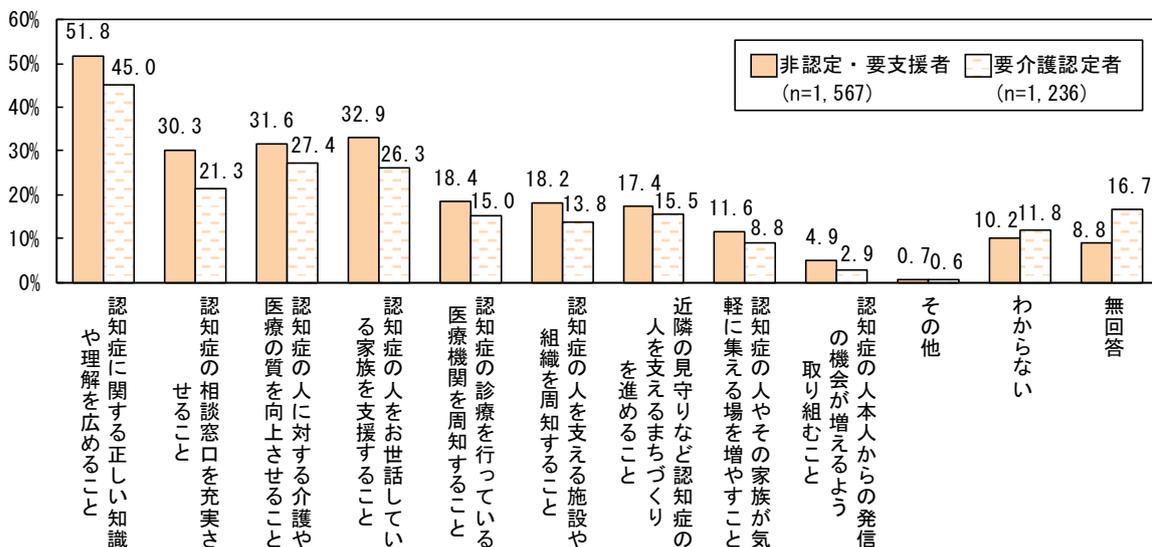
認知症サポーターの認知度

認知症サポーターを知っている人は非認定・要支援者で8.9%、要介護認定者で9.1%にとどまっています。



認知症の人が安心して暮らせるまちにするために必要な対策（3つまで）

認知症の人が安心して暮らせるまちにするために必要な対策について、非認定・要支援者、要介護認定者ともに「認知症に関する正しい知識や理解を広めること」が最も高く、次いで非認定・要支援者では「認知症の人をお世話している家族を支援すること」(32.9%)が、要介護認定者では「認知症の人に対する介護や医療の質を向上させること」(27.4%)が多くなっています。

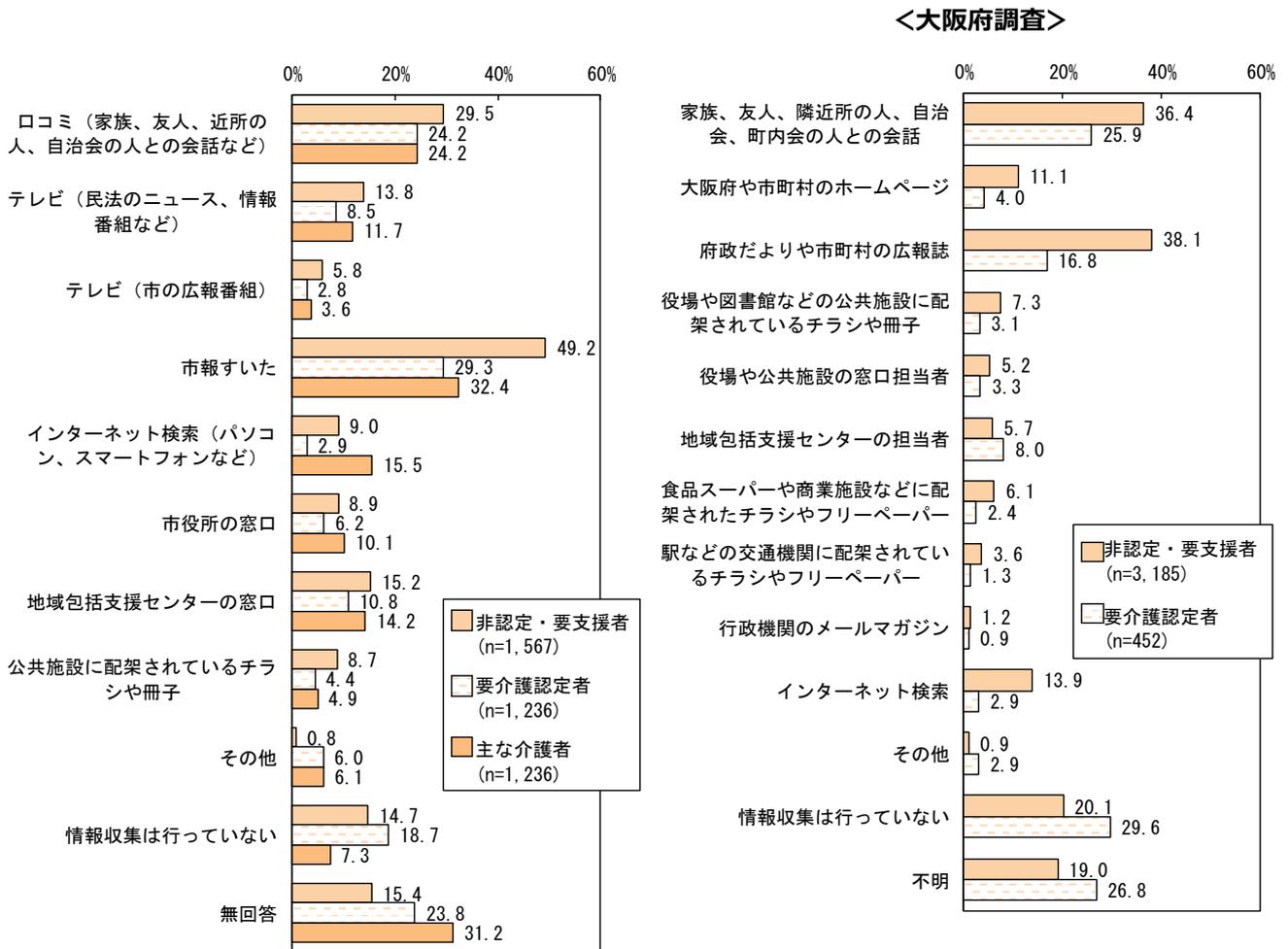


⑧ 情報収集について

介護や生活支援など行政サービスの情報収集手段（複数回答）

高齢者、要介護認定者、主な介護者いずれも、主な情報収集手段は「市報すいた」、「ロコミ」となっています。要介護認定者の主な介護者のうち15.5%はインターネット検索を活用していますが、非認定・要支援者では9.0%と差がみられます。大阪府調査と比べると、非認定・要支援者、要介護認定者ともに、市の広報誌が多くなっています。また、「情報収集は行っていない」が少なくなっています。

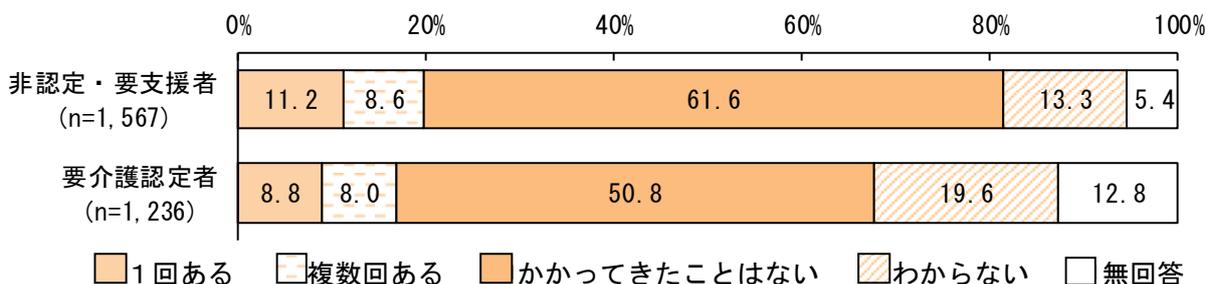
【介護や生活支援などの行政サービスの情報収集手段】



⑨ 防犯・防災について

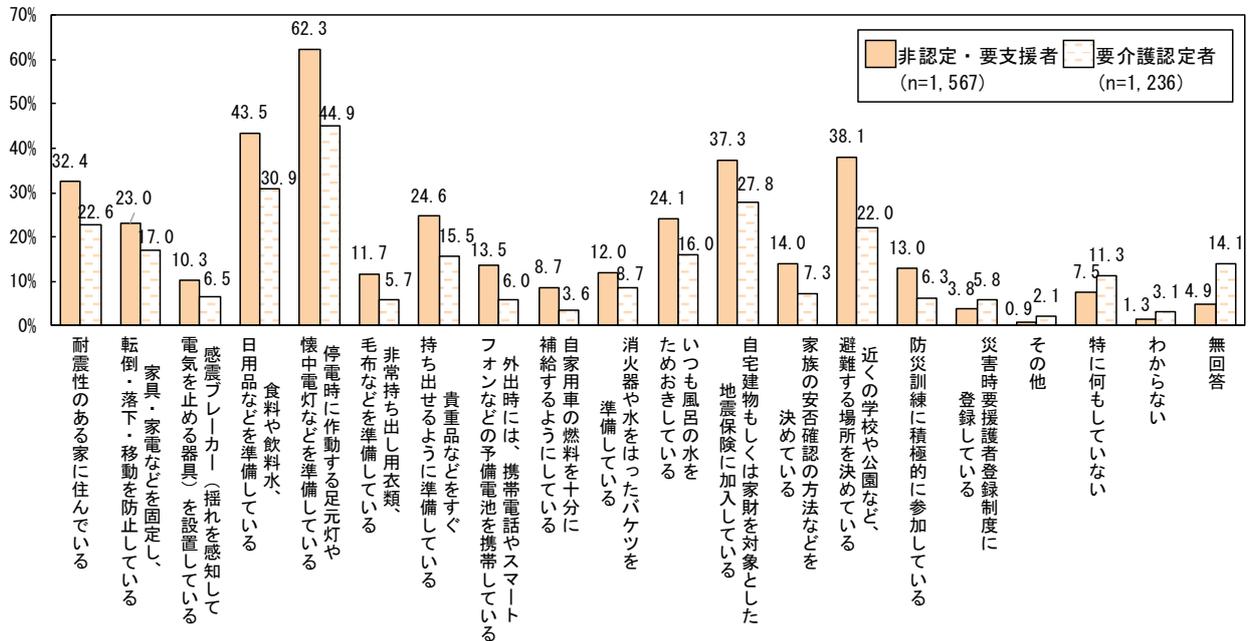
過去1年間に「特殊詐欺」と思われる電話がかかってきた経験

非認定・要支援者、要介護認定者どちらも「1回ある」「複数回ある」を合わせた“ある”が 約2割となっています。



災害に備えた対策（複数回答）

「停電時に備えた懐中電灯」「食料や飲料水、日用品等」の準備をする、「避難場所を決めている」人が多いが、全体として非認定・要支援者に比べ、要介護認定者の割合が少なくなっています。

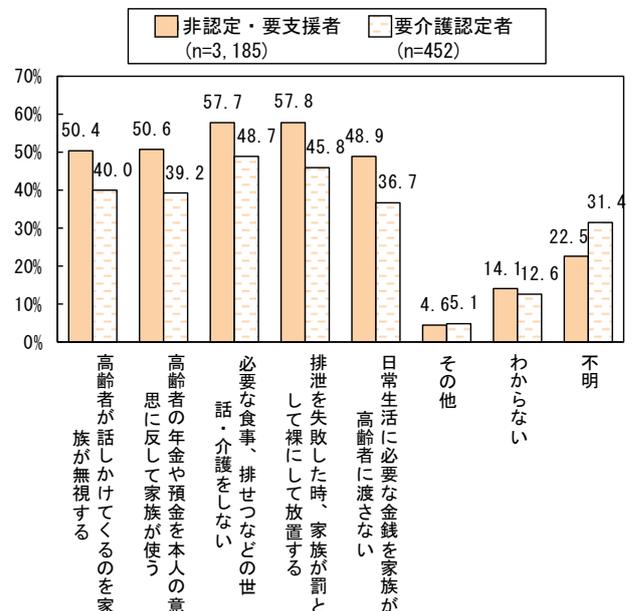
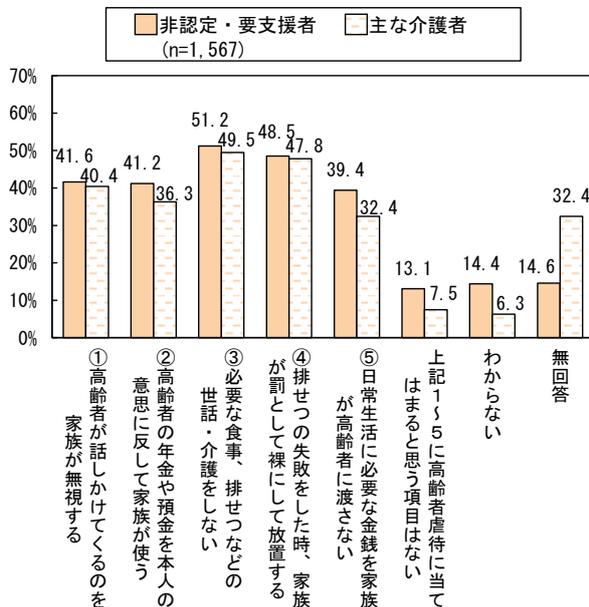


⑩ 権利擁護について

高齢者虐待の認知状況（複数回答）

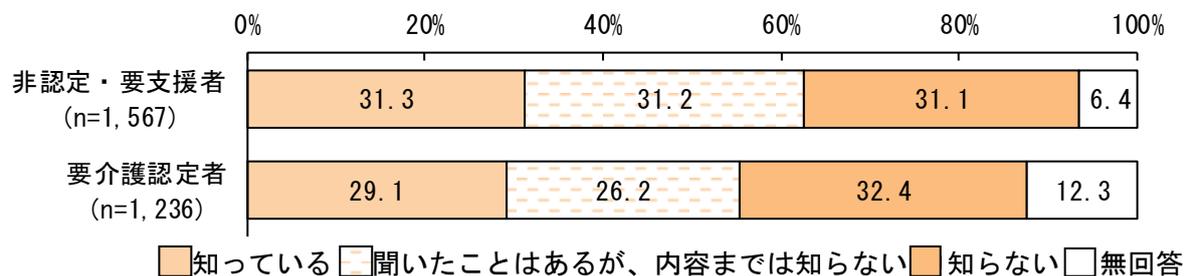
非認定・要支援者、主な介護者ともに、「日常生活に必要な金銭を家族が高齢者に渡さない」が虐待行為であると回答した人が、他の選択肢に比べ少なくなっています。高齢者虐待について、「必要な食事、排せつなどの世話・介護をしない」「排せつの失敗をした時、家族が罰として裸にして放置する」が虐待行為であると認識している人が最も多くなっていますが、5割程度に留まっています。また、いずれも虐待に当たらないと考える人が約1割となっています。大阪府調査と比べると、①～⑤を虐待行為と認識している割合は少なくなっています。

<大阪府調査>

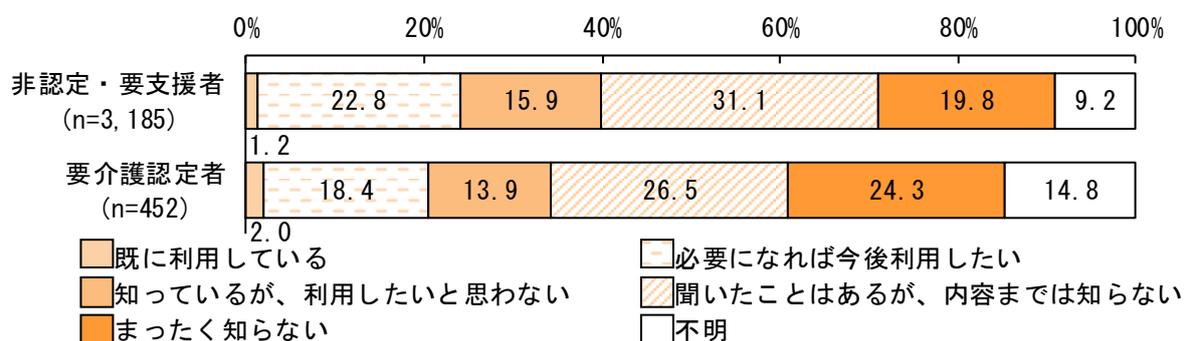


成年後見制度の認知状況

成年後見制度を「知っている」人は非認定・要支援者、要介護認定者ともに約3割となっています。大阪府調査と比べると、「知っている」人はやや少なくなっています。



<大阪府調査>

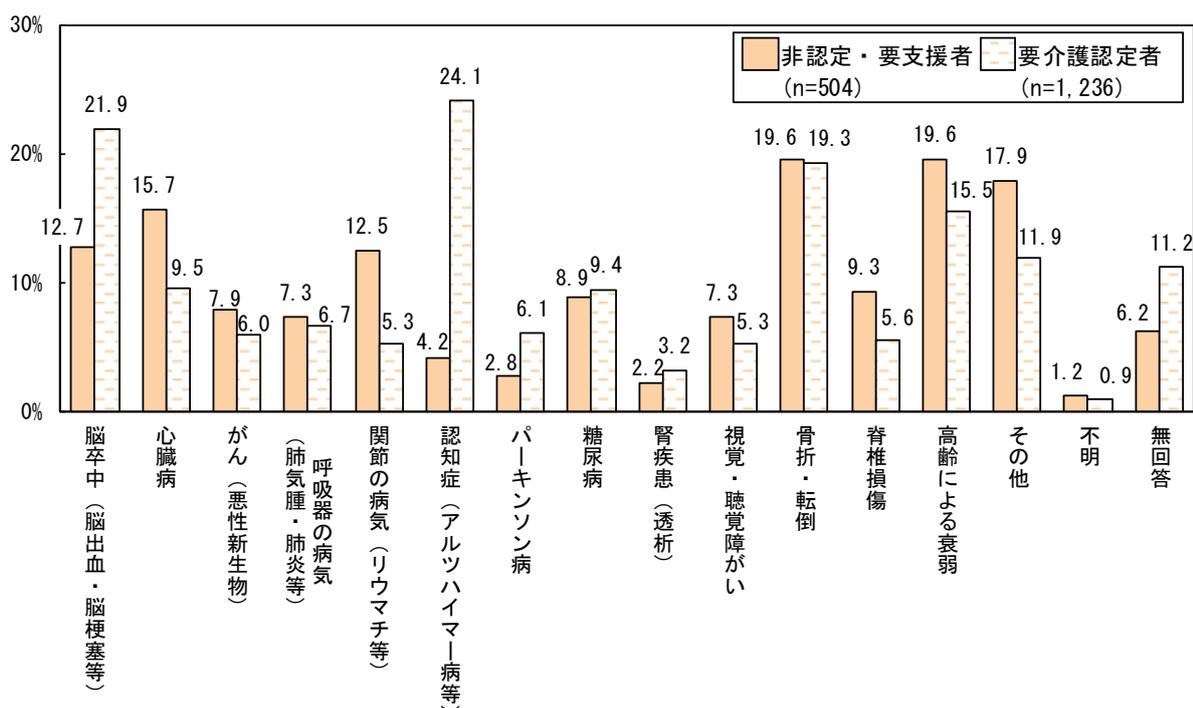


※「知っている」:「既に利用している」「必要になれば今後利用したい」「知っているが、利用したいと思わない」の合計

⑪ 介護の状況

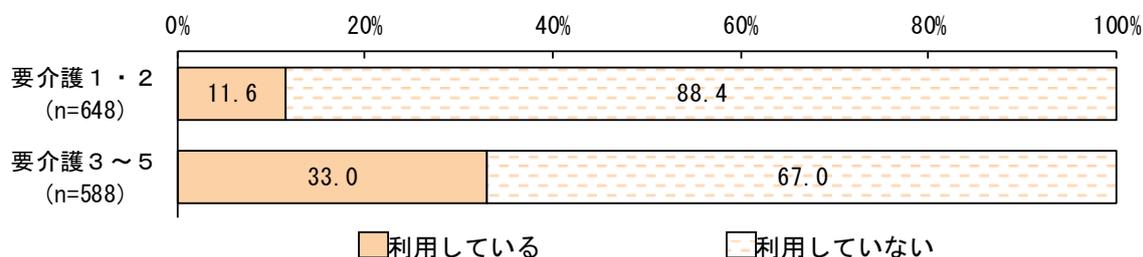
介護・介助が必要になった原因（複数回答）

非認定・要支援者では「骨折・転倒」、「高齢による衰弱」が多くなっています。要介護認定者では「認知症（アルツハイマー病等）」が24.1%で最も多く、次いで「脳卒中」が21.9%となっています。

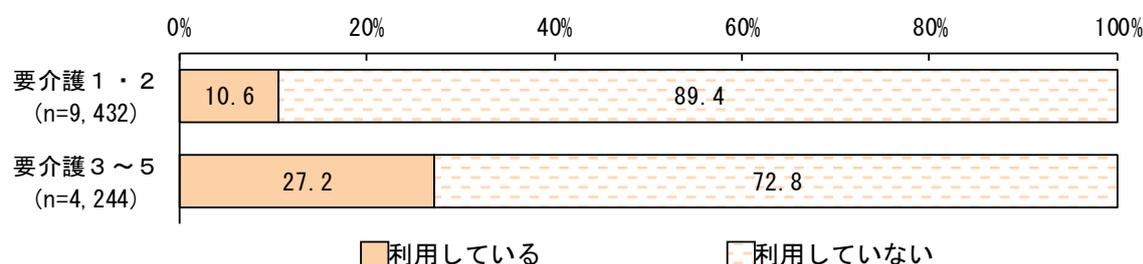


訪問診療の利用（要介護認定者調査）

要介護度別にみると、要介護3～5では「利用している」が33.0%となっており、要介護1・2の11.6%より21.4ポイント高くなっています。全国の集計結果と同程度となっています。



<全国の集計結果（人口30万人以上の自治体のみ）>



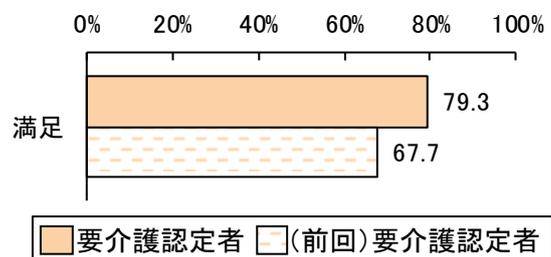
介護保険サービスの満足度（要介護認定者調査）

訪問介護（ホームヘルプサービス）、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所介護（デイサービス）、通所リハビリテーション（デイケア）、短期入所生活介護・療養介護（ショートステイ）は、いずれも満足度が70%以上であり、5つのサービスの平均満足度は79.3%と、前回と比べ11.6ポイント多くなっています。

【サービス別 介護保険サービスの満足度】

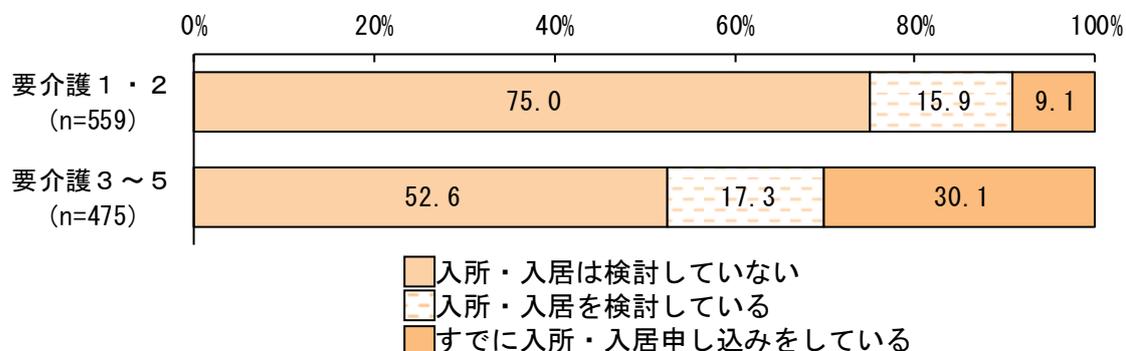
サービス	満足度 (%)
訪問介護(ホームヘルプサービス)	79.0
訪問看護	82.9
訪問リハビリテーション	79.6
通所介護(デイサービス)	82.4
通所リハビリテーション(デイケア)	78.9
短期入所生活介護・療養介護(ショートステイ)	73.0
各サービス 満足度合計(平均)	475.8(79.3)

【介護保険サービスの満足度（前回比較）】

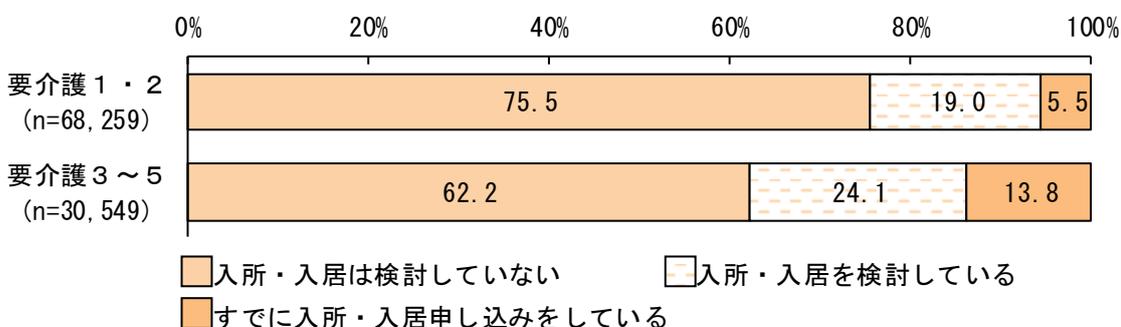


施設等への入所・入居の検討状況（要介護認定者調査）

「検討していない」人は、要介護1・2で75.0%、要介護3～5で52.6%となっています。「検討している」人はどちらも約16～17%となっています。全国の集計結果と比べると、要介護3～5で「すでに入所・入居申し込みをしている」が多くなっています。



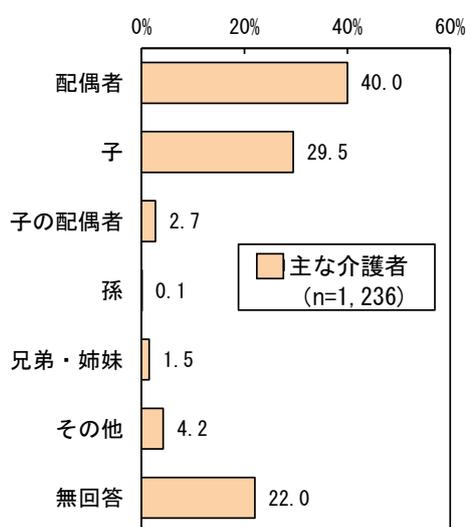
<全国の集計結果>



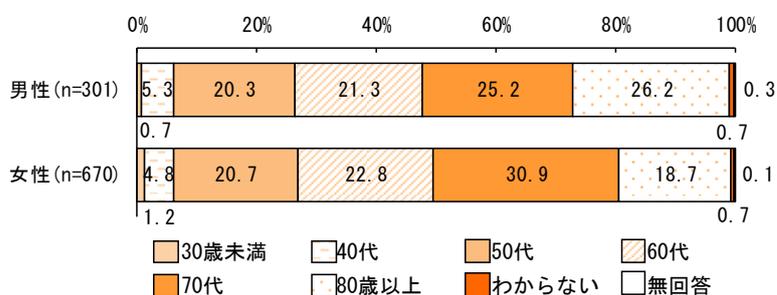
介護者の属性（要介護認定者調査）

主な介護者は「配偶者」が40.0%で最も多く、次いで「子」が29.5%となっています。主な介護者の性別・年齢をみると、男女ともに「70代」以上が約5割を占めていますが、特に男性では「80歳以上」が26.2%と、女性に比べ7.5ポイント多くなっています。

【主な介護者の続柄】

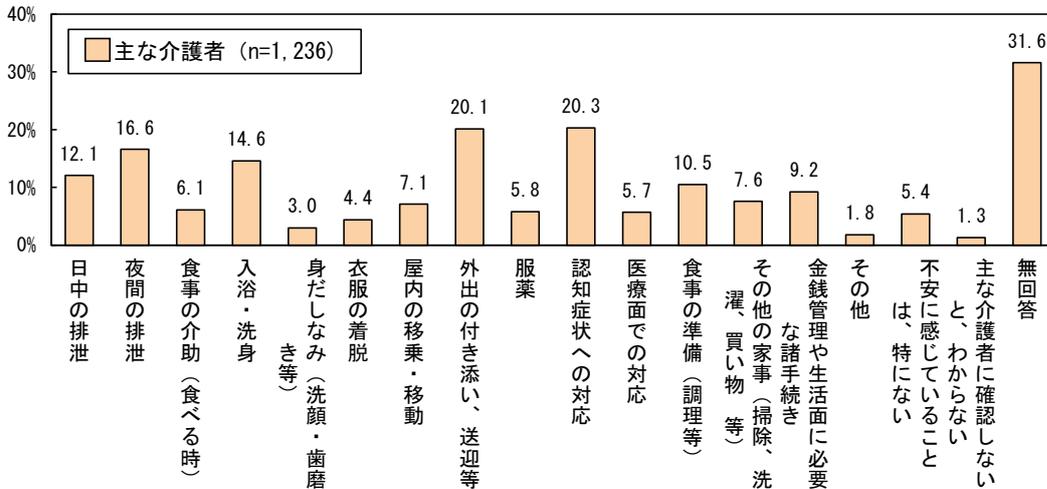


【主な介護者の性別・年齢】



主な介護者が不安に感じる介護（3つまで）（要介護認定者調査）

主な介護者が不安に感じる介護は「認知症状への対応」が20.3%で最も多く、次いで、「外出の付き添い、送迎等」が20.1%、「夜間の排泄」が16.6%となっています。

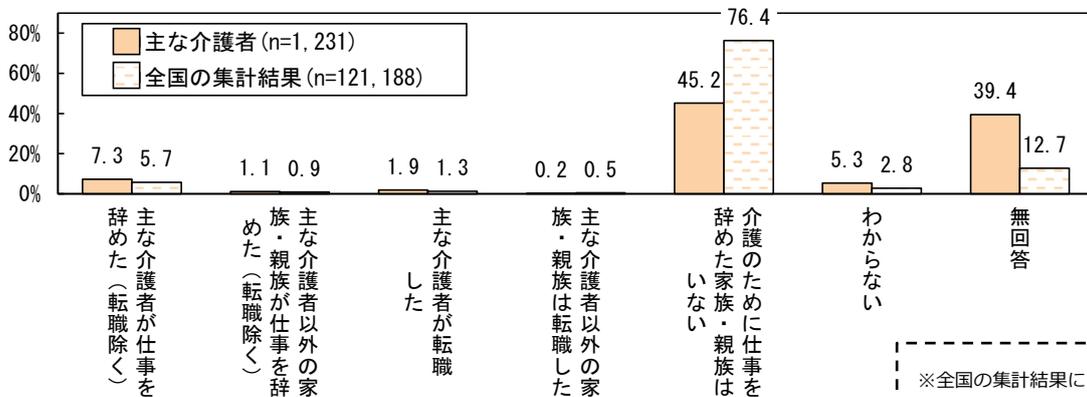


主な介護者の就労状況（要介護認定者調査）

「主な介護者が過去1年の間に介護のために仕事を辞めた（転職除く）」と回答した人は7.3%となっており、全国の集計結果と比べるとやや多くなっています。

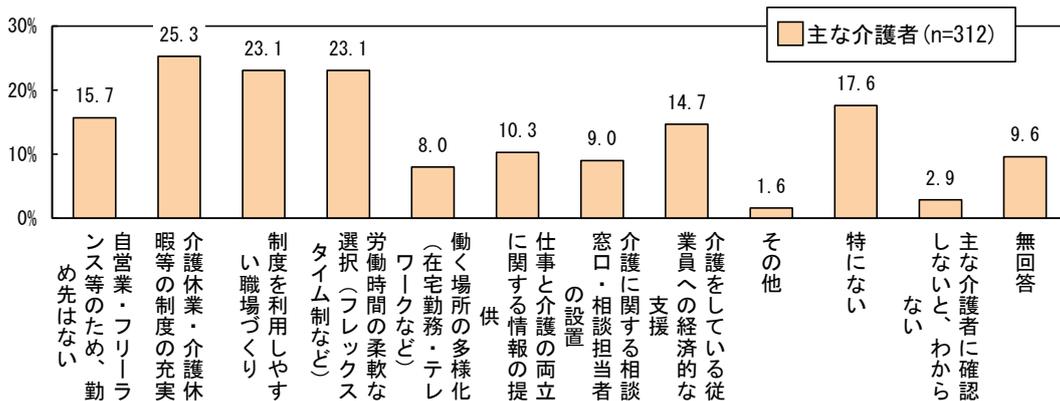
「介護休業・介護休暇等の制度の充実」（25.3%）、「制度を利用しやすい職場づくり」「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」（23.1%）を勤め先が行うことが、介護と仕事の両立に効果があると考える介護者が多くなっています。

【介護離職の状況（全国の集計結果との比較）（複数回答）】



※全国の集計結果には、要支援認定者も含まれています。

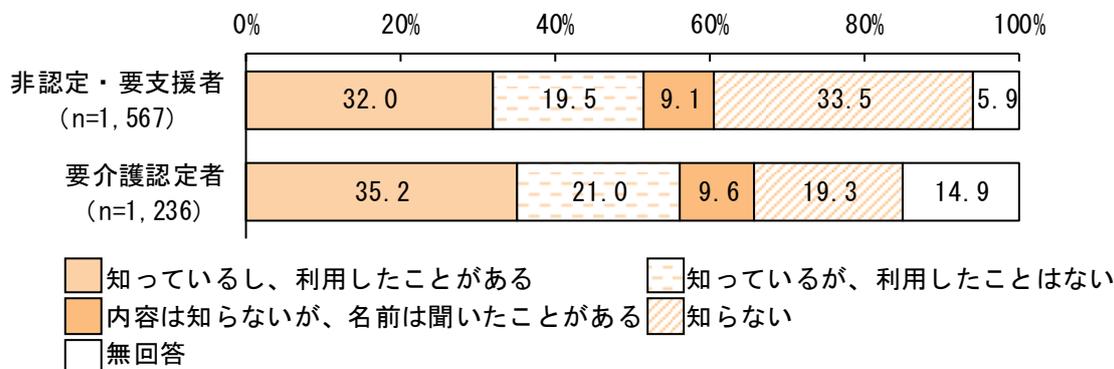
【勤め先から必要な支援（3つまで）】



⑫ 地域包括ケアシステムについて

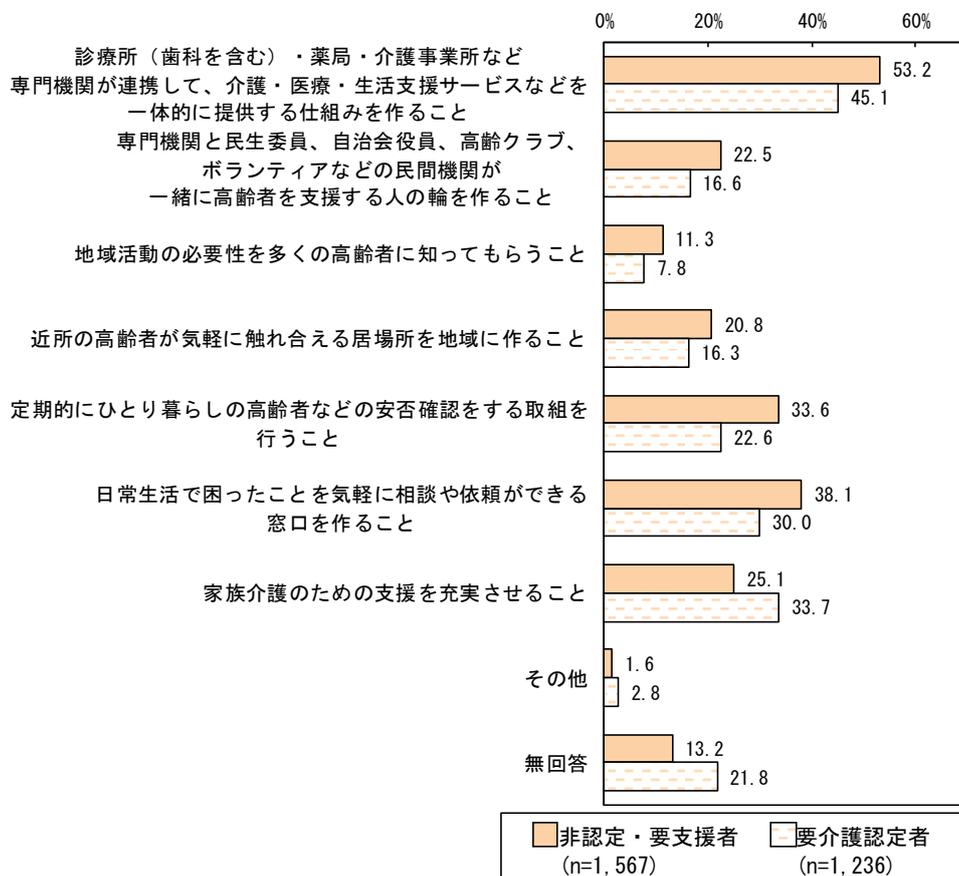
地域包括支援センターの認知度と利用状況

地域包括支援センターの認知度について、「知っているし、利用したことがある」「知っているが、利用したことはない」を合わせた“知っている”人は非認定・要支援者51.5%、要介護認定者56.2%となっています。利用したことがある人はともに約3割となっています。



地域包括ケアシステムのために大切なこと（複数回答）

「専門機関等が連携して、介護・医療・生活支援サービスなどを一体的に提供する仕組みづくり」が最も多く、非認定・要支援者で53.2%、要介護認定者で45.1%となっています。次いで、非認定・要支援者で「気軽に相談や依頼ができる窓口を作ること」(38.1%)、要介護認定者で「家族介護のための支援の充実」(33.7%)が多くなっています。

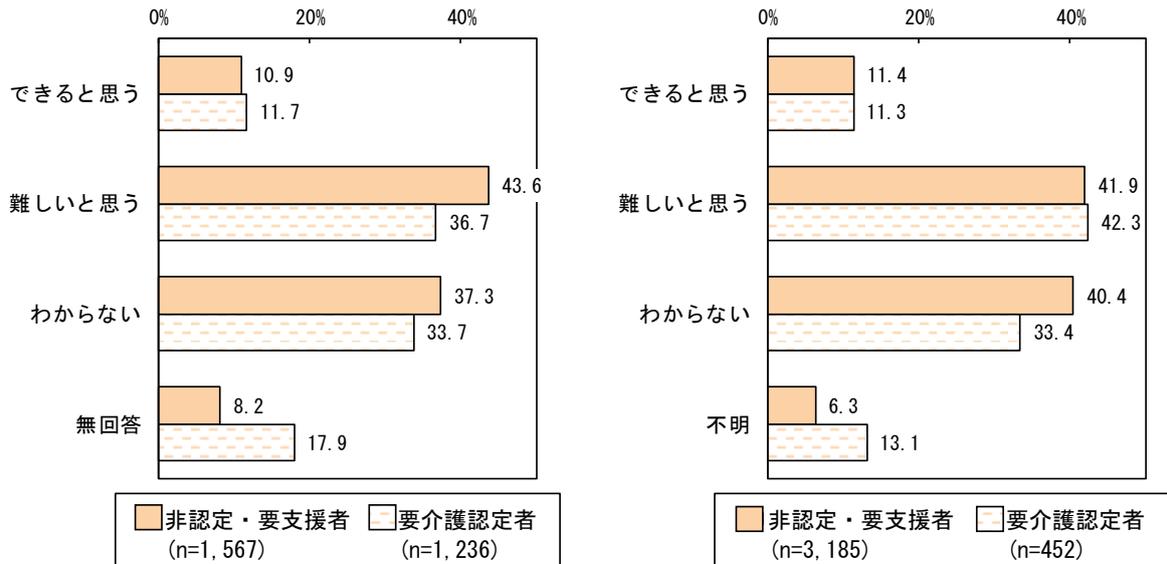


⑬ 今後の暮らしについて

自宅療養しながら最期まで過ごすこと

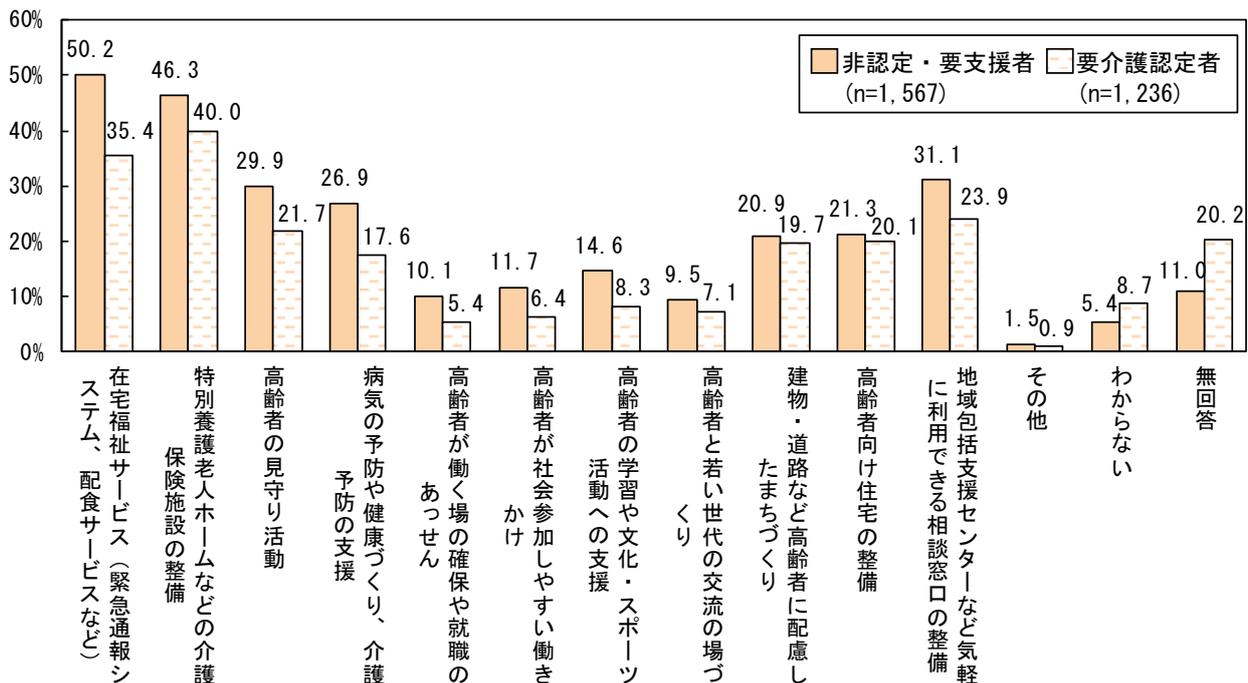
非認定・要支援者では、「難しいと思う」が43.6%で最も多く、次いで「わからない」が37.3%、「できると思う」が10.9%となっています。要介護認定者では、「難しいと思う」が36.7%で最も多く、次いで「わからない」が33.7%、「できると思う」が11.7%となっています。大阪府と比べると、非認定・要支援者は概ね同様、要介護認定者では「難しいと思う」がやや少なくなっています。

<大阪府調査>



今後充実を望む高齢者保健福祉の施策（複数回答）

非認定・要支援者が今後充実を求める高齢者保健福祉施策は、「在宅福祉サービス（緊急通報システム、配食サービスなど）」が50.2%、要介護認定者は、「特別養護老人ホームなどの介護保険施設の整備」が40.0%で最も多くなっています。



(3) 地域別にみる高齢者の特徴**① JR 以南地域**

家族構成	外出
○夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）が 32.5%で最も多く、次いで1人暮らしが 27.0%、息子・娘との2世帯が 19.2%。息子・娘との2世帯の割合は市内で2番目に高い。	○外出を控えている割合は 27.5%。 ○外出する際の移動手段の上位は「徒歩」（55.3%）、「電車」（28.3%）、「タクシー」（27.5%）。「自転車」（22.3%）は市内で最も高い。
住まい	健康・介護予防
○持家（一戸建て）が 56.6%で最も多く、次いで民間賃貸住宅（集合住宅）が 13.2%、持家（集合住宅）が 10.1%。持家（一戸建て）、民間賃貸住宅（集合住宅）の割合はそれぞれ市内で1番高い。 ○住まいの困りごとの上位は、「住宅が古い」（20.3%）、「耐震対策ができていない」（19.2%）、「段差が多い」（17.9%）。 「耐震対策ができていない」割合は市内で2番目に高い。	○かかりつけ医がいる割合は 82.9%。 ○かかりつけ歯科医がいる割合は 65.5%。 ○かかりつけ薬局を決めている割合は 72.2%で市内で2番目に高い。 ○市で実施している介護予防事業に「参加したことがある」割合は 7.5%。「知っている（認知度）」の割合は 44.6%。
地域での活動	地域包括支援センター
○地域づくり活動に対する参加者として「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせた“参加意向あり”は 41.7%。お世話役として“参加意向あり”は 22.1%。 ○高齢者の生きがいにつながると思う行政の取組の上位は「高齢者が自由に集まり、活動することができる場の提供」（37.7%）、「後期高齢者や独居高齢者等への安否確認などの声かけ」（27.5%）、「趣味や教養のための講座・教室」（27.5%）。	○「知っているし、利用したことがある」（28.3%）、「知っているが、利用したことはない」（20.0%）を合わせた“知っている（認知度）」の割合は 48.3%。
	認知症サポーター
	○「知っている」（8.3%）、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（24.4%）を合わせた“知っている（認知度）」の割合は 32.7%。

② 片山・岸部地域

家族構成	外出
○夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）が 31.1%で最も多く、次いで1人暮らしが 23.8%、息子・娘との2世帯が 17.9%。 1人暮らしの割合は市内で2番目に低い。	○外出を控えている割合は 32.1%。 ○外出する際の移動手段の上位は「徒歩」（51.7%）、「タクシー」（30.2%）、「電車」（29.5%）。 「タクシー」の割合は市内で2番目に高い。
住まい	健康・介護予防
○持家（一戸建て）が 52.6%で最も多く、次いで持家（集合住宅）が 15.2%、民間賃貸住宅（集合住宅）が 10.4%。持家（一戸建て）の割合は市内で2番目に高い。 ○住まいの困りごとの上位は、「段差が多い」（21.8%）、「住宅が古い」（20.9%）、「耐震対策ができていない」（20.0%）。「耐震対策ができていない」割合は市内で最も高く、「住宅が古い」は2番目に高い。	○かかりつけ医がいる割合は 83.0%。 ○かかりつけ歯科医がいる割合は 66.0%。 ○かかりつけ薬局を決めている割合は 68.3%。 ○市で実施している介護予防事業に「参加したことがある」割合は 7.5%。「知っている（認知度）」の割合は 46.5%。
地域での活動	地域包括支援センター
○地域づくり活動に対する参加者として「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせた“参加意向あり”は 52.8%で市内で2番目に高い。お世話役として“参加意向あり”は 30.0%で市内で2番目に高い。 ○高齢者の生きがいにつながると思う行政の取組の上位は「高齢者が自由に集まり、活動することができる場の提供」（38.0%）、「後期高齢者や独居高齢者等への安否確認などの声かけ」（33.3%）、「趣味や教養のための講座・教室」（32.5%）。「高齢者が自由に集まり、活動することができる場の提供」の割合は市内で2番目に高い。	○「知っているし、利用したことがある」（26.3%）、「知っているが、利用したことはない」（23.4%）を合わせた“知っている（認知度）」の割合は 49.7%。
	認知症サポーター
	○「知っている」（8.2%）、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（24.5%）を合わせた“知っている（認知度）」の割合は 32.7%。

③ 豊津・江坂・南吹田地域

家族構成	外出
<p>○夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）が 32.2%で最も多く、次いで1人暮らしが 27.8%、息子・娘との2世帯が 17.4%。 1人暮らしの割合は市内で2番目に高い。</p>	<p>○外出を控えている割合は 33.0%。 ○外出する際の移動手段の上位は「徒歩」（55.2%）、「電車」（30.9%）、「タクシー」（28.6%）。</p>
住まい	健康・介護予防
<p>○持家（一戸建て）が 38.0%で最も多く、次いで持家（集合住宅）が 32.8%、民間賃貸住宅（集合住宅）が 12.2%。持家（集合住宅）、民間賃貸住宅（集合住宅）の割合はそれぞれ市内で2番目に高い。 ○住まいの困りごとの上位は、「住宅が古い」（21.8%）、「耐震対策ができていない」（17.6%）、「段差が多い」（15.1%）。 「住宅が古い」割合は市内で最も高い。</p>	<p>○かかりつけ医がいる割合は 82.8%。 ○かかりつけ歯科医がいる割合 67.2%。 ○かかりつけ薬局を決めている割合は 74.7%で市内で最も高い。 ○市で実施している介護予防事業に「参加したことがある」割合は 7.9%。“知っている（認知度）”の割合は 36.9%。</p>
地域での活動	地域包括支援センター
<p>○地域づくり活動に対する参加者として「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせた“参加意向あり”は 50.7%。お世話役として“参加意向あり”27.2%。 ○高齢者の生きがいにつながると思う行政の取組の上位は「高齢者が自由に集まり、活動することができる場の提供」（38.8%）、「後期高齢者や独居高齢者等への安否確認などの声かけ」（34.1%）、「趣味や教養のための講座・教室」（29.0%）。「高齢者が自由に集まり、活動することができる場の提供」の割合は市内で最も高い。</p>	<p>○「知っているし、利用したことがある」（28.2%）、「知っているが、利用したことはない」（17.2%）を合わせた“知っている（認知度）”の割合は 45.4%。</p>
	認知症サポーター
	<p>○「知っている」（8.3%）、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（19.5%）を合わせた“知っている（認知度）”の割合は 27.8%。</p>

④ 千里山・佐井寺地域

家族構成	外出
<p>○夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）が 35.7%で最も多く、次いで1人暮らしが 25.2%、息子・娘との2世帯が 16.4%。 夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）の割合は市内で2番目に高い。</p>	<p>○外出を控えている割合は 33.8%。 ○外出する際の移動手段の上位は「徒歩」（62.1%）、「電車」（40.2%）、「タクシー」（32.7%）。「徒歩」、「電車」、「タクシー」の割合はそれぞれ市内で最も高い。</p>
住まい	健康・介護予防
<p>○持家（一戸建て）が 44.8%で最も多く、次いで持家（集合住宅）が 31.6%、民間賃貸住宅（集合住宅）が 9.7%。持家（一戸建て）、持家（集合住宅）の割合はそれぞれ市内で3番目に高い。 ○住まいの困りごとの上位は、「段差が多い」（23.1%）、「住宅が古い」（15.8%）、「耐震対策ができていない」（14.2%）。 「段差が多い」割合は市内で最も高い。</p>	<p>○かかりつけ医がいる割合は 85.2%で市内で最も高い。 ○かかりつけ歯科医がいる割合 70.4%で市内で最も高い。 ○かかりつけ薬局を決めている割合は 71.2%。 ○市で実施している介護予防事業に「参加したことがある」割合は 12.6%で市内で最も高い。“知っている（認知度）”の割合は 45.9%。</p>
地域での活動	地域包括支援センター
<p>○地域づくり活動に対する参加者として「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせた“参加意向あり”は 49.8%。お世話役として“参加意向あり”は 26.8%。 ○高齢者の生きがいにつながると思う行政の取組の上位は「趣味や教養のための講座・教室」（35.5%）、「高齢者が自由に集まり、活動することができる場の提供」（33.8%）、「後期高齢者や独居高齢者等への安否確認などの声かけ」（33.8%）。「趣味や教養のための講座・教室」の割合は市内で2番目に高い。</p>	<p>○「知っているし、利用したことがある」（38.3%）、「知っているが、利用したことはない」（21.5%）を合わせた“知っている（認知度）”の割合は 59.8%で市内で2番目に高い。</p>
	認知症サポーター
	<p>○「知っている」（12.4%）、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（23.1%）を合わせた“知っている（認知度）”の割合は 35.5%で市内で2番目に高い。 「知っている」のみの割合は市内で最も高い。</p>

⑤ 山田・千里丘地域

家族構成	外出
<p>○夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）が40.6%で市内で最も多く、次いで1人暮らしが22.2%、息子・娘との2世帯が19.3%。夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）と息子・娘との2世帯の割合はそれぞれ市内で最も高く、1人暮らしの割合は市内で最も低い。</p>	<p>○外出を控えている割合は34.2%。 ○外出する際の移動手段の上位は「徒歩」（57.1%）、「電車」（34.4%）、「路線バス」（30.2%）。「徒歩」、「路線バス」の割合はそれぞれ市内で2番目に高い。</p>
住まい	健康・介護予防
<p>○持家（集合住宅）が56.1%で最も多く、次いで持家（一戸建て）が25.0%、民間賃貸住宅（集合住宅）が8.0%。持家（集合住宅）の割合は市内で最も高い。 ○住まいの困りごとの上位は、「段差が多い」（17.9%）、「住宅が古い」（12.5%）、「耐震対策ができていない」（11.6%）。 「特に困っていることはない」割合は市内で最も高く44.8%。</p>	<p>○かかりつけ医がいる割合は84.2%で市内で2番目に高い。 ○かかりつけ歯科医がいる割合67.7%。 ○かかりつけ薬局を決めている割合63.7%。 ○市で実施している介護予防事業に「参加したことがある」割合は10.8%で市内で3番目に高い。「知っている（認知度）」の割合は48.5%で市内で最も高い。</p>
地域での活動	地域包括支援センター
<p>○地域づくり活動に対する参加者として「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせた“参加意向あり”は57.4%で市内で最も高い。お世話役として“参加意向あり”は33.3%で市内で最も高い。 ○高齢者の生きがいにつながると思う行政の取組の上位は「高齢者が自由に集まり、活動することができる場の提供」（35.0%）、「趣味や教養のための講座・教室」（35.0%）、「後期高齢者や独居高齢者等への安否確認などの声かけ」（34.2%）。「後期高齢者や独居高齢者等への安否確認などの声かけ」の割合は市内で2番目に高い。</p>	<p>○「知っているし、利用したことがある」（37.5%）、「知っているが、利用したことはない」（21.0%）を合わせた“知っている（認知度）」の割合は58.5%。</p>
	認知症サポーター
	<p>○「知っている」（9.2%）、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（27.1%）を合わせた“知っている（認知度）」の割合は36.3%で市内で最も高い。「知っている」のみの割合は市内で2番目に高い。</p>

⑥ 千里ニュータウン・万博・阪大地域

家族構成	外出
<p>○夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）が35.0%で最も多く、次いで1人暮らしが32.2%、息子・娘との2世帯が16.7%。 1人暮らしの割合は市内で最も高い。</p>	<p>○外出を控えている割合は35.5%。 ○外出する際の移動手段の上位は「徒歩」（56.6%）、「電車」（38.8%）、「路線バス」（33.9%）、次いで「タクシー」（30.2%）。「路線バス」の割合は市内で最も高く、「タクシー」は2番目に高い。</p>
住まい	健康・介護予防
<p>○公営賃貸住宅が48.7%で最も多く、次いで持家（一戸建て）が25.1%、持家（集合住宅）が14.1%。公営賃貸住宅の割合は市内で最も高い。 ○住まいの困りごとの上位は、「住宅が古い」（14.8%）、「段差が多い」（12.1%）、「風呂が使いにくい」（11.5%）。 「風呂が使いにくい」割合は市内で最も高い。</p>	<p>○かかりつけ医がいる割合は83.5%。 ○かかりつけ歯科医がいる割合68.9%で市内で2番目に高い。 ○かかりつけ薬局を決めている割合68.5%。 ○市で実施している介護予防事業に「参加したことがある」割合は12.6%で市内で最も高い。「知っている（認知度）」の割合は48.1%で市内で2番目に高い。</p>
地域での活動	地域包括支援センター
<p>○地域づくり活動に対する参加者として「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」を合わせた“参加意向あり”は46.6%。お世話役として“参加意向あり”は24.4%。 ○高齢者の生きがいにつながると思う行政の取組の上位は「趣味や教養のための講座・教室」（39.3%）、「後期高齢者や独居高齢者等への安否確認などの声かけ」（37.0%）、「高齢者が自由に集まり、活動することができる場の提供」（35.5%）。「趣味や教養のための講座・教室」、「後期高齢者や独居高齢者等への安否確認などの声かけ」の割合はそれぞれ市内で最も高い。</p>	<p>○「知っているし、利用したことがある」（43.6%）、「知っているが、利用したことはない」（19.6%）を合わせた“知っている（認知度）」の割合は63.2%で市内で最も高い。</p>
	認知症サポーター
	<p>○「知っている」（8.4%）、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（26.4%）を合わせた“知っている（認知度）」の割合は34.8%。</p>

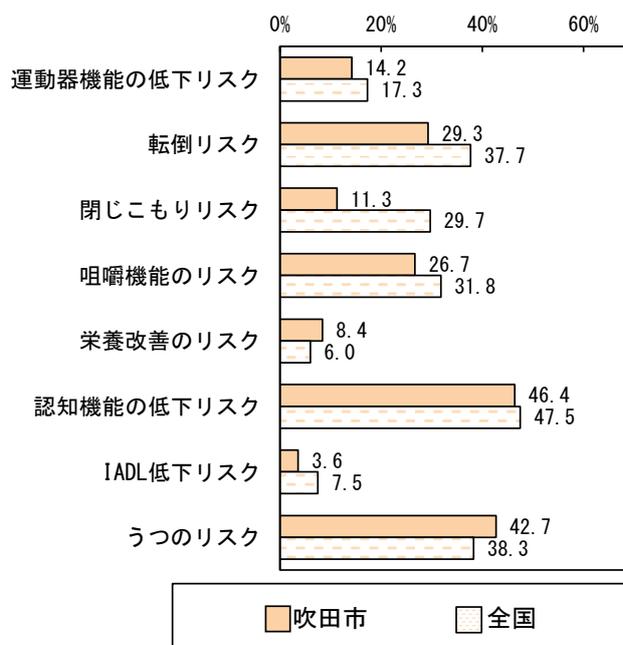
(4) 年齢構成別にみる高齢者の状況（非認定・要支援者のみ）

	非認定・ 要支援者全体 (n=1,567)	65～74歳 (n=550)	75～84歳 (n=634)	85歳以上 (n=335)
階段を手すりや壁をつたわずに昇ることができるし、している	43.4%	63.5%	38.2%	22.7%
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることができるし、している	58.0%	72.5%	55.2%	43.0%
15分ぐらい続けて歩くことができるし、している	69.8%	78.7%	70.8%	55.8%
転んだ経験（過去1年間に転んだ経験が「何度もある」と「1度ある」の和）	39.8%	27.6%	43.7%	51.6%
外出頻度が週1回以下	20.0%	10.9%	21.0%	33.4%
半年前に比べて固いものが食べにくくなった	34.5%	26.2%	37.7%	41.5%
お茶や汁物等をむせることがある	34.5%	25.5%	38.5%	38.8%
口の渇きが気になる	39.5%	35.5%	40.4%	44.5%
自分の歯が20本以上ある (75～84歳の方は「8020達成者」)	48.4%	61.2%	44.3%	35.8%
物忘れが多いと感じる	53.4%	42.4%	56.9%	63.9%
なんらかのグループに参加して自主活動を行っている	65.0%	72.4%	64.8%	54.9%
ボランティアのグループ	10.2%	13.7%	9.3%	4.8%
スポーツ関係のグループやクラブ	20.5%	26.9%	19.7%	12.2%
趣味関係のグループ	28.2%	30.3%	28.5%	25.7%
学習・教養サークル	9.5%	10.3%	9.9%	7.8%
介護予防のための通いの場 (いきいき百歳体操、街かどデイハウス等)	15.2%	6.9%	19.6%	20.6%
集いの場 (ひろばde体操、ふれあい交流サロン等)	6.5%	4.0%	7.6%	9.3%
町内会・自治会	20.2%	22.1%	21.1%	17.3%
収入のある仕事	14.7%	31.7%	7.1%	1.8%
近隣の友人グループ	25.3%	28.0%	26.7%	20.0%
高齢クラブ	10.6%	6.1%	12.3%	15.5%
いきいきした地域づくり活動に参加者として参加意向がある（「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」の和）	49.2%	53.8%	50.3%	41.8%
いきいきした地域づくり活動に企画・運営として参加意向がある（「是非参加したい」「参加してもよい」「既に参加している」の和）	27.0%	29.8%	28.1%	20.6%

(5) 生活機能低下リスクについて

地域包括ケア「見える化」システムに登録した、全国184保険者（令和3年（2021年）1月12日時点）の推計平均値を全国値とし、8つの生活機能の点から本市との比較※を行いました。

多くの項目で全国値を下回っており、特に閉じこもりリスクは18ポイント以上下回っています。一方、栄養改善のリスクとうつのリスクは、全国値を上回っています。



※本指標における数値は、地域間比較を可能にするため、地域包括ケア「見える化」システムにおいて、回答結果を階層別に母集団に割り戻して算出された推計値。

リスクありの判定基準

運動器機能の低下リスク（下記のうち3つ以上該当）

設問	該当する選択肢
階段を手すりや壁をつかわずに昇っていますか	できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ちあがっていますか	できない
15分位続けて歩いていますか	できない
過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある / 1度ある
転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である / やや不安である

転倒リスク（「過去1年間に転んだ経験がありますか」に「何度もある」「1度ある」と回答）

閉じこもりリスク（「週に1回以上は外出していますか」に「ほとんど外出しない」「週1回」と回答）

咀嚼機能の低下リスク（「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」に「はい」と回答）

栄養改善のリスク（BMI = 18.5 以下の場合）

認知機能の低下リスク（「物忘れが多いと感じますか」に「はい」と回答）

IADL（日常生活を送る上で必要な複雑な動作）低下リスク（下記の回答の合計点数が3点以下の場合）

設問	リスクありに該当する選択肢
バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「できる」の場合1点
自分で食品・日用品の買物をしていますか	
自分で食事の用意をしていますか	
自分で請求書の支払いをしていますか	
自分で預貯金の出し入れをしていますか	

うつのリスク（下記のうち1つ以上該当の場合）

設問	該当する選択肢
この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	はい

9 吹田市に65歳以上の方が今、100人いるとしたら…

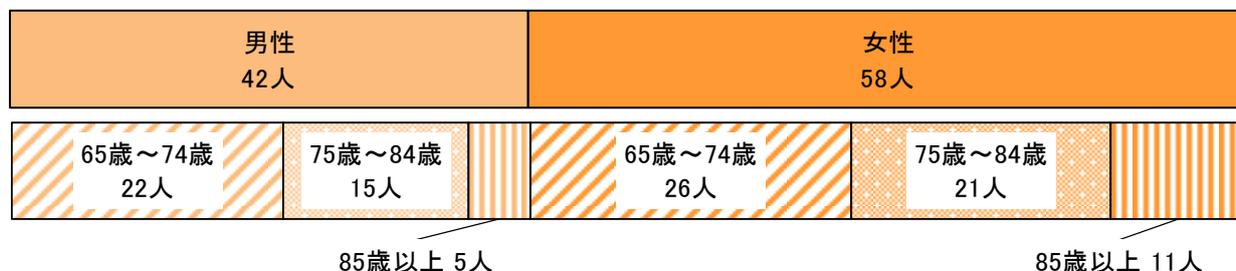
吹田市に65歳以上の方が今、100人いるとしたら…

(実際の65歳以上人口は、令和2年(2020年)9月末現在、89,411人)

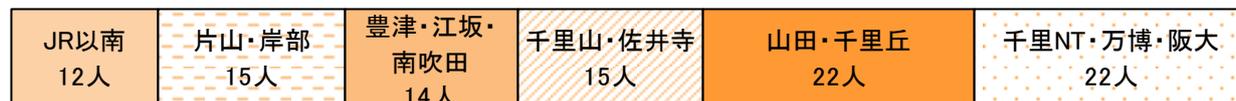
(1) 人口割合 をみると…



(2) 65歳以上の方の 性別 は…



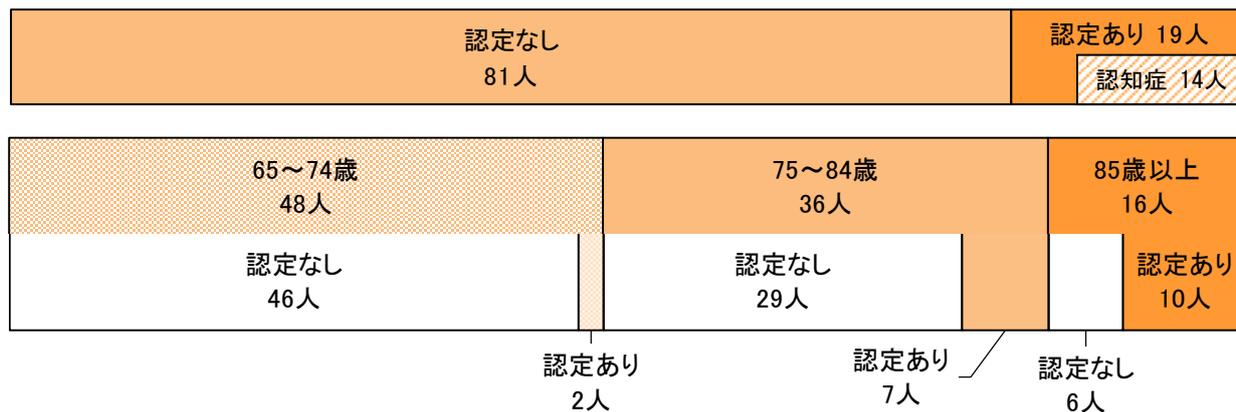
(3) 65歳以上の方を 地域別 にみると…



(4) 65歳以上の方の 地域別の割合 は…



(5) 要支援・要介護の 認定 を受けている人は…



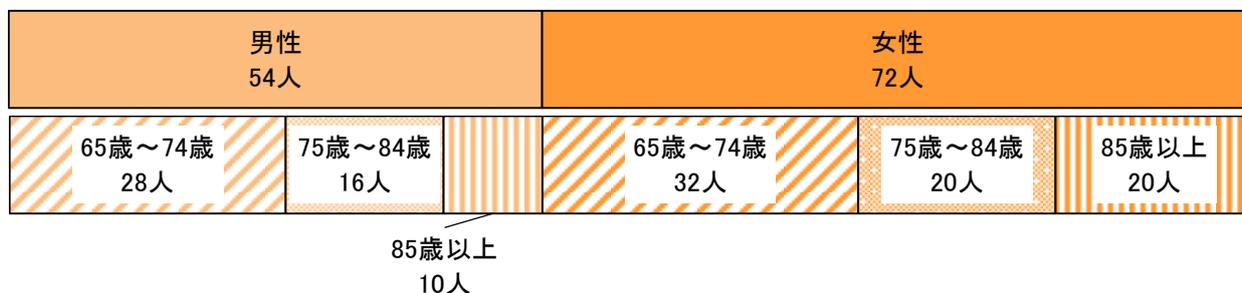
20年後の令和22年(2040年)に126人になりますが…

(人口推計によると、令和22年(2040年)9月末の高齢者人口は、114,018人)

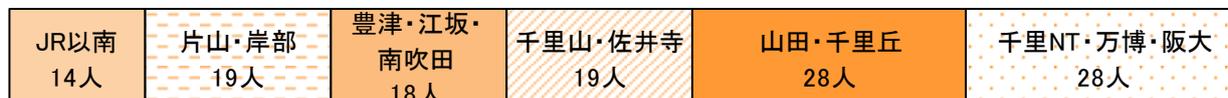
(1) 人口割合 をみると…



(2) 65歳以上の高齢者の 性別 は…



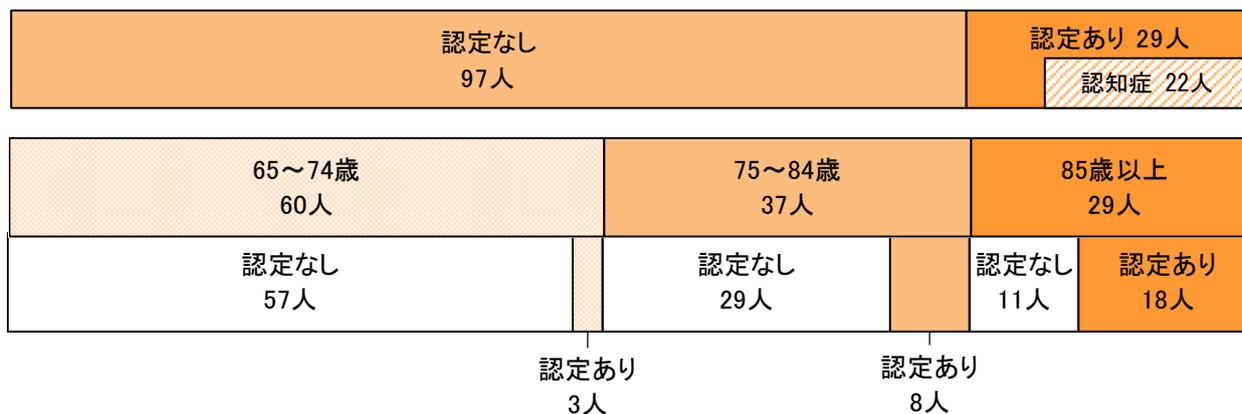
(3) 65歳以上の高齢者を 地域別 にみると…



(4) 65歳以上の高齢者の 地域別の割合 は…



(5) 要支援・要介護の 認定 を受けている人は…



コラム 7

あなたのそばにも… 地域福祉活動に取り組む人たち



100年の歴史 民生委員・児童委員

市内に **499人**



「民生委員制度」は平成29年（2017年）に100周年を迎えました。民生委員・児童委員は、厚生労働大臣に委嘱され、地域住民の立場に立って必要な相談・支援を行うボランティアです。（人数は令和2年（2020年）3月末日現在）地域での見守り活動の他、地域住民が抱える悩みや心配事などの相談に乗り、必要に応じて専門機関や福祉サービスにつなぐ等、誰もが安心して暮らせる地域づくりに向けて取り組んでいます。



住民みんながボランティア

地区福祉委員会

市内に約 **1,650人**



地域で生活している住民が、地区福祉委員として活動しています。

見守り声かけやいきいきサロンなどの活動に取り組み、「住民同士が助け合い、支え合える住みよいまち」をめざしています。

シニア仲間といきいき過ごそう

高齢クラブ

市内に **12,522人**

おおむね60歳の仲間が集まって、いきがづくりや健康づくりに取り組むとともに、社会奉仕活動として、ひとり暮らし高齢者等を訪問する、友愛訪問活動等にも取り組んでいます。（人数は令和2年（2020年）3月末日現在）



その他にも、趣味や特技を生かしたボランティアに取り組む方々など、さまざまな形で地域福祉活動に取り組んでいる方がたくさんおられます。何かできることを、少し始めてみませんか。